

## 地域アクションプランの 平成26年度の追加、拡充、削除項目

---

・安芸地域	.....	1
・物部川地域	.....	61
・高知市地域	.....	67
・嶺北地域	.....	83
・仁淀川地域	.....	103
・高幡地域	.....	123
・幡多地域	.....	161



# 地域アクションプランの追加・削除項目について

## 地域アクションプランの動向

H25年度 236 → H26年度 245 (+9)

地 域	H25年度	H26年度		
	AP数 H25:12時点	追 加	削 除	AP数
安 芸	30	6	▲2 (統合)	34
物部川	24	0	0	24
高知市	32	0	0	32
嶺 北	28	0	0	28
仁淀川	38	0	▲2 (統合)	36
高 幡	42	5	▲1	46
幡 多	42	4	▲1	45
合 計	236	15	▲6	245

# 平成26年度 安芸地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
		10	7	7	5	8	8	6	5	6
1	ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進	●	●	●	●	●	●	●		●
2	ユズを中心とした中山間振興	●	●				●	●	●	
3	ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大			●						
4	「安田(あんだ)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発						●			
5	エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大									●
6	白下糖の生産の拡大と新商品の開発									●
7	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
8	木質バイオマス活用の促進		●							●
9	林業加工品の販売の促進								●	
10	キンメダイのブランド化に向けた取組	●		●	●					
11	水産加工の促進と販路の拡大	●								
12	加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上		●							
13	海洋深層水の利用拡大	●								
14	酒粕等を活用した新商品の開発と販路の拡大					●	●			
15	完全天日塩の生産の拡大と観光への活用					●				
16	キラメッセ室戸「楽市」の機能強化	●								
17	道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等					●				
18	地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化									●
19	安芸地域における広域観光の振興	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20	世界ジオパーク認証を活かした観光の振興	●								
21	イルカのふれあい体験による交流人口の拡大	●								
22	岩崎弥太郎と地域食材を活用した観光の振興		●							
23	スポーツキャンプのまちづくり		●							
24	海の駅を拠点とした地域振興			●						
25	マリンスポーツ体験拠点づくり			●						
26	中芸地区における広域観光の推進				●	●	●	●	●	
27	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大				●	●	●	●	●	
28	体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ～大野台地は、えいところ！～					●				
29	安田中山地区の活性化プロジェクト						●			
30	世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大							●		

【安芸地域】

		室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	No.	改定案(平成26年度)
		9	8	7	7	9	8	7	6	6		
		●	●	●	●	●	●	●		●	1	ナス産地におけるまともりづくりとブランド化の推進
		●	●				●	●	●		2	ユズを中心とした中山間振興
				●							3	ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大
							●				4	「安田(あんだ)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発
									●		5	エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大
①	拡充								●		6	白下糖の生産の拡大と観光への活用
		●		●							7	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化
			●							●	8	木質バイオマス活用の促進
									●		9	林業加工品の販売の促進
→	①	●		●	●	●					10	芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大
			●								11	加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上
		●									12	海洋深層水の利用拡大
	②		●								13	安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進
	①				●						14	地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進
						●					15	田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大
	③					●					16	完全天日塩の生産の拡大と観光への活用
		●									17	キラメッセ室戸「楽市」の機能強化
				●							18	海の駅を拠点とした地域振興
						●					19	道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等
									●		20	地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化
→	②	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21	安芸地域の観光振興の推進 ～東部地域博覧会の開催～
		●									22	世界ジオパーク認証を活かした観光の振興
		●									23	イルカのふれあい体験による交流人口の拡大
	②		●								24	岩崎弥太郎生家を核とした観光振興
	④			●							25	東洋町における体験観光の推進
	③				●						26	藤村製糸を活用した観光振興
					●	●	●	●	●		27	中芸地区における広域観光の推進
	⑤				●	●	●	●	●		28	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大
						●					29	体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ～大野台地は、えいところ！～
								●			30	世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大
	④		●								31	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり
	⑥						●				32	安田中山地区の活性化プロジェクト
	⑤							●			33	北川村温泉を核とした中山間振興
	⑥								●		34	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト



安芸地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進（奈半利町） 【実施主体】奈半利町、なんでも市加工グループ、いちじく加工グループ、加領郷漁協女性部	地域資源を活用した加工品の生産施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を図る。
2	岩崎弥太郎生家を核とした観光振興（安芸市） 【実施主体】安芸市	岩崎弥太郎生家周辺エリア及び土居廊中エリアの磨き上げと安芸観光情報センターの機能の見直しを実施することにより、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。
3	藤村製糸を活用した観光振興（奈半利町） 【実施主体】奈半利町、地元ガイド組織（なはり浦の会）、奈半利町観光文化協会	国の近代化産業遺産に指定された藤村製糸の施設を活用し、交流人口の拡大や文化活動の拡大を図る。
4	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり（安芸市） 【実施主体】東川地域おこし協議会	安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取り組みを通じて、持続可能な集落づくりを目指す。
5	北川村温泉を核とした中山間振興（北川村） 【実施主体】北川村、北川村中部地区集落活動協議会、北川村観光協会	新たな北川村温泉の整備に併せて、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。
6	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト（馬路村） 【実施主体】馬路村、魚梁瀬地区住民	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。

■削除 なし

■その他（拡充、統合、分割）

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	白下糖の生産の拡大と新商品の開発（芸西村） 【実施主体】芸西村、芸西村製糖組合、生産者グループ	【拡充】白下糖の品質向上に向けた施設整備の計画を見直すとともに、東部地域博覧会の開催を視野に、芸西村の観光振興を図るため、白下糖づくりの体験メニューの造成と必要な施設整備の取り組みを追加した拡充を行う。

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
2	<p>キンメダイのブランド化に向けた取組み (室戸市、東洋町、奈半利町) 【実施主体】芸東水産業改良普及協会</p> <p>水産加工の促進と販路の拡大 (室戸市) 【実施主体】(有)タカシン水産、高知県漁協</p>	<p>【統合】キンメダイは、近年、漁獲量や魚価の急変など、取組み目標と現状に変化あることから、室戸市での水産加工の取組みと併せて、鮮魚販売と加工販売の強化を図るため「芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大」として統合する。</p>
3	<p>岩崎弥太郎と地域食材を活用した観光の振興 (安芸市)</p> <p>【実施主体】安芸市、生産団体・グループほか</p>	<p>【拡充】安芸市の食をキーワードにしたプランとし、新たに「人材育成の発掘・育成」を追加してプランに拡充し、プラン名も「安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進」へ変更する。</p> <p>なお、岩崎弥太郎に関連する取組みについては、アクションプラン「岩崎弥太郎生家を核とした観光振興」へ移し替える。</p>
4	<p>完全天日塩の生産の拡大と観光への活用 (田野町)</p> <p>【実施主体】田野町、民間事業者</p>	<p>【拡充】「特産品開発の推進」の取組みをアクションプラン「田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路拡大」へ組み替えるとともに、「新たな就業者のための環境整備」の取組みを追加し拡充する。</p>
5	<p>安芸地域における広域観光の振興 (安芸地域全域)</p> <p>【実施主体】安芸広域市町村圏事務組合、中芸広域連合、市町村、県、観光協会等、地域団体、民間事業者</p> <p>スポーツキャンプのまちづくり (安芸市) 【実施主体】安芸市</p>	<p>【統合・拡充】東部地域博覧会の開催が決定され、その推進組織となる「高知県東部地域博覧会推進協議会」が設立されたことから、同博覧会を中心に据えたプランに修正する。</p> <p>併せて、アクションプラン「スポーツキャンプのまちづくり」を本プランに移し替えるとともに、安芸地域内にある他のスポーツ施設等を追加して、「スポーツによる交流人口の拡大」として位置づける。</p> <p>なお、プラン名を「安芸地域の観光振興の推進 ～東部地域博覧会の開催～」に変更する。</p>
6	<p>マリンスポーツ体験拠点づくり (東洋町)</p> <p>【実施主体】東洋町</p>	<p>【拡充】アクションプラン「海の駅を拠点とした地域振興」の中から「海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発」の取組みを当プランへ組入れるとともに、受入施設の整備検討や既存施設の改良、新施設の整備の検討の取組みを拡充する。また、アクションプラン名を「マリンスポーツ体験拠点づくり」から「東洋町における体験観光の推進」へ変更する。</p>
7	<p>魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)</p> <p>【実施主体】奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸観光協議会、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会</p>	<p>【拡充】平成26年度から本格的に取り組む遺産の保存管理と活用に関する計画づくり、施設整備(修繕中心)や活用の仕組みづくりを「遺産の保存管理・活用計画の策定等」として追加して、拡充する。</p> <p>(文化庁の「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」を導入して実施予定)</p>



NO.	アクションプラン名	見直しする内容
8	<p>安田町中山地区の活性化プロジェクト (安田町)</p> <p>【実施主体】安田町、中山を元気にする会、安田川漁協、自然薯生産組合、味工房じねん、中山合同女性部</p>	<p>【拡充】主な内容の「味工房じねん、せせらぎの郷小川、集落活動センターを核とした交流人口の拡大」へ「集落活動センターの開設、集落活動センター（旧中山小学校）の施設利用計画の具体化、施設整備等」の取組みを加え拡充する。</p>

追加項目(案)

【安芸地域】


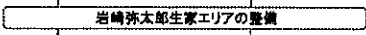
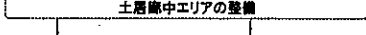

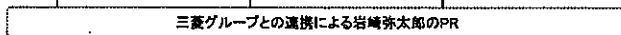

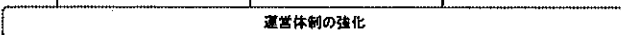
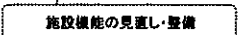

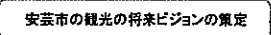
項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進 《奈半利町》	地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。	・奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・いちじく加工品グループ ・加賀郷地区加工グループ			施設整備の検討  加工施設の整備  商品づくり

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	施設整備の検討 加工施設の整備検討	生産体制づくりの検討			H25売上額 農産加工品 :500万円  水産加工品 :150万円	農産加工品 750万円  水産加工品 200万円
		加工施設の整備 農産加工場の設計・建設 水産加工場の設計・建設	農産加工場の施設拡充 水産加工場の施設拡充			
		商品づくり アドバイザーの活用等による新商品開発 販売ルートの開拓				

追加項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
24 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興  《安芸市》	岩崎弥太郎生家エリアや土居郷中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸市</li> <li>・安芸市観光協会</li> <li>・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会</li> <li>・安芸市観光ボランティアガイドの会</li> <li>・民間事業者</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆岩崎弥太郎生家等の観光資源の磨き上げ</li> <li>◆三菱グループとの連携による岩崎弥太郎の顕彰とPR</li> <li>◆安芸観光情報センターの機能強化</li> <li>◆観光ビジョンの策定</li> </ul>

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
		 岩崎弥太郎生家等の観光資源の磨き上げ  岩崎弥太郎生家エリアの整備  土居麻中エリアの整備  三菱グループとの連携による岩崎弥太郎の顕彰とPR  三菱グループとの連携による岩崎弥太郎のPR  安芸観光情報センターの機能強化  運営体制の強化  施設機能の見直し・整備  観光ビジョンの策定  安芸市の観光の将来ビジョンの策定				

追加項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 藤村製糸を活用した観光振興 《奈半利町》	藤村製糸を活かした観光振興をなはり浦の会とともに新しい交流人口の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤村製糸</li> <li>・なはり浦の会</li> <li>・奈半利町</li> <li>・なはり観光文化協会</li> </ul>			観光文化施設(記念館)の整備  ガイド組織の活動強化  地域観光資源の発掘、磨き上げ  情報発信

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					町並みガイド実績 (H24、390人)	施設(記念館) 整備(H26.10 オープン) 1施設  施設来場者 800人/年

追加項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり	安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落のづくりを目指す。	・東川地域おこし協議会			<p>◆地域資源を活用した新商品の開発</p> <p>◆農産物等の販路拡大</p> <p>◆交流人口の拡大と移住促進への取組</p>



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	<p>地域資源を活用した新商品の開発</p> <p>→</p> <p>新商品の試作      商品化      販売促進</p>					
	<p>農産物等の販路拡大</p> <p>→</p> <p>販売ツールづくり      庄先兼荷等による農産物の遠販と集活センターでの直売</p>					
	<p>交流人口の拡大と移住促進の取組</p> <p>→</p> <p>フェイスブック等を通じた情報交換、東川地区ファンづくり、交流イベントの拡充</p> <p>空き家の掘り起こしと施設改修等</p> <p>農業研修生の受け入れ、移住・定住の誘致等</p>					

追加項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取り組みと成果	課題	主な内容
33 北川村温泉を核とした中山間振興 (北川村)	北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。	・北川村 ・北川村中部地区集落活動協議会 ・北川村観光協会			◆温泉施設の整備  ◆情報発信  ◆地域交流活動、集落活動の展開

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
					未掲者 H24 宿泊: 5,463人 入浴: 17,731人	H24年比10%増 (宿泊: 6,000人 入浴: 19,500人)

追加項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	馬路村 魚梁瀬地区住民団体(自治会)			◆集落を支える人づくり  ◆新たな交流拠点の整備  ◆丸山公園等のバージョンアップ

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
		外部人材の導入と住民組織づくり 高知ふるさと応援隊の募集検討 地域住民、小学校、村役場と協同して地域活性化の組織作りとその運営	高知ふるさと応援隊の導入			
		今までにない視点からの交流拠点の実現 土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成	産業振興アドバイザー等を活用して交流拠点のプラン作成。 高知ふるさと応援隊と協同しての活動を開始、施設整備			
		丸山公園等の観光素材の磨き上げ 観光素材としての現況調査	安芸広域博覧会を活用した新たな事業の展開と、その成果を基礎とした活動の実施			

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
10 キンメダイのブランド化に向けた取組 (室戸市、東洋町、奈半利町)  <b>統合前①</b>	将来的に地域ブランドとして確立することを見据え、消費拡大と販売を促進する。	芸東水産業改良普及協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>キンメダイブランド化作業部会設置及び検討(H21~22)</li> <li>脂肪含有量の測定(H21~22)</li> <li>アドバイザーを活用した市場調査(H22)</li> <li>測定キンメを使った料理レシピ等の販促資料の作成(H22)</li> <li>産地交流会への参加(H23)</li> </ul> <p>◆「土佐沖どれ金目鯛」のブランド名で関西市場をメインターゲットとして売り込みを開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西圏を中心としたキンメダイの効果的なPR活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆県内市場及び県外市場の販路拡大</li> <li>◆商品力の維持・向上</li> </ul>
11 水産加工の促進と販路の拡大 (室戸市)  <b>統合前②</b>	高知県内で漁獲される水産物の県内加工を強化し、魚価の安定化と県内における産業としての水産加工業の強化育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>佃タカシ水産</li> <li>高知県漁協</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産加工施設(室戸工場)を整備(シメサバを中心)、操業開始(雇用11名(H21~23))</li> <li>キンメの鮮じめ等サバ以外の魚種での商品開発着手(H22)</li> </ul> <p>◆加工生産技術が向上し、安定した品質と生産量が確保され取引先が順調に増加してきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな魚種を使った商品の開発</li> <li>大口の安定取引先の確保</li> <li>更なる生産性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討</li> <li>◆生産性向上の取組</li> <li>◆商品開発、販売促進活動の実施</li> </ul>



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大 (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町)  <b>統合後</b>	キンメダイや定置漁獲物など、地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>【鮮魚】</li> <li>芸東水産業改良普及協議会</li> <li>【加工品】</li> <li>佃タカシ水産</li> <li>高知県漁協</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キンメダイブランド化作業部会設置及び検討(H21~22)</li> <li>脂肪含有量の測定(H21~22)</li> <li>アドバイザーを活用した市場調査(H22)</li> <li>測定キンメを使った料理レシピ等の販促資料の作成(H22)</li> <li>産地交流会への参加(H23)</li> </ul> <p>◆「土佐沖どれ金目鯛」のブランド名で関西市場をメインターゲットとして売り込みを開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西圏を中心としたキンメダイの効果的なPR活動の実施</li> <li>新たな魚種を使った商品の開発</li> <li>大口の安定取引先の確保</li> <li>更なる生産性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆県内市場及び県外市場の販路拡大</li> <li>◆商品力の維持・向上</li> <li>◆高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討</li> <li>◆生産性向上の取組</li> <li>◆商品開発、販売促進活動の実施</li> </ul>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>県内市場及び県外市場の販路拡大</p> <p>→ 家戸産キンメダイのPRとキンメダイの消費拡大</p> <p>・県産協による直接取引の拡大 ・消費地市場関係者との人的関係を活用した、取引の拡大 ・マリン・エコラベル認証取得を活用した消費拡大活動の推進</p>					平均単価 (H20~22平均: 1,148円/kg)	1,200円/kg
<p>商品力の維持・向上</p> <p>→ 鮮度保持技術の向上 ・規格の統一</p>						
<p>高知県産協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討</p> <p>→ 高知県産協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討、加工品製造販売、販路開拓 ・アドバイザーの招聘による商品開発と販売戦略の検討</p>					加工品販売金額 (H22:4,700万円)	12,000万円
<p>生産性向上の取組</p> <p>→ 加工原料の安定確保に向けた調達方法の検討</p>						
<p>商品開発、販売促進活動の実施</p> <p>→ 大量生産・安定供給可能な看板商品の確立 ・マグロ類の加工促進と販路開拓 ・低利用・未利用の混獲魚を利用した加工品の開発</p>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>県内市場及び県外市場の販路拡大</p> <p>→ 家戸産キンメダイのPRとキンメダイの消費拡大 ・定置漁獲物など地域の主要魚種のPR活動の実施</p> <p>・県産協による直接取引の拡大 ・消費地市場関係者との人的関係を活用した、取引の拡大 ・マリン・エコラベル認証取得を活用した消費拡大活動の推進 ・高鮮度を「売り」としたPR活動の展開</p>					(キンメダイ) 平均単価 (H20~22平均: 1,148円/kg)	1,200円/kg
<p>商品力の維持・向上</p> <p>→ 鮮度保持技術の向上 ・規格の統一 ・活魚出荷や高鮮度処理の要領等による付加価値の向上</p>						
<p>高知県産協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討</p> <p>→ 高知県産協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討、加工品製造販売、販路開拓 ・アドバイザーの招聘による商品開発と販売戦略の検討</p>					加工品販売金額 (H22:4,700万円)	12,000万円
<p>生産性向上の取組</p> <p>→ 加工原料の安定確保に向けた調達方法の検討</p>						
<p>商品開発、販売促進活動の実施</p> <p>→ 大量生産・安定供給可能な看板商品の確立 ・マグロ類の加工促進と販路開拓 ・低利用・未利用の混獲魚を利用した加工品の開発 ・有賞資質の見直しによる、新たな商品の開発 ・観光と連携した地元産品メニュー創出のための商品開発</p>						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
19 安芸地域における広域観光の振興 (安芸地域全域)	地域内にある観光資源をさらに磨き上げながら、地域内で一泊以上滞在できる周遊観光や教育旅行に取り組み、安芸地域全体の経済の活性化と雇用の増づくりを推進する。また、安芸地域の広域的な連携の強化に向けて、さらには東部周遊観光の商品化の推進を図るために地域博覧会を開催する。	・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成(500枚) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6~)  ◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつなげている。	・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成 ・体験メニューの充実と人材育成	◆安芸地域における地域博覧会の開催  ◆観光協会の機能強化と広域観光組織の立上げ  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆周遊観光や教育旅行の商品づくりと観光拠点の磨き上げ  ◆受入体制の整備
<b>統合前①</b>					
23 スポーツキャンプのまちづくり (安芸市)	タイガースキャンプの存続のみならず、社会人や大学などのノンプロ野球部のキャンプ誘致、特に龍馬伝を機に、三菱グループへの働き掛けなど、スポーツキャンプのまちづくりを推進する。	・安芸市	・キャンプ誘致活動(H21~23) ・改修基本設計(H23) ◆キャンプ・合宿環境の向上により、関西の大学・高校の合宿が行われるようになっている。	・改修基本設計に基づく計画的な改修	◆施設(球場等)の改修  ◆社会人や大学等に対するプロモーション活動  ◆プロ野球のオープン戦招致への取組
<b>統合前②</b>					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 安芸地域の観光振興の推進 ~東部地域博覧会の開催~ (安芸地域全域)	安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを安芸に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて、地域博覧会により磨き上げられた広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション組織や地域コーディネート機能を担う組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。	・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 ・高知県東部地域博覧会推進協議会	・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェントセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.6~6関西)  ◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつなげている。	・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成 ・体験メニューの充実と人材育成	◆安芸地域における地域博覧会の開催  ◆広域観光組織の立上げと観光協会等の機能強化  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ  ◆受入体制の整備
<b>統合後</b>					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	安芸地域における地域観光協会の設置				国内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 国内宿泊者数 (H22:137,439人)	140,000人
	地域観光協会の運営と開催					150,000人
	観光協会の機能強化と広域観光路線の立上げ					
	観光協会の機能強化と広域観光路線の立上げ					
	戦略的な広報・PR活動の展開					
	旅行エージェント等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化					
	関連観光や教育旅行の商品づくりと観光拠点等の働き上げ					
	1泊2日を中心とした周遊ルートづくりと観光拠点等の働き上げ <宮戸・東洋エリア> 宮戸ジオパーク、生見・白浜海岸・宮長川町並みなど <中芸エリア> モノの館・島原道徳林鉄道遺産、中興神社館、宗平利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、庵漬食わず具など <安芸・芸西エリア> 岩崎勢太郎生家、野良時計、等が深など					
	教育旅行商品づくりと体験プログラムの働き上げ					
	受入体制の整備					
	民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備					
	施設(球場等)の改修					
	球場施設の計画的改修					
	社会人や大学等に対するプロモーション活動					
	オープン観、練習試合招致への取組					
	プロ野球のオープン観招致への取組					
	社会人や大学等に対するプロモーション活動					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	安芸地域における地域観光協会の設置				国内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 国内宿泊者数 (H22:137,439人)	140,000人
	観光協会推進協議会の立上げ	観光協会推進協議会による運営				150,000人
	基本計画の策定	実施計画の策定	プロモーションの策定	観光協会の開催		
	広域観光路線の立上げと観光協会等の機能強化				国内観光施設、イベント等集客数(東郷地域観光協会の開催に因り17万高麗数値) (平成24年度 171,174人)	国内観光施設、イベント等集客数(東郷地域観光協会による日量数値) (1810,250人)
	広域観光路線の立上げ及び仕制強化					
	観光協会等の機能強化					
	戦略的な広報・PR活動の展開					
	旅行エージェント等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化					
	関連観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の働き上げ					
	観光拠点等の働き上げ <宮戸・東洋エリア> 宮戸ジオパーク、生見・白浜海岸・宮長川町並みなど <中芸エリア> モノの館・島原道徳林鉄道遺産、中興神社館、宗平利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、庵漬食わず具、 道づくり体験ハウス、農具展示館など <安芸・芸西エリア> 岩崎勢太郎生家、土居庵中、野良時計、伝承館、等々深など					
	教育旅行商品づくりと体験プログラムの働き上げ					
	地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や全庁等の誘致と施設整備(安芸市宮球場・中芸広域体育館・宮戸広域公園・安芸広域公園など)					
	受入体制の整備					
	民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備					

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
6 白下糖の生産の拡大と 新商品の開発 《芸西村》	伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化(認知度アップ)と地域生産者の所得向上を目指す。	・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆サトウキビ作付け面積の拡大</li> <li>◆技術を継承する人材の育成</li> <li>◆白下糖の品質向上</li> <li>◆新たな商品の企画開発</li> </ul>
修正前					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
6 白下糖の生産の拡大と 観光への活用 《芸西村》	伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化(認知度アップ)と地域生産者の所得向上を目指す。	・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>-先遣地視察(H23、高瀬町;黒糖新製造ライン視察、H24、香川県;肥後産調査)</li> <li>-白下糖を使用した料理の試食会(H23、安芸地域資源活用共有会議)</li> <li>-芸西村地域AP産業推進連絡会議開催(H24、5回)</li> <li>-芸西白下糖の成分分析実施(H23)</li> <li>◆サトウキビ収穫量の増加(H23年度、25トン、H24年度、38トン(前年比120%))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者(後継者)の育成</li> <li>-白下糖を活用した新商品・加工品の開発</li> <li>-サトウキビ作付け面積の拡大</li> <li>-製造施設の増設強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆サトウキビ作付け面積の拡大</li> <li>◆技術を継承する人材の育成</li> <li>◆白下糖の品質向上</li> <li>◆新たな商品の企画開発</li> <li>◆白下糖を活用した体験観光メニューの検討</li> </ul>
修正後					

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
サトウキビ作付け面積の拡大					→	サトウキビ収穫量 (H22:20t)	40t
遊休農地の有効活用							
技術を継承する人材の育成					→		
人材の確保	製造技術の習得、その他関連する研修等への参加						
白下糖の品質向上					→		
味で勝負するための製品づくり ・成分分析による他との区別 ・アドバイザーの導入 他		新しい加工ラインの検討		施設整備			
新たな商品の企画開発					→		
地域資源共有会議等を 活用した新商品の検討	新商品の開発・販売開始						



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
サトウキビ作付け面積の拡大					→	サトウキビ収穫量 (H22:20t)	40t
遊休農地の有効活用・新規生産者の確保							
技術を継承する人材の育成					→		
人材の確保	製造技術の習得、その他関連する研修等への参加						
白下糖の品質向上					→		
味で勝負するための製品づくり ・成分分析による他との区別 ・アドバイザーの導入 他							
新たな商品の企画開発					→		
地域資源共有会議等を 活用した新商品の検討	新商品の開発・販売開始						
白下糖を活用した体験観光メニューの検討					→		
体験メニュー受入のための 伝承館の改修の検討・改修							
体験観光メニューの検討			体験観光受入れ				

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
22 岩崎弥太郎と地域食材を活用した観光の振興 《安芸市》	「岩崎弥太郎」をより一層売り出しながら、また安芸の安心・安全な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸市</li> <li>・生産団体・グループ</li> <li>・民間事業者・加工業者</li> <li>・安芸市観光協会</li> <li>・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会</li> <li>・安芸「釜あげちりめん井」業会</li> <li>・安芸市観光ボランティアガイドの会</li> <li>・JA土佐あき婦人部</li> <li>・入河内大根のこそう会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアガイドの育成(40名)(H21~H23)</li> <li>・新たな特産品の開発(8品目)(H21~H23)</li> <li>・ころざし社中入場者(H22目標100千人→実績113千人)</li> <li>・安芸観光情報センターの設置(H23.3)</li> <li>◆ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきた。地域食材を活かした(ナス、シラス)食の提供の動きにつながってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩崎弥太郎を活かした取組の強化</li> <li>・地域食材を活用した加工品の開発と販売</li> <li>・食の提供の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆岩崎弥太郎の顕彰とPR(三菱グループとの連携強化)</li> <li>◆地域食材の売出しと素材を活用した加工品の開発・販売拡大</li> <li>◆B級グルメ大会等でのPR活動</li> <li>◆地域食材を提供する施設の検討・整備</li> <li>◆生産体制の強化及び生産施設の充実</li> </ul>

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
岩崎弥太郎の顕彰とPR (三菱グループとの連携強化)						
三菱グループとの連携による岩崎弥太郎生家等の観光拠点と安芸の食材とを組合せたツアー等の実施						
地域食材の売出しと素材を活用した加工品の開発・販売拡大						
ナス・ユズ・土佐ジローなどを活用した新たな加工品の開発・販売 販路拡大 情報発信						
<ul style="list-style-type: none"> <li>釜あげちりめん丼をはじめとする地域食材活用商品のブラッシュアップ</li> <li>提供店舗の拡大・広報・営業活動</li> </ul>						
B級グルメ大会等でのPR活動						
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体を横断した地域食材に関する検討</li> <li>地域食材を活用したメニュー・料理コンテストの実</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外に向けた情報発信</li> <li>各種大会への参加体制の強化</li> </ul>						
地域食材を提供する施設の検討・整備						
安芸の地域食材を提供する施設(レストラン等)の検討及び整備						
生産体制の強化及び生産施設の充実						
地域食材を活用した生産体制の強化に関する検討及び整備(加工場の規模拡大、冷凍庫等の整備 他)						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大						
ナス・ユズ・土佐ジロー・シラスなどを活用した新たな加工品の開発・販売						
<ul style="list-style-type: none"> <li>販路拡大(商談会等の活用)</li> <li>情報発信(B級グルメ大会等でのPR活動や地域食材を活用した料理コンテストの開催)</li> </ul>						
生産施設や飲食設備の整備						
生産拡大に伴う施設・設備等の整備						
安芸の地域食材を提供する施設(レストラン等)の検討及び整備						
人材の発掘と育成等						
土佐MBA・土佐FRCを活用した育成等						
企業訪問や商工会議所女性部・中小企業家同友会安芸支部等と連携しての人材発掘						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
塩づくり施設の整備				→	体験受入回数 (H23:50回)	100回
体験交流・研修施設の検討・整備						
塩づくり体験を取り入れた観光メニューの作成及び実施体制の確立				→	生産量 (H23:2t)	6t
新規就業者の育成						
新規就業者の確保・研修・育成				→		
製塩ハウスの整備						
完全土日塩の生産組織体制づくり				→		
特産品開発の推進						
特産品づくりの検討				→		
具体的な特産品づくりと販売						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
塩づくり体験・研修施設の整備				→	体験受入回数 (H23:50回)	100回
体験交流・研修施設の検討・整備						
塩づくり体験を取り入れた観光メニューの作成及び実施体制の確立				→	生産量 (H23:2t)	6t
新規就業者の育成						
新規就業者の確保・研修・育成				→		
新規就業者の独立に向けた環境整備						
関係者間の協議・調整				→		
施設等の整備及び運営の検討						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
19 安芸地域における広域観光の振興 【安芸地域全域】	地域内にある観光資源をさらに磨き上げながら、地域内で一泊以上滞在できる周遊観光や教育旅行に取り組むことにより、安芸地域全体の経済の活性化と雇用の場づくりを推進する。 また、安芸地域の広域的な連携の強化に向けて、さらには東部周遊観光の商品化の推進を図るために地域博覧会を開催する。	・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成(H21 500枚) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6~)  ◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつなげている。	・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成  ・体験メニューの充実と人材育成	◆安芸地域における地域博覧会の開催  ◆観光協会の機能強化と広域観光組織の立上げ  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆周遊観光や教育旅行の商品づくりと観光拠点の磨き上げ  ◆受入体制の整備

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 安芸地域の観光振興の推進 ~東部地域博覧会の開催~ 【安芸地域全域】	安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。 併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション組織や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会における広域観光の推進体制を整備する。	・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 ・高知県東部地域博覧会推進協議会	・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1名雇用(H22.6~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェントセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~8関西)  ◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつなげている。	・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成  ・体験メニューの充実と人材育成	◆安芸地域における地域博覧会の開催  ◆広域観光組織の立上げと観光協会等の機能強化  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ太金等の誘致と観光拠点等の磨き上げ  ◆受入体制の整備

修正後



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
	<p>安芸地域における地域博覧会の開催</p> <p>地域博覧会の準備と開催</p>				<p>国内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 国内宿泊者数 (H22:137,439人)</p>	<p>140,000人 150,000人</p>	
観光協会の機能強化と広域観光組織の立上げ							
観光協会の機能強化と広域観光組織の立上げ							
<p>戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>旅行エージェンツ等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化</p>							
<p>周遊観光や教育旅行の商品づくりと観光拠点等の磨き上げ</p> <p>1泊2日を中心とした周遊ルートづくりと観光拠点等の磨き上げ          &lt;東戸・東洋エリア&gt; 東戸ジオパーク、生見・白浜海岸・吉良川町並みなど          &lt;中芸エリア&gt; モネの庭・魚沼湖森林鉄道遺産、中岡慎太郎館、奈半利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝など          &lt;安芸・芸西エリア&gt; 岩崎弥太郎生家、野良時計、等が浜など</p>							
教育旅行商品づくりと体験プログラムの磨き上げ							
<p>受入体制の整備</p> <p>民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備</p>							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
	<p>安芸地域における地域博覧会の開催</p> <p>博覧会推進協議会の立上げ</p> <p>博覧会推進協議会による運営</p> <p>基本計画の策定</p> <p>実施計画の策定</p> <p>博覧会の実施</p> <p>博覧会の開催</p>				<p>国内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 国内宿泊者数 (H22:137,439人)</p>	<p>140,000人 150,000人</p>	
<p>広域観光組織の立上げと観光協会等の機能強化</p> <p>広域観光組織の立上げ及び体制強化</p>							
観光協会等の機能強化							
<p>戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>旅行エージェンツ等への戦略的な広報活動の展開及び観光情報の発信強化</p>							
<p>周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ</p> <p>観光拠点等の磨き上げ          &lt;東戸・東洋エリア&gt; 東戸ジオパーク、生見・白浜海岸・吉良川町並みなど          &lt;中芸エリア&gt; モネの庭・魚沼湖森林鉄道遺産、中岡慎太郎館、奈半利海浜センター、安田まちなみ交流館・和、唐浜食わず貝、          旗づくり体験ハウス、農村歴史など          &lt;安芸・芸西エリア&gt; 岩崎弥太郎生家、土居郷中、野良時計、伝承館、琴ヶ浜など</p>							
教育旅行商品づくりと体験プログラムの磨き上げ							
地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備(安芸市営球場・中芸広域体育館・東戸広域公園・安芸広域公園など)							
<p>受入体制の整備</p> <p>民泊の推進や人材の養成など受入体制の整備</p>							

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
25 マリンスポーツ体験拠点づくり 《東洋町》	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツの体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受け入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・観光振興協会			◆マリンスポーツ体験プログラムの開発   ◆既存施設の改良   ◆備品の整備   ◆宣伝・広報

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
25 東洋町における体験観光の推進 《東洋町》	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受け入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・観光振興協会	・海の駅運営委員会の設置及び協議(H23) ・H25、町観光関係予算化 ・観光振興助金(50万円) ・新商品開発事業費補助金(50万円)  ◆実行支援チーム会などでの協議や整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の進捗につながった。	・県外事業者によるダイビングスクールの開催 ・地元事業者(サーフショップ等)との協議  ・既存施設の財産処分(改修)に係る関係機関との調整	◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発      ◆受け入れ施設の整備   ◆備品の整備   ◆宣伝・広報

修正後

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
マリンスポーツ体験プログラムの開発							
観光団体との協力体制の構築	プログラムの作成	体験プログラムの実施・追加					
既存施設の改良							
既存施設の改良の検討	既存施設の改良						
備品の整備							
備品の検討	備品の整備						
宣伝・広報							
	ホームページの設計、開設						



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発							
体験観光プログラムの検討		体験観光プログラムの開発・実施					
観光団体との協力体制の構築	観光資源の掘り起こし						
		海の駅の観光情報コーナーにおいて体験観光プログラムの紹介					
受け入れ施設の整備							
既存施設の改良の検討	既存施設の改良		新施設整備の検討				
備品の整備							
備品の検討	備品の整備						
宣伝・広報							
	ホームページの設計、開設						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》  修正前	森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23) ・観光用ビデオの作成(H22) ・開通100周年事業の実施(H23) ・ガイドの育成14名(H21~22) ◆東部地域の新しい観光素材として旅行会社の注目度が高く、ツアーが催行される。	・5カ町村広域の窓口の設置 ・ガイド、食事、宿泊等受入体制の強化 ・100周年記念事業を契機とした更なる情報発信	◆遺産の活用と普及啓発活動  ◆遺産に関する調査・保存への取組



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》  修正後	森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸観光協議会 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23) ・観光用ビデオの作成(H22) ・開通100周年事業の実施(H23~H24) ・ガイドの育成14名(H21~22) ◆東部地域の新しい観光素材として旅行会社の注目度が高く、ツアーが催行される。	・5カ町村広域の窓口の設置 ・ガイド、食事、宿泊等受入体制の強化 ・100周年記念事業を契機とした更なる情報発信	◆遺産の活用と普及啓発活動  ◆遺産に関する調査・保存への取組  ◆遺産の保存管理・活用計画の策定

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
遺産の活用と普及啓発活動					→	ツアー客数 (H22:1,171人)	1,500人
100周年イベントの開催	遺産ウォーク等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動						
遺産に関する調査・保存への取組					→		
支線調査活動	遺産の保存活動(修繕・美化活動など)						



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
遺産の活用と普及啓発活動					→	ツアー客数 (H22:1,171人)	1,500人
100周年イベントの開催	遺産ウォーク等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動						
遺産に関する調査・保存への取組					→		
支線調査活動	遺産の保存活動(修繕・美化活動など)						
	遺産の保存管理・活用計画の策定				→		
	関係者間の調整	旧奥釜瀬森林鉄道遺産の保存管理・活用計画の策定		計画に基づく施設整備等、 景観と活用を支える仕組みづくり			

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
29 安田町中山地区の活性化プロジェクト 《安田町》	地区住民主体で「中山元気プラン(仮称)」の策定を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。	・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部			◆「中山元気プラン(仮称)」の策定 ◆味工房じねん、せせらぎの郷小川を核とした交流人口の拡大  ◆中山自然薯のブランド化  ◆新たな観光資源の発掘～森林セラピーロードへの取組～
修正前					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
32 安田中山地区の活性化プロジェクト 《安田町》	地区住民主体で「中山元気プラン(仮称)」の策定を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。	・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部	・集落活動センター「なかやま」の開設(H24.4月) ・中山を元気にする会運営会開催(H24) ・高知大学・安田町連携事業協議会設置(H24) ・旧中山小学校(集落活動センター)の耐震診断(H24) ・安田ふるさと応援隊(地域おこし協力隊員:1名採用)による運営支援の継続(H25) ・集落調査員2名の採用(H25)  ◆ふるさと応援隊員の活動を通して地域住民の参加意識が醸成された。	・集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用	◆「中山元気プラン(仮称)」の策定 ◆味工房じねん、せせらぎの郷小川、集落活動センターを核とした交流人口の拡大  ◆中山自然薯のブランド化  ◆新たな観光資源の発掘
修正後					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
「中山元気プラン(仮称)」の策定  プランの検討と策定	味工房じねん、せせらぎの郷小川等を核とした交流人口拡大  安田川アユおどる清流キャンプ場や旧中山小中学校跡など中山地区にある資源の磨き上げなど  味工房じねんやせせらぎの郷小川など中山地区の地域拠点を活用した交流人口拡大に向けた取組					
	中山自然薯のブランド化 市場調査、地域資源調査、ブランド化の検討等 生産農家拡大、生産組合の体制整備、販路開拓等  生産拡大と加工品の開発・販売					
新たな観光資源の発掘～森林セラピーロードへの取組～						
森林セラピーに関する調査研究	認定に向けた具体的な取組		森林セラピー基地・セラピーロードの運営開始			



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
「中山元気プラン(仮称)」の策定  プランの検討と策定	味工房じねん、せせらぎの郷小川、集落活動センター等を核とした交流人口拡大  安田川アユおどる清流キャンプ場や旧中山小中学校跡など中山地区にある資源の磨き上げなど  味工房じねんやせせらぎの郷小川など中山地区の地域拠点を活用した交流人口拡大に向けた取組  集落活動センターの開設 集落活動センターを核とした旧中山小中学校の施設利用案の具体化と施設整備					
	中山自然薯のブランド化 市場調査、地域資源調査、ブランド化の検討等 生産農家拡大、生産組合の体制整備、販路開拓等  生産拡大と加工品の開発・販売					
新たな観光資源の発掘						
森林セラピー等に関する調査研究	東部広域連立金を契機にした展開			継続的な活用		

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
2 ユズを中心とした中山間振興 (彦根市、安芸市、安田町、北川村、馬路村)	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA土佐あき</li> <li>JA馬路村</li> <li>JA土佐あき</li> <li>JA馬路村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新植、改植の推進への取組(H21~23)</li> <li>◆果選抜システムを活用した母樹園が設置された。(安芸:東川・畑山、北川)</li> <li>将来にわたってユズ園を管理する仕組みづくりへの取組(H21~23)</li> <li>◆集落営農組織及び農作業受委託組織を3組織育成できた。</li> <li>(JA土佐あき)</li> <li>加工施設等の導入(H21.10)</li> <li>◆JA土佐あき北川支所の搾汁施設の高度化が行われ、H21は過去にない量作で販売に苦慮したが販路開拓により飲料企業との取引が拡大している。</li> <li>(JA馬路村)</li> <li>ユズ茶加工施設導入(H21)</li> <li>◆JA馬路村がゆず茶の加工施設を導入し、販売実績が徐々にではあるが増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青果出荷へのシフト</li> <li>-隔年結果及び品質低下対策</li> <li>-母樹園を活用した優良系統の普及</li> <li>新たな仕組みづくり</li> <li>-ユズ銀行に代わる新たな労働補完体制の検討(北川村)</li> <li>-(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討(馬路村)</li> <li>(JA土佐あき)</li> <li>-H21大量作による果汁販売の苦戦、生産者単価の低下</li> <li>(JA馬路村)</li> <li>-H21大量作による果汁販売の苦戦</li> <li>-加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新植、改植の推進</li> <li>◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</li> <li>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</li> </ul>

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果		主な内容
			取組み	課題	
2 ユズを中心とした中山間振興 (彦根市、安芸市、安田町、北川村、馬路村)	日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA土佐あき</li> <li>JA馬路村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(JA土佐あき)</li> <li>新植、改植の推進への取組(H21~25)</li> <li>◆果選抜システムを活用した母樹園が設置された(H22)</li> <li>-果汁の販売対策として計画的な施設整備(北川村:H21:搾汁施設、H24:果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームの設立(H24)。</li> <li>◆EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H24:3t、H25:3t)</li> <li>◆消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)実施(H24-H25)</li> <li>-将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</li> <li>◆北川村ゆず振興協議会で作業受託組織を検討することとなった。(H24~)</li> <li>(JA馬路村)</li> <li>-ユズ茶(H21)及び化粧品(H22)の加工施設の導入</li> <li>◆加工品の販売実績が徐々にではあるが増加している。</li> <li>◆販売拡大に向けて新商品開発を進めた(H24:シャーベット2種、ポン酢1種)</li> <li>◆消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)実施(H18~)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(JA土佐あき)</li> <li>-青果出荷へのシフト</li> <li>-隔年結果及び品質低下対策</li> <li>-母樹園を活用した優良系統の普及</li> <li>-ユズ銀行(作業受託組織H23末解散)に代わる新たな労働補完体制の検討</li> <li>(JA馬路)</li> <li>-(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討</li> <li>-加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新植、改植の推進</li> <li>◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり</li> <li>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</li> </ul>

修正後



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
新種、改種の推進 青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化 検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底 母樹を活用した苗木確保と計画的な改種・新種の推進 適正栽培管理の指導 母樹園管理規定等の仕組みづくり					青果出荷受入量 (H22:297t) (H23:370t)	400t
将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり 新たな組織の検討(北川村、馬路村) 農作業受託組織、作業班体制等による作業請負の仕組み作りに向けた検討(組織等の設立) 組織等の育成及び円滑な運営支援					作業受託等の新たな組織作り	北川村1組織 馬路村1組織
ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・(JA土佐あき)栽培基本技術向上による加工用A品果皮の出荷拡大 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・加工ニーズに対応した果汁殺菌施設の導入と施設を活かした販路開拓 ・高知県食品衛生管理認証制度への取組 ・果汁一元化販売に向けた体制整備 ・ユズ協事案との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出販売の拡大。(シンガポール、北米、EU等) (JA馬路村) 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組					加工仕向量 (H22:4,250t) 加工用果皮の出来高量 安芸:A品・B品 (H23:631t) 北川:A品・B品 (H23:31t)	4,670t (10%アップ) 安芸 1,000t 北川 80t
					JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶 (H21:0.8億円) 化粧品 (H21:1,700万円) ボン酢他ユズ加工品 (H21:20億円)	1.6億円 5,200万円 20.7億円



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
新種、改種の推進 青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化 検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底 母樹を活用した苗木確保と計画的な改種・新種の推進 適正栽培管理の指導 母樹園管理規定等の仕組みづくり					青果出荷受入量 (H22:297t) (H23:370t)	400t
将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり 新たな組織の検討(北川村、馬路村) 農作業受託組織、作業班体制等による作業請負の仕組み作りに向けた検討(組織等の設立) 組織等の育成及び円滑な運営支援					作業受託等の新たな組織作り	北川村1組織 馬路村1組織
ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・(JA土佐あき)栽培基本技術向上による加工用A品果皮の出荷拡大 ・大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 ・加工ニーズに対応した果汁殺菌施設の導入と施設を活かした販路開拓 ・高知県食品衛生管理認証制度への取組 ・果汁一元化販売に向けた体制整備 ・ユズ協事案との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出販売の拡大(シンガポール、北米、EU等) (JA馬路村) 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組					加工仕向量 (H22:4,250t) 加工用果皮の出来高量 安芸:A品・B品 (H23:631t) 北川:A品・B品 (H23:31t)	4,670t (10%アップ) 安芸 1,000t 北川 80t
					JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶 (H21:0.8億円) 化粧品 (H21:1,700万円) ボン酢他ユズ加工品 (H21:20億円)	1.6億円 5,200万円 20.7億円

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。	・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋町共同窯3基設置(H21~22)</li> <li>室戸市研修窯3基設置(H21~22)</li> <li>市場調査(H21)</li> <li>勉強会の開催4回(H22)</li> <li>◆製炭量については、目標の800tに対し846t。新規生産者の受け入れも順調にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原木の確保</li> <li>・更なる品質の向上と規格の均一化</li> <li>・研修終了後の研修生の就業定着化(就業条件の確保)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>《室戸市木炭振興会》 《土佐備長炭生産組合》</li> <li>◆新規製炭者の育成</li> <li>◆品質・規格の向上と新商品開発ほか</li> <li>《室戸市木炭振興会》 ◆共同出荷・販売の取組</li> <li>《土佐備長炭生産組合》 ◆原木配給施設設置</li> </ul>

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。	・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>(室戸市木炭振興会)</li> <li>・組織化:H19設立</li> <li>・施設等整備(H21:研修窯2基、H22:研修窯1基)</li> <li>・研修生の受入れ(H21:3人、H22:5人、H23:7人、H24:12人)</li> <li>◆施設整備により、研修生の継続した受入れにつながっている。</li> <li>(土佐備長炭生産組合)</li> <li>・組織化:H21設立</li> <li>・施設等整備(H21:共同窯2基、H22:共同窯1基、保管庫1棟、H25:共同窯3基、フォークリフト1台)</li> <li>・研修生の受入れ(H21:3人、H22:2人、H23:4人、H24:4人)</li> <li>・新商品(オガ炭)製造の検討(H25)</li> <li>◆原木の共同購入、共同出荷の開始(H21~)により、生産性が向上した。</li> <li>◆施設整備により月産出荷能力(箱=12kg)が増加した。(H21:2,150箱、H22:3,425箱、H23:3,548箱、H24:3,670箱)</li> <li>◆製品規格を10種から19種へ拡げ、末端利用者のニーズに対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木の安定確保</li> <li>・更なる品質の向上と規格の均一化</li> <li>・研修終了後の就業定着化(事業化時の初期投資(窯整備)が不安)</li> <li>(土佐備長炭生産組合)</li> <li>・品質の評価や知名度も高まりつつあるが、紀州産との価格差が解消されていない。</li> <li>(室戸市木炭振興会)</li> <li>・原木の共同購入・共同出荷の取組がなされていないため、際立った増産には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>《室戸市木炭振興会》 《土佐備長炭生産組合》</li> <li>◆新規製炭者の育成と量産体制の強化</li> <li>◆品質・規格の向上と新商品開発ほか</li> <li>《室戸市木炭振興会》 ◆共同出荷・販売の取組</li> <li>《土佐備長炭生産組合》 ◆原木配給施設設置</li> </ul>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新規製炭者の育成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">研修生の受け入れ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">後継者自立用共同窯の設置</div>					新規就労者確保 共同窯設置 生産量の増産	就労者 5名 4基 30t/年
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">品質・規格の向上と新商品開発ほか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">アドバイザーの招聘、勉強会の開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">販促用DVD・取扱解説チラシ作製・看板設置・県内外イベントへの参加</div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">共同出荷・販売の取組(室戸市木炭振興会)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">原木の共同調達、製品の共同出荷・販売の取組</div>					原木配給施設	1箇所
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">原木配給施設設置(土佐備長炭生産組合)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">原木配給ストックヤードの設置</div>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新規製炭者の育成と量産体制の強化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">研修生の受け入れ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">共同窯の設置</div>					新規就労者確保 共同窯設置 生産量の増産	就労者 5名 6基 30t/年/基
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">品質・規格の向上と新商品開発ほか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">アドバイザーの招聘、勉強会の開催</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">販促用DVD・取扱解説チラシ作製・看板設置・県内外イベントへの参加</div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">共同出荷・販売の取組(室戸市木炭振興会)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">原木の共同調達、製品の共同出荷・販売の取組</div>					原木配給施設	1箇所
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">原木配給施設設置(土佐備長炭生産組合)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">原木配給ストックヤードの設置</div>						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
13 海洋深層水の利用拡大 《室戸市》	室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。 室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客へのPRを行う。 スジアオノリの増産試験及び施設拡大の検討を行うとともに、販路拡大、商品開発に取り組む。 また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。	・室戸市 ・高知県漁協(高岡支所)	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント、講演等での深層水のPR(H21~23)</li> <li>・供給地域の拡大のための制度策定までには至らなかったが、今後も協議を続けていくことを確認した。</li> </ul> <p>&lt;企業、研究機関等との連携等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機関や大学との連携活動(H21~23)</li> <li>・深層水を利用した研究依頼が増加し、新分野に向けての予備試験や各種研究を開始した。</li> </ul> <p>&lt;スジアオノリ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査(H21~22)</li> <li>・プロワー改修工事(H22~23)</li> <li>・「まるごと高知」での小袋商品を始め各種イベントで販売開始(H22~23)</li> <li>・大手回転ずしチェーン店に試験出荷(H23)</li> <li>・生産性の向上や、新たな販売先を確保するなどにより、H21年度から収支が黒字化し、大幅な経営改善が図られた。</li> </ul>	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深層水の安定的な販売先の確保</li> <li>・供給地域・量の拡大に対応できるよう、設備の維持・更新</li> </ul> <p>&lt;企業、研究機関等との連携等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進められている共同研究の成果の実用化</li> </ul> <p>&lt;スジアオノリ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量の高位平準化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆室戸海洋深層水の供給地域拡大</li> <li>◆室戸ジオパークサイトとしてのPR活動</li> <li>◆スジアオノリの増産試験及び施設増設の検討</li> <li>◆スジアオノリを利用した新商品の開発及び販路拡大</li> <li>◆海洋深層水の水産利用の検討</li> </ul>

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
12 海洋深層水の利用拡大 《室戸市》	室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。 室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客へのPRを行う。 また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。	・室戸市 ・深層水利用企業	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント、講演等での深層水のPR(H21~23)</li> <li>・供給地域の拡大のための制度策定までには至らなかったが、今後も協議を続けていくことを確認した。</li> </ul> <p>&lt;企業、研究機関等との連携等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機関や大学との連携活動(H21~23)</li> <li>・深層水を利用した研究依頼が増加し、新分野に向けての予備試験や各種研究を開始した。</li> </ul> <p>&lt;スジアオノリ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査(H21~22)</li> <li>・プロワー改修工事(H22~23)</li> <li>・「まるごと高知」での小袋商品を始め各種イベントで販売開始(H22~23)</li> <li>・大手回転ずしチェーン店に試験出荷(H23)</li> <li>・生産性の向上や、新たな販売先を確保するなどにより、H21年度から収支が黒字化し、大幅な経営改善が図られた。</li> </ul>	<p>&lt;販路、供給地域の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深層水の安定的な販売先の確保</li> <li>・供給地域・量の拡大に対応できるよう、設備の維持・更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆室戸海洋深層水の供給地域拡大</li> <li>◆室戸ジオパークサイトとしてのPR活動</li> <li>◆深層水利用養殖の高品質の商品の開発及び販路拡大</li> <li>◆海洋深層水の水産利用と施設整備の検討</li> </ul>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
室戸海洋深層水の供給地域拡大 供給域拡大のための制度の変更	深層水の給水量拡大				アクアファームの 海洋深層水使用料 (H22:27,000千円)	35,000千円
室戸ジオパークサイトとしてのPR活動 ・ジオパークに関する職員研修 ・展示施設、パンフレット等の内容精査					スジアオノリ販売額 (H22:20,000千円)	30,000千円
スジアオノリの増産試験及び施設増設の検討 生産効率向上技術の開発 種苗生産技術の検討、培養密度、生産サイクルの見直し、シフト見直しによる操業日数の増加等						
施設増設についての検討 既存の施設内に増設、新規 施設の設置等経費	【左記検討結果により増設との結論が出た場合】 施設増設					
スジアオノリを利用した新商品の開発及び販路拡大 ・県内外への販路拡大(県アンテナショップへの出品、販売先の開拓) ・食品加工業者等とのタイアップによる商品開発						
海洋深層水の水産利用の検討 水産利用に向けた検討						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
室戸海洋深層水の供給地域拡大 供給域拡大のための制度の変更	深層水の給水量拡大				アクアファームの 海洋深層水使用料 (H22:27,000千円)	35,000千円
室戸ジオパークサイトとしてのPR活動 ・ジオパークに関する職員研修 ・展示施設、パンフレット等の内容精査						
深層水利用業種の商品の開発及び販路拡大 ・県内外への販路拡大(県アンテナショップへの出品、販売先の開拓) ・食品加工業者等とのタイアップによる商品開発						
海洋深層水の水産利用と施設増設の検討 海洋深層水を利用した貝類、養殖業種検討	給水地域内での新規増設等経費		【左記検討結果により新規増設の結論が出た場合】 施設新規増設			



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
商品開発と製品化					酒粕商品販売額 (H23:4,200千円)	42,000千円	
市場調査、商品の開発とブラッシュアップ、アドバイザーの活用等							
生産体制の整備							
生産体制の整備と製造機材導入の検討							
販売ルートの開拓							
販売ルートの開拓と確保							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
商品開発と製品化					酒粕商品販売額 (H23:4,200千円)	42,000千円	
市場調査、商品の開発とブラッシュアップ、アドバイザーの活用等							
生産体制の整備							
生産体制の整備と製造機材の導入等							
販売ルートの開拓							
販売ルートの開拓と確保							

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
16 キラメッセ室戸「菜市」の機能強化 《室戸市》	地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。	・室戸市			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市場調査(マーケティング)の実施</li> <li>◆商品開発</li> <li>◆加工施設等の整備</li> <li>◆県内の道の駅等との連携</li> </ul>

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
17 キラメッセ室戸「菜市」の機能強化 《室戸市》	地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。	・室戸市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H20、菜市の一部改修</li> <li>・H22、駐車場の部分拡張</li> <li>◆菜市来場者(H24):約25万7千人(キラメッセ全体で約32万8千人)、菜市売上額(H24):2億5千万円(全体約4億円超え)</li> <li>◆県外の店舗・アンテナショップ等へ野菜等を出荷(H24~)し、販路を拡大して地産外販を推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱い生鮮品(野菜、果物等)の消費拡大</li> <li>・地域食材の加工施設の整備</li> <li>・加工施設の整備用地の確保</li> <li>・駐車スペース拡大策(剛接する保安林の解除と駐車場造成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市場調査(マーケティング)の実施</li> <li>◆商品開発</li> <li>◆機能強化を図るための加工施設等の整備</li> <li>◆県内の道の駅等との連携</li> </ul>

修正後



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
市場調査(マーケティング)の実施 消費者の求める商品検証					→	直販所「菜市」来場者 (H23:244,968人)	258,000人
商品開発・販売に向けた研修の実施							
商品開発 地場産品を利用した加工品の生産、新商品の開発及び販売促進					→		
加工施設等の整備 加工施設等の設置検討及び整備							
県内の道の駅等との連携 連携内容の検討					→		
連携の実施							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
市場調査(マーケティング)の実施 消費者の求める商品検証					→	直販所「菜市」来場者 (H23:244,968人)	258,000人
商品開発・販売に向けた研修の実施							
商品開発 地場産品を利用した加工品の生産、新商品の開発及び販売促進					→		
機能強化等を図るための加工施設等の整備 加工施設等の設置や機能強化を図る施設の検討及び整備							
県内の道の駅等との連携 連携内容の検討					→		
連携の実施							

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
24 海の駅を拠点とした地域振興 (東洋町)	高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。	・東洋町	・情報交換会の実施(H21~23) ◆「海の駅」東洋町自体は順調に売上げを伸ばしており、平成22年度には施設を増築した。	・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の付加	◆海の駅の整備  ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売  ◆地域の情報発信  ◆高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携  ◆海の駅を拠点とした体験観光メニューの開発
修正前					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組みと成果	課題	主な内容
18 海の駅を拠点とした地域振興 (東洋町)	高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。	・東洋町	・平成20年1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171m <sup>2</sup> )開設 来場者:H21、134,896人 H22、153,446人 H23、156,083人 ・平成24年7月、火災により「海の駅」東洋町焼失 ・平成24年9月、海の駅再建委員会設置(委員会開催:3回、H24.10.29、委員会答申) ・平成25年8月、海の駅運営協議会設置(H25.12.27まで5回開催) ◆平成25年12月15日に海の駅が竣工(木造平屋建、267m <sup>2</sup> )し、平成26年1月12日から運営を再開した。	・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の付加	◆海の駅の整備  ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売  ◆地域の情報発信  ◆高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携
修正後					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
海の駅の整備 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整備内容の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">施設の整備</div>					来場者数 (H22:153,446人)	180,000人
地域特産品を活用した加工品の開発・販売 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">加工品の検討・開発</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">加工品の販売・施設の充実</div>						
地域の情報発信 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">町のHPを活用した情報発信</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">「海の駅」独自のHPの開設とそこからの地域情報の発信</div>						
高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">連携内容の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">連携の実施</div>						
海の駅を拠点とした体験観光メニューの開発 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">体験観光メニューの検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">体験観光メニューの開発</div>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
海の駅の整備 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整備内容の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">施設の整備</div>					来場者数 (H22:153,446人)	180,000人
地域特産品を活用した加工品の開発・販売 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">加工品の検討・開発</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">加工品の販売・施設の充実</div>						
地域の情報発信 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">町のHPを活用した情報発信</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">「海の駅」独自のHPの開設とそこからの地域情報の発信</div>						
高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">連携内容の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">連携の実施</div>						
海の駅を拠点とした体験観光メニューの開発 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;">体験観光メニューの検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%; margin-top: 5px;">体験観光メニューの開発</div>						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
17 道の駅「田野駅」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等 《田野町》	地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。	・田野町 ・道の駅指定管理者 ・加工施設指定管理者 ・生産者組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工品7品目(たのかつ、餅コロッケ等)を開発(H21)</li> <li>加工品3品目(コロッケ2種、鹿肉カレーライス)を試作(H22)</li> <li>田野駅拡張(74㎡増)(H23.3)</li> </ul> <p>◆加工品の開発に関しては、10品目の開発・試作がなされてきたが、販売面において十分な成果を上げるまでに至っていない</p> <p>◆情報発信コーナーが整備されたことで、中芸地域以東の観光情報発信の拠点としての期待が高まっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信機能の更なる強化</li> <li>地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報発信機能の強化</li> <li>◆加工品の開発・販売の強化</li> <li>◆機能強化のための施設整備等</li> </ul>
<b>修正前</b>					



【安芸地域】

平成26年度(案)

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
19 道の駅「田野駅」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等 《田野町》	地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。	・田野町 ・道の駅指定管理者 ・加工施設指定管理者 ・生産者組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工品7品目(たのかつ、餅コロッケ等)を開発(H21)</li> <li>加工品3品目(コロッケ2種、鹿肉カレーライス)を試作(H22)</li> <li>◆加工品の開発に関しては、22年度までに10品目の開発・試作がなされて販売されてきたが、販売が継続されているものは少ない。</li> <li>・田野駅拡張(74㎡増)(H23.3)</li> <li>◆情報発信コーナーが整備されたことで、中芸地域以東の観光情報発信の拠点ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信機能の更なる強化</li> <li>地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化</li> <li>施設整備に向けた関係機関等の調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報発信機能の強化</li> <li>◆加工品の開発・販売の強化</li> <li>◆機能強化のための施設整備等</li> </ul>
<b>修正後</b>					

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
情報発信機能の強化					→		
市場調査、情報発信コーナーの認知度アップに向けた検討と取組							
観光・宿泊施設との連携による情報の共有化、ガイドマップやHPでの情報発信による観光施設等への誘導							
人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)							
加工品の開発・販売の強化					→		
生産者と連携した加工品づくり							
機能強化のための施設整備等					→		
基本構想づくり及び関係機関との協議		拡張工事の実施計画作成・関係機関との協議		用地買収等及び施設整備 着手			
				リニューアルオープン			



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
情報発信機能の強化					→		
市場調査、情報発信コーナーの認知度アップに向けた検討と取組							
観光・宿泊施設との連携による情報の共有化、ガイドマップやHPでの情報発信による観光施設等への誘導							
人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)							
加工品の開発・販売の強化					→		
生産者と連携した加工品づくり							
機能強化のための施設整備等					→		
関係者間の協議及び基本構想づくり			基本構想の具体化と施設整備等				

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
18 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化 (芸西村)	地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。 村内で生産される農産物等(ピーマン・黒砂糖等)を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。	芸西村 ・備かっぱ市 ・生産者グループ	・リニューアルオープン(H23.10) ◆売り場面積を1.5倍に拡充し、花卉部門を中心として、惣菜・鮮魚部門等の売上増加を図り、商品回転率を高めることで、収益の増加が期待できる。 ◆収益の増加により、外販部門の継続雇用を見込むとともに、テイクアウト飲食部門の充実・拡充を図ることで、短期雇用が見込まれる。	・花卉出量の確保 ・新商品の開発、新商品の原材料確保(サトウキビ等) ・商品集荷システムの構築 ・テイクアウト商品の充実	◆「かっぱ市」の機能の拡充  ◆安定供給の仕組みづくり  ◆新たな商品の企画開発  ◆地域観光情報等の発信
<b>修正前</b>					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<b>修正後</b>					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<b>「かつば市」の機能の拡充</b> 加工場・飲食施設等整備の検討 施設整備 着手 生産・販売開始・加工品の充実 安定供給の仕組みづくり 花卉販売量の確保、集荷システムの構築 他					売上額 (H22:87,000千円)	108,000千円
<b>新たな商品の企画開発</b> 地域資源共有会議等を活用した新商品の検討 新商品の開発・販売開始 効果的なPRの実施(ホームページの作成、スタッフブログ、定期的な催事の開催 他)						
<b>地域観光情報等の発信</b> 観光情報等の発信施設としての役割を担うための検討 インターネットの整備、情報発信コーナー設置(パンフレット等の配布)						
地域資源を活用した地域経済の活性化 五西村特産品加工施設(仮称)の検討 施設整備 着手 商品開発・販売						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<b>地域資源を活用した地域経済の活性化</b> 五西村特産品加工施設(仮称)の検討 施設整備 着手 商品開発・販売					売上額 (H22:87,000千円)	108,000千円
<b>安定供給の仕組みづくり</b> 花卉販売量の確保、集荷システムの構築 他						
<b>新たな商品の企画開発</b> 地域資源共有会議等を活用した新商品の検討 新商品の開発・販売 効果的なPRの実施(ホームページの作成、スタッフブログ、定期的な催事の開催 他)						
<b>地域観光情報等の発信</b> 観光情報等の発信施設としての役割を担うための検討 インターネットの整備、情報発信コーナー設置(パンフレット等の配布)						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21～23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大 《室戸市》	室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売り上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。	・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設等の充実(H21～23)</li> <li>広告宣伝の強化(H21～23)</li> <li>体験プログラムの見直し(H22～23)</li> <li>◆広報の強化、施設の充実等により、高価プログラムであるドルフィンスイムの参加者が大幅に増加、それに伴い、事業収入が増加し運営の安定の土台が築けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた、情報発信</li> <li>・来場者の満足度の向上のための新たな施設整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報発信</li> <li>◆ドルフィンセンターの機能充実</li> </ul>
<b>修正前</b>					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大 《室戸市》	室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売り上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。	・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21～23)</li> <li>広告宣伝の強化(H21～23)</li> <li>体験プログラムの見直し(H22～23)</li> <li>◆高価プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。(H20、1,204人からH24、1,541人)</li> <li>◆H24、新たな陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備により、より安心・安全にふれあい体験が利用できるようになった。また、物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上、事業収入の増加に向けた土台を築いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた情報発信</li> <li>・より多くの集客を図るための広報・営業の検討</li> <li>・周辺施設等との連携による集客</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報発信</li> <li>◆ドルフィンセンターの機能充実</li> </ul>
<b>修正後</b>					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
情報発信					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	25,000人
パンフレット・HP・旅行雑誌等での情報発信						
ドルフィンセンターの機能充実					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	25,000人
待合・シャワー室等を備えた施設整備						
陸上プール設置及びイルカ飼育頭数の増					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	25,000人



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
情報発信					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	27,000人
パンフレット・HP・旅行雑誌等での情報発信						
ドルフィンセンターの機能充実					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	27,000人
待合・シャワー室等を備えた施設整備						
陸上プール設置及びイルカ飼育頭数の増					室戸ドルフィンセンター 来場者数 (H22:22,181人)	27,000人

有望素材シート（26年度）（案）

【地域アクションプラン】検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	奈半利町	素材名	地域資源（奈半利味噌・無花果製品・水産加工品その他）
		関連素材	地元大豆・魚

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>平成19年に組織した「なんでも市加工グループ」は、平成元年に整備した施設でやはり味噌の製造・販売に取組んでいるが、現在、手狭な状況にある。また、その加工場は、やはり味噌の製造以外にも、地域内の無花果加工品製造の取組みに対しても開放している。</p> <p>やはり味噌を製造・販売する「なんでも市加工グループ」は、味噌以外（焼肉のたれ、酢味噌）の販売や県外や町内外の販路を確保し、一定額の売上を保っているが、現施設や設備に制約があるため、新商品開発や増産が図れない状況にある。また、奈半利町の特産物の無花果を加工・販売するグループも同様に、加工品製造や商品の保管場所も制限される状況となっている。</p> <p>また、加領郷漁協女性部においては、漁民センターで加領郷漁港に水揚げされる水産物を使った炊き込みごはんや惣菜を作り、漁民センターや出張して（役場や南園サンエクス、地域イベントなど）販売を行っているが、調理場が狭く設備も充分でないことや販売場所が国道55号線を通行する一般の方から判りにくい位置にあるため、製造や販売の拡大が図れていない。</p>
	<p>&lt;課題：やはり味噌及び無花果商品等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現施設での増産や新たな加工品づくりを行うには、施設や設備が老朽化（建築後25年経過）して手狭となっている。</li> <li>・味噌の熟成期間に7カ月程度要するが、現有施設の保管場所は狭いため、増産が制限されている。</li> </ul> <p>&lt;課題：水産加工&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加領郷漁協女性部内の数名で水産加工に取組んでいるが、新たな加工品の開発などビジネスを拡大するには雇用の問題がある。</li> <li>・漁港の中で加工・販売をしていくには限りがあるので販路を広げていく必要がある。</li> <li>・新たな水産加工品のづくりに必要な専門的な設備や保存技術、加工技術が不足している。</li> </ul>
今後の方向性	<p>地域資源を活用した特産品をつくるために施設整備（加工場建設）を行い、将来的に生産者が安定した収入を得られるようなしくみを考えていく。</p>

【有望素材】を活かした具体的な取り組み（案）

【地域アクションプラン】における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進
	関係市町村名	奈半利町

事業の概要	<p>地域資源を活かした商品開発を行い「やはりブランド」を確立できる環境整備を行うことにより、地域の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内で必要とされる施設整備についての検討を行う。</li> <li>・奈半利味噌や無花果製品の商品づくりができる施設整備を行う。</li> <li>・加領郷に直販所も兼ねた加工場の整備を検討する。</li> <li>・多くの食材に対応できる製造器材の購入。</li> <li>・アドバイザーを活用した新商品開発の検討会。</li> <li>・販路を広げていくための商談会等への参加。</li> </ul>					
	<p>【事業主体】 ・奈半利なんでも市加工グループ イーハトBU ・加領郷漁協女性部</p> <p>【関係機関】 ・奈半利町 JAとさあき奈半利支所 高知県工業技術センター 安芸農業振興センター 室戸漁業指導所</p>					
	主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施前【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
		<p>施設整備の検討</p> <p>加工場の整備（農産加工場）</p> <p>（水産加工場）</p> <p>商品づくり（農産加工場）</p> <p>（水産加工場）</p>	<p>加工場の整備検討 生産体制づくりの検討</p> <p>施設整備の計画の策定 加工場の建設</p> <p>加工場の施設充実 事業拡大のための必要器材の購入</p> <p>施設整備の計画の策定 加工場の建設</p> <p>加工場の施設充実 事業拡大のための必要器材の購入</p> <p>アドバイザーを活用した新商品の開発 新商品を開発するための検討会</p> <p>アドバイザーを活用した新商品の開発 新商品を開発するための検討会</p>			
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】		
	【設定根拠】	【推計の考え方】				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費（内訳 国： 千円 県： 千円（うち25年度 市町村： 千円） その他： ）
	<p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県：高知県産業振興推進総合事業費補助金他 人的支援：奈半利町 農協他 その他：</p>
備考	

**有望素材シート（26年度）（案）**

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	安芸市	素材名	岩崎弥太郎生家
		関連素材	土居郭中、星神社、妙見山

現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 安芸市には、三菱の創始者である岩崎弥太郎の生家をはじめ、伝統的建造物群保存地区に指定されている武家屋敷が整然と並ぶ町割りが残っている土居郭中、岩崎弥太郎が祈願した星神社など、魅力的な観光資源が存在するにもかかわらず、十分に生かし切れていない現状がある。</p> <p>平成27年度に安芸市を含む安芸地域9市町村のエリアで開催される東部地域博覧会や、10年後に安芸市まで延伸する東部自動車道の開通も視野に、県東部地域の中でも、観光客にとって魅力のある観光拠点（エリア）として、これらの観光資源を戦略性をもって磨きあげていくことにより、観光客の誘致につなげ持続的な観光振興を図っていくことが課題となっている。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の磨きあげ</li> <li>・岩崎弥太郎の顕彰</li> <li>・安芸観光情報センターの機能強化</li> <li>・将来ビジョンの策定</li> </ul>

**『有望素材』を活かした具体的な取り組み（案）**

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	岩崎弥太郎生家を核とした観光振興
	関係市町村名	安芸市

事業の概要	岩崎弥太郎生家エリアや土居郭中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。					
事業主体等	<p>【事業主体】安芸市、安芸市観光協会、「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸市観光ボランティアガイド、民間事業者等</p> <p>【関係機関】</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28】	4年後 【H29以降】
	岩崎弥太郎生家等の観光資源の磨きあげ	岩崎弥太郎生家・土居郭中エリアの整備				
	三菱グループとの連携による岩崎弥太郎の顕彰とPR	三菱グループとの連携による岩崎弥太郎のPR				
	安芸観光情報センターの機能強化	運営体制の強化・施設機能の見直し				
	観光ビジョンの策定	安芸市の観光の将来ビジョンの策定				
指標・目標	項目	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28】	4年後 【H29以降】
	【設定根拠】	【推計の考え方】				
		【考え方】				

総事業費等	<p>総事業費 千円（うち25年度 千円）</p> <p>（内訳 国： 県： 市町村： その他： ）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県：高知県観光拠点等整備事業 人的支援：</p> <p>その他：</p>
-------	--

備考	
----	--

有望素材シート（26年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	奈半利町	素材名 関連素材	藤村製糸園・なはり浦の会・登録有形文化財
現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 奈半利町には平成17年まで操業していた藤村製糸園があり、その西蔵や石堀などは、国の近代化産業遺産や登録有形文化財に認定されている。この製糸工場は、建築物が老朽化し耐震性にも適していないため、平成25年12月から一部を解体することとなった。その製糸工場跡地に、太陽光発電設備と事務所を備えた「記念館」の建設が計画されている。 また、藤村製糸工場をはじめ奈半利町の古民家は、「なはり浦の会」が力を入れて観光客等に町並み案内している場所でもある。しかし、「なはり浦の会」には、町並みガイド客の受け入れの連絡調整拠点となる場所はなく、町並み散策に訪れた観光客に説明できるスペースがないのが現状。</p> <p>&lt;課題&gt; ・奈半利町のシンボルでもある藤村製糸の歴史や文化を次代に伝えていくことができる施設が必要。 ・域外からの観光客を奈半利町に一定時間滞在させ地域経済が活性化する仕組みづくりが必要。 ・なはり浦の会（会員数45名）は、町並みガイドの受け入れの連絡調整ができる拠点が無い。</p>		
今後の方向性	<p>国の近代化産業遺産に認定されている藤村製糸の施設を活用し、交流人口の拡大や文化活動の拡充を図る。</p>		

『有望素材』を元にした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	藤村製糸を活用した観光振興				
	関係市町村名	奈半利町				
事業の概要	<p>なはり浦の会が藤村製糸園と連携し、町並み散策の観光客等への対応や地域文化を継承する活動を行い奈半利町の活性化を図る。</p> <p>①藤村製糸記念館の整備検討 ②藤村製糸記念館の建設 ③なはり浦の会の活動拠点の整備 ④活動地域及び内容の検討 ⑤ガイドスキルアップの研修・交流会の開催 ⑥東部博覧会に向けた情報発信</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】藤村製糸株式会社・なはり浦の会 【関係機関】奈半利町・なはり観光文化協会・中芸観光協議会</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28】	4年後 【H29以降】
	藤村製糸記念館の整備					
	ガイド組織の活動強化					
	地域観光資源の発掘 磨き上げ					
指標・目標	項目	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28】	4年後 【H29以降】
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 平成26年度の拠点施設の整備により、町並み案内に参加した方の寛げる場所や浦の会の活動スペースを確保して、交流人口の拡大による地域の活性化を図る。</p>				
		<p>【考え方】</p>				
総事業費等	総事業費	千円		千円		
	(内訳 国:	県:	市町村:	その他:		)
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	<p>国: 県: 高知県観光拠点等整備事業 人的支援: 奈半利町 中芸観光協議会 その他:</p>				
備考						

## 有望素材シート（平成26年度）(案)

【地域アクションプラン】検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	安芸市	素材名 関連素材	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり
現状・課題	東川地域の農産物のPR、また、地域外住民と交流するための収穫体験イベントや、学生を対象としたゆずとり援農隊事業、特産品の開発など、地域住民の主体的な活動が継続的に行われてきており、東川地域の知名度の向上や地域外住民との交流促進が図られている。平成25年9月に集落活動センターを開所したことにより、今後は集落活動センターを拠点とした、集落同士の連携による新たな活動の実施を通じて、担い手を確保し、持続可能な集落づくりを目指す。		
今後の方向性	地域産品を加工した新商品の開発 農産物等の販路拡大 新たな交流イベント、体験メニューの実施 移住・定住のサポート など		

### 『有望素材』を活かした具体的な取り組み(案)

【地域アクションプラン】における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり			
	関係市町村名	安芸市			
事業の概要	地域産品を加工した新商品の開発や農産物の販路拡大 交流人口の拡大や移住に向けた取組 など				
事業主体等	東川地域おこし協議会				
主な内容・スケジュール	取組手順	(H26以前:)	H26:	H27:	H28以降:
	◆新商品の開発	加工品の試作と商品化・販売に向けた研修		商品化・TM	新商品の販売促進
	◆農産物等の販路拡大	販売ツールづくり	庭先集荷による農産物の通販とセンターでの直売		
	◆交流人口の拡大	フェイスブック等を通じた情報交換・東川のファンづくり、交流イベントの拡充			
◆移住・定住サポート	空家の掘起し・改修		農業研修生の受け入れ、移住・定住の斡旋		
指標・目標	項目	(H26以前:)	H26:	H27:	H28以降:
	【設定根拠】	【推計の考え方】			
仕分	C	【考え方】			
総事業費等	総事業費 (内訳 国: 千円 県: 千円 (うち 年度 市町村: 千円) その他: ) 想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 人的支援: その他:				
備考					

※ 記入できない項目は空欄で結構です。その場合、「今どういった状況で、いつ頃までに整理ができる見込みか」を、備考欄に記入してください。

**有望素材シート（26年度）（案）**

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	北川村	素材名 関連素材	北川村温泉
------	-----	-------------	-------

現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 北川村温泉「ゆずの宿」は、年間入浴客数23,194名(H24)の北川村内唯一の宿泊施設である(村所有・株式会社カゴオによる指定管理)。周囲は自然環境豊かで泉質の評価は非常に高いが、施設の老朽化や宿泊室数が少ないといった問題がある。</p> <p>&lt;課題&gt; ・施設の老朽化：エレベーター無し、耐震基準をクリアしていない ・宿泊室数：全11室、うちトイレ・洗面所無し6室 ・交通アクセス：公共交通機関は村バスのみ、道路が狭く落石等の危険がある。</p>
今後の方向性	<p>来客数、宿泊の受け入れ人数を増加させるために温泉施設を新築し、北川村中北部の中山間対策として、住民活動や交流活動の拠点とする。</p>

**『有望素材』を活かした具体的な取り組み（案）**

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	北川村温泉を核とした中山間振興
	関係市町村名	北川村

事業の概要	北川村温泉を活用した中山間地域の振興及び交流人口の拡大を目指す。			
事業主体等	<p>【事業主体】 北川村、北川村中部地区集落活動協議会、北川村観光協会</p> <p>【関係機関】</p>			
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
	マーケティング基本計画	来館者・地元住民の求める施設検証		
	施設建築	→		
	施設オープン・交流機能拡大	直販、新商品の開発、体験交流メニューの検討		
	集落活動の展開	集落活動の検討・実施		
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
	来館者数 単位：人			
	【設定根拠】	【推計の考え方】		
		【考え方】		

総事業費等	総事業費	千円	(うち26年度	千円)
	(内訳 国： 県： 市町村： その他： )			
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)			
	国： 県： 人的支援：			
	その他：			
備考				

有望素材シート（26年度）（案）

【地域アクションプラン】検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	馬路村	素材名	馬路村魚梁瀬地区の地域活性化
		関連素材	千本山風景林

現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 馬路村魚梁瀬地区は、現在地区人口190人、うち高齢者人口は71人（高齢化率36.7%）の小規模集落でありながら、その地理的環境や歴史的経緯から小中学校が存続している（在籍児童・生徒数18名）。またダム建設に伴う高台移転の結果各戸が隣接しており、集落の団結力が高い。この地域の特性を活かして、山村留学やフェスティバル魚梁瀬といった活動が維持され、森林鉄道（丸山公園）、宿泊施設、温浴施設などといった施設も運営されている。</p> <p>&lt;課題&gt; 国有林事業の撤退以降、建設業以外に目立った産業が存在しない。地域住民の活力といった面では、若い世代の女性の活躍が目立ち、同じような規模の集落に比べて活気があると言える。この活力を維持し、これ以上の人口の減少を食い止めるために、1ターン者に比べて定着が見込めるUターン移住者の確保を優先的に推進していくことが課題である。</p>
	<p>魚梁瀬地区住民の活力の受け皿として、山村留学の拡充、起業支援（特に、平成26年度事業として県が検討している女性の起業支援を中心に検討したい）、丸山公園やキャンプ場を中心とした施設の充実を図っていき、これら事業の展開を契機として、地域住民が相互に繋がりを深めていくことが望ましいと考えられる。</p> <p>また、移住支援や婚活事業などにより、Uターン者や1ターン者といった地域に新たな価値観を持ち込む人材を受け入れることで、集落の次世代の担い手を確保すると同時に、新たな視点から山を豊かにする里親制度や、川魚の養殖などといった新ビジネスを魚梁瀬の地に立ち上げることができれば、持続的な集落の維持が可能になっていくと思われる。</p>

【有望素材】を活かした人的な取り組み（案）

【地域アクションプラン】における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト
	関係市町村名	馬路村

事業の概要	<p>馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標として以下の事業を展開する。</p> <p>(1) 山村留学の活性化（生徒用宿舎としての空き家の活用）                  (2) 女性の感性を活かした新たなスタイルの交流拠点の設置（土佐MBA内に新設される女性向け講座を活用）                  (3) 丸山公園のバージョンアップ（森林鉄道の磨き上げ、温泉の活用、満木荘との連携）                  (4) 地域イベントの拡充・対外広報（フェスティバル魚梁瀬、山師達人選手権等）</p> <p>上記事業の実施に必要なマンパワーは住民が担うことを原則とするが、必要に応じ高知ふるさと応援隊の導入も検討する。</p>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 魚梁瀬地区住民団体（自治会）</p> <p>【関係機関】 馬路村、魚梁瀬小学校</p>
-------	---

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
	<p>集落を支える人づくり（現役世代と将来世代）</p> <p>新たな交流拠点の整備</p> <p>丸山公園等のバージョンアップ</p>	<p>・地域住民、小学校、村役場と協同して組織作り</p> <p>・山村留学の拡充</p> <p>・少子化対策（婚活）事業の実施</p> <p>・高知ふるさと応援隊の検討</p>	<p>・高知ふるさと応援隊の導入</p> <p>・プランの検討、産業振興アドバイザーの活用、施設整備</p>	<p>・高知ふるさと応援隊の活用</p> <p>・高知ふるさと応援隊の活用</p>

指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】	
	【設定根拠】	【推計の考え方】			
		【考え方】			

総事業費等	総事業費（内訳 国： 千円 県： 千円（うち26年度 千円） 市町村： 千円 その他： ）
	<p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援： その他：</p>

# 平成26年度 物部川地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	南国市	香南市	香美市
		13	11	9
1	南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築	●		
2	エメラルドメロンの販売力向上対策		●	
3	ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」		●	●
4	地産地消・食育の推進	●		
5	直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大	●		
6	地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充	●		
7	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～	●		
8	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組	●		
9	大学生による地域応援団(サポーター)づくり	●	●	●
10	加工品販売による夜須地域の活性化		●	
11	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策			●
12	香美市ブランドの確立・特産品づくり			●
13	民有林における素材の増産	●	●	●
14	木質バイオマスの活用に向けての取組	●	●	●
15	シイラ等の加工商材活用		●	
16	「ごめん」の販わいづくり ～ごめんの活性化～	●		
17	香南市の地場産品販売促進		●	
18	香南市の商業振興への取組		●	
19	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●
20	観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～	●		
21	体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信		●	
22	「森の駅」を中心とした体験型観光の推進			●
23	広域観光の取組の推進	●	●	●
24	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化	●		



南国市	香南市	香美市	No.	改定案(平成26年度)
●			1	南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築
●			2	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化
	●		3	エメラルドメロンの販売力向上対策
	●	●	4	ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」
		●	5	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策
●			6	直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大
●			7	地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充
	●		8	加工品販売による夜須地域の活性化
●			9	地産地消・食育の推進
●			10	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組
●	●	●	11	民有林における素材の増産
●	●	●	12	木質バイオマスの活用に向けての取組
	●		13	シイラ等の加工商材活用
●			14	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～
		●	15	香美市ブランドの確立・特産品づくり
●			16	「ごめん」の賑わいづくり ～ごめんの活性化～
	●		17	香南市の地場産品販売促進
	●		18	香南市の商業振興への取組
		●	19	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興
●			20	観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～
	●		21	体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信
		●	22	「森の駅」を中心とした体験型観光の推進
●	●	●	23	広域観光の取組の推進
●	●	●	24	大学生による地域応援団(サポーター)づくり

修正項目(案)



【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
<p>10 加工品販売による夜須地域の活性化 《香南市》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正前</p>	<p>地場産品を生かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p>	<p>・協同組合やすらぎ市</p>			<p>◆新加工品開発による顧客の開拓</p> <p>◆インターネット販売の充実強化</p>





【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>8 加工品販売による夜須地域の活性化 《香南市》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正後</p>	<p>地場産品を生かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p>	<p>・協同組合やすらぎ市</p>	<p>・加工組織(製造部)の結成(H25)</p> <p>・加工責任者の配置(H24)及び農業創造セミナーの活用による加工品開発(H25)</p> <p>・産業革新推進総合支援事業補助金の活用(H25)</p> <p>・地元加工業者との連携(H24~H25)</p> <p>・ホームページ活用の優良事例の情報収集(H24~H25)</p> <p>◆加工(生産)体制の整備が図られた。</p> <p>◆加工方法の具体化と商品化が進んでいる。</p> <p>◆加工施設が確保できた。</p> <p>◆新加工品の開発状況をブログで情報発信している。</p>	<p>・主力商品の定着</p> <p>・加工品の安定生産</p> <p>・商品数の増加</p>	<p>◆新加工品開発による顧客の開拓</p> <p>◆インターネット販売の充実強化</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					加工販売額 (H22:7,000万円)	1億円
新加工品開発による顧客の開拓 ・加工希望者の呼びかけ、組織結成 ・加工品の開発研究、商品化						
		加工施設の確保				
加工品の販売						
						
インターネット販売の充実強化						
HPの充実強化						
加工品のインターネット販売						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					加工販売額 (H22:7,000万円)	1億円
新加工品開発による顧客の開拓 ・加工希望者の呼びかけ、組織結成 ・加工品の開発研究、商品化						
	加工施設の確保					
加工品の販売						
						
インターネット販売の充実強化						
HPの充実強化						
加工品のインターネット販売						

修正項目(案)


【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
13 民有林における素材の増産 《物部川地域全域》	森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施策を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。	・各森林組合 ・林業事業者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森の工場の推進(H21~23)</li> <li>・林業事業者の育成(H21~23)</li> <li>・担い手の育成確保(H21~23)</li> <li>・放置林の解消(H21~23)</li> <li>◆地元説明会を開催し、集約化施策の周知に努めた結果、H22年度には、森の工場の面積が目録に到達した。また、造林補助金や森林林業再生プラン実践事業など、各種補助事業を活用し、作業道開設や高性能林業機械の導入に取り組んだ結果、搬出間伐における生産性が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不在村地主の増加、森林所有者の高齢化、相続などによる境界確認、境界確定の困難化</li> <li>・放置林の解消</li> <li>・保育間伐の集約化</li> <li>・林業労働力の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆森の工場の推進</li> <li>◆森林経営計画の策定</li> <li>◆林業事業者の育成(高性能林業機械、作業道など基盤整備)</li> <li>◆担い手の育成・確保(伐採、搬出技術を有する職員の育成)</li> <li>◆境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用</li> <li>◆放置林の解消(保育間伐の実施)</li> </ul>
修正前					




【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
修正後					

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
森の工場の推進 森林経営計画の策定 林業事業体の育成(高性能林業機械、作業道など基盤整備) 担い手の育成・確保(伐採、搬出技術を有する職員の育成) 境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用 放置林の解消(保育間伐の実施)						「森の工場」整備済面積 (H22:9,400ha)	15,459ha
森の工場の推進						素材生産量(民有林のみ) (H22:26,053m3)	47,500m3
森林経営計画の策定							
林業事業体の育成、担い手の育成・確保、境界確認作業及び森林情報等のデータ整理・活用、放置林の解消							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
森の工場の推進 森林経営計画の策定 林業事業体の育成(高性能林業機械、作業道など基盤整備) 担い手の育成・確保(伐採、搬出技術を有する職員の育成) 境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用 放置林の解消(保育間伐の実施)						「森の工場」整備済面積 (H22:9,400ha)	19,000ha
森の工場の推進						素材生産量(民有林のみ) (H22:26,053m3)	47,500m3
森林経営計画の策定							
林業事業体の育成、担い手の育成・確保、境界確認作業及び森林情報等のデータ整理・活用、放置林の解消							

# 平成26年度 高知市地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)
1	キュウリの生産販売対策の強化による産地振興
2	グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興
3	生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興
4	イチゴの生産販売対策の強化による産地振興
5	ナシ産地の振興とブランド強化
6	時代のニーズに対応できる早期米産地の振興
7	新ショウガの生産振興
8	ユズを核とした中山間農業の活性化
9	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
10	「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興
11	直販店を核とした鏡地域の活性化
12	「食」の提供による地域農産物の消費拡大
13	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出
14	森の工場を核とする素材生産量の拡大
15	県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進
16	春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上
17	地域の食材を活かした包あん食品の開発・製造・販売
18	県産竹材を用いた新規分野への製品展開
19	防災食の開発・製造・販売
20	「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売
21	地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進
22	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化
23	中心商店街でのアンテナショップの運営
24	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり
25	おまちに関する情報発信の充実
26	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
27	近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進
28	本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展
29	温泉開発による観光地としての魅力の向上
30	浦戸湾を活用した観光の振興
31	土佐の偉人を活かした観光の振興
32	食による観光の推進

No.	改定案(平成26年度)
1	キュウリの生産販売対策の強化による産地振興
2	グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興
3	生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興
4	イチゴの生産販売対策の強化による産地振興
5	ナシ産地の振興とブランド強化
6	時代のニーズに対応できる早期米産地の振興
7	新ショウガの生産振興
8	ユズを核とした中山間農業の活性化
9	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
10	「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興
11	直販店を核とした鏡地域の活性化
12	「食」の提供による地域農産物の消費拡大
13	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出
14	森の工場を核とする素材生産量の拡大
15	県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進
16	春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上
17	地域の食材を活かした包あん食品の開発・製造・販売
18	県産竹材を用いた新規分野への製品展開
19	防災食の開発・製造・販売
20	「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売
21	地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進
22	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化
23	中心商店街でのアンテナショップの運営
24	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり
25	おまちに関する情報発信の充実
26	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
27	近隣地域等との連携による潜在型・体験型観光の推進
28	本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展
29	温泉開発による観光地としての魅力の向上
30	浦戸湾を活用した観光の振興
31	土佐の偉人を活かした観光の振興
32	食による観光の推進

修正項目(案)

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
5 ナシ産地の振興とブランド強化	針木産新高架のブランドをブラッシュアップし、全国展開できるブランド力を育成する。また、生産の障害となっている鳥獣被害対策や産地を支える経営体の育成に取り組み、持続的な発展を目指す。	・JA高知市 ・針木業組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値販売、加工品の開発、販売(H21~23)</li> <li>高温障害等対策(H21~H23)</li> <li>カラス対策協議会の設置(H23)</li> <li>◆高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産の高収量、高品質化、コスト高騰対策</li> <li>高知ブランドをPRする流通・販売対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆産地ブランドのブラッシュアップ</li> <li>◆鳥獣被害対策</li> <li>◆産地を支える経営体の育成</li> <li>◆産地計画の実践</li> </ul>
修正前					



【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
修正後					



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
産地ブランドのブラッシュアップ					生産量 (H23年産:500t)	H27年産:550t
パッケージデザインの統一	パッケージ等トータルデザインによるブランド力強化					
商標の取得	共同出資体制の再整備					
鳥獣被害対策						
防鳥ネット等の設置、カラスや害獣駆除、パトロール						
産地を支える経営体の育成						
担い手のあり方研究						
担い手、経営体の育成						
産地計画の実践						
実践		計画の見直し	実践			
地域交流(百周年)						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
産地ブランドのブラッシュアップ					生産量 (H23年産:500t)	H27年産:550t
パッケージデザインの統一	パッケージ等トータルデザインによるブランド力強化					
商標の取得	共同出資体制の再整備					
鳥獣被害対策						
防鳥ネット等の設置、カラスや害獣駆除、パトロール						
産地を支える経営体の育成						
担い手のあり方研究						
担い手、経営体の育成						
産地計画の実践						
実践		計画の見直し	実践			
地域交流(百周年)						

修正項目(案)

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興	全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。	・JA高知市 ・JA高知市特産部会 (七ツ瀬菊加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会) ・(財)夢産地とさやま開発公社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製氷機の導入(H22)</li> <li>・販路開拓(H22~23)</li> <li>◆生産量は順増し、過去最高となった。</li> <li>また、商品性のアップを目指し、消費期限の延長や調理済み加工品の開発に取り組み、高級量販店が真空パック商品に興味を示すなど、販路拡大の動きも具体化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大に伴う加工能力の増強および適正化</li> <li>・特産品としての魅力アップ</li> <li>・中山間地域農業の6次産業化モデルへの挑戦</li> <li>・生産拡大に伴う販売単価の下落への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆四方竹の生産安定対策</li> <li>◆加工能力の改善と適正化</li> <li>◆四方竹のブランド化戦略の実践</li> <li>◆四方竹の振興方策の策定</li> </ul>
修正前					



【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
修正後					

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">           四方竹の生産安定対策         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               四方竹の生産の解明             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               アンケート調査             </div> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               栽培技術の改善             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               後継者対策             </div> </div> </div> </div>				販売額 (H19:3,360万円) (H22:3,982万円)	4,000万円	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           加工能力の改善と適正化           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・一次加工施設の作業効率の見直し、加工能力の向上・整備              ・鮮度保持対策の改善・実践           </div> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           四方竹のブランド化戦略の実践           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             都市圏での四方竹の認知度向上、他産地とも連携した販路開拓・拡大           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・ターゲット(ホテル、飲食業、個人向け等)の絞り込み              ・ターゲットに合った商品開発・販売方法の確立           </div> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           四方竹の振興方策の策定           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             生産意向調査             <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">               中長期振興方針・計画の策定(情報共有)、実践             </div> </div> </div>						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">           四方竹の生産安定対策         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               四方竹の生産の解明             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               アンケート調査             </div> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               栽培技術の改善             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">               後継者対策             </div> </div> </div> </div>				販売額 (H19:3,360万円) (H22:3,982万円)	4,000万円	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           加工能力の改善と適正化           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・一次加工施設の作業効率の見直し、加工能力の向上・整備              ・鮮度保持対策の改善・実践           </div> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           四方竹のブランド化戦略の実践           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             都市圏での四方竹の認知度向上、他産地とも連携した販路開拓・拡大           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・ターゲット(ホテル、飲食業、個人向け等)の絞り込み              ・ターゲットに合った商品開発・販売方法の確立           </div> </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           四方竹の振興方策の策定           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             生産意向調査             <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">               中長期振興方針・計画の策定(情報共有)、実践             </div> </div> </div>						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
消費者ニーズに応じた生産販売対策				H28以降	販売額 (H22:16,454万円)	H26:17,000万円
計画生産など需給ギャップの解消への取組強化 料理教室や販促イベントの定例化						
商品の宅配、午後の品揃えの検討	商品の宅配、午後の品揃えの試験実施	商品の宅配、午後の品揃えによる消費者と生産者が結びつく体制づくり				
効率的な集出荷体制の構築 店舗間の輸送手段の検討、 リオ店での総菜加工の検討	直販店機能強化に向けた仕組みの構築		店舗間の輸送手段の確立、 リオ店の機能強化(総菜加工など)			
店舗間の試験輸送、リオ店での総菜加工の試行と本格実施に向けた課題整理						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
消費者ニーズに応じた生産販売対策				H28以降	販売額 (H22:16,454万円)	H26:17,000万円
計画生産など需給ギャップの解消への取組強化 料理教室や販促イベントの定例化						
商品の宅配、午後の品揃えの検討	商品の宅配、午後の品揃えの試験実施	品揃え方策の協議・強化による販売の拡大				
効率的な集出荷体制の構築 店舗間の輸送手段の検討、 リオ店での総菜加工の検討	直販店機能強化に向けた仕組みの構築		機能強化策の協議及び実施(加工品の試作・販売など)			
店舗間の試験輸送、リオ店での総菜加工の試行と本格実施に向けた課題整理						

修正項目(案)


【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大	ニーズの高い総菜加工の充実や地域内の農産物を活用した新たな加工品開発の拠点とするとともに、農業教室や料理教室の開催など地域住民の農業への関心を高める活動、バイキングレストランの開催など地産地消の拠点施設として「新農村婦人の家」の機能強化を図る。	・JA高知市 ・JA高知市女性部			◆農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築
修正前					

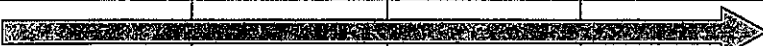


【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大	ニーズの高い総菜加工の充実や地域内の農産物を活用した新たな加工品開発の拠点とするとともに、農業教室や料理教室の開催など地域住民の農業への関心を高める活動、バイキングレストランの開催など地産地消の拠点施設として「新農村婦人の家」の機能強化を図る。	・JA高知市 ・JA高知市女性部	・加工施設の改修に係る産振補助金の活用(H25) ◆実行支援チーム会の開催、果アドバイザー制度の活用により、加工施設に併設する直販所「らぶ」を含めて販売強化計画を作成し、様々な改善に向けて関係者の意識が前向きに変化している。	・販売強化計画の実践支援	◆農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築
修正後					

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
					販売額 (H22:1,500万円)	H26:2,000万円
農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築						
農産物加工施設の改修						
総菜メニューの開発(消費者アンケート、モニターとの意見交換会、事例調査など) 弁当等の販路開拓(JA広報、JA女性部・青壮年部・各支所の地域活動でのPRなど)						
新たな加工品の開発と販売						
農家レストラン、食農教育、料理教室など消費者交流の推進						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
					販売額 (H22:1,500万円)	H27:2,500万円
農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築						
農産物加工施設の改修						
総菜メニューの開発(消費者アンケート、モニターとの意見交換会、事例調査など) 弁当等の販路開拓(JA広報、JA女性部・青壮年部・各支所の地域活動でのPRなど)						
新たな加工品の開発と販売						
農家レストラン、食農教育、料理教室など消費者交流の推進						

修正項目(案)

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
27 近隣地域等との連携による潜在型・体験型観光の推進	周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことによって、宿泊客の増加を図る。	・鍋城西館等 ・高知市	・仁淀川地域観光協議会へのオブザーバー参加(H22~23) ・着地型旅行商品追加開発(H22) ◆民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がっており、周辺地域の活性化へ寄与している。	・近隣地域との連携の強化	◆高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進  ◆広域観光の推進

修正前



【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
27 近隣地域等との連携による潜在型・体験型観光の推進	周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことによって、宿泊客の増加を図る。	・鍋城西館等 ・高知市	・仁淀川地域観光協議会へのオブザーバー参加(H22~25) ・高知中央広域観光協議会設立(H25) ・着地型旅行商品追加開発(H22) ・鍋城西館の旅行業2種取得(H24) ◆民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がっており、周辺地域の活性化へ寄与している。	・近隣地域との連携の強化	◆高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進  ◆広域観光の推進

修正後



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進					→	高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 (H22 約123万人)  (参考 H21 約99万人)	112万人
観光資源の発掘、磨き上げ、商品化							
広域観光の推進					→		
高知中央広域定住自立圏共生ビジョン、仁淀川地域観光協議会等とのネットワークの強化によるPR活動及び情報発信機能の充実、周遊ルートづくり							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進					→	高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 (H22 約123万人)  (参考 H21 約99万人)	112万人
観光資源の発掘、磨き上げ、商品化							
広域観光の推進					→		
高知中央広域観光協議会、仁淀川地域観光協議会等とのネットワークの強化によるPR活動及び情報発信機能の充実、周遊ルートづくり							

修正項目(案)


【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
29 温泉開発による観光地としての魅力の向上	観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)	・温泉フェアの実施(H22) ◆新規温泉開発によるビジネスモデルを検討。	・新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討	◆温泉の開発と活用に向けた検討
修正前					




【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
29 温泉開発による観光地としての魅力の向上	観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)	・温泉フェアの実施(H22) ◆新規温泉開発によるビジネスモデルを検討。	・新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討	◆温泉の開発と活用に向けた検討
修正後					

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
 温泉の開発と活用に向けた検討						
実現に向けた検討			検討結果に基づく対応			



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
 温泉の開発と活用に向けた検討						
実現に向けた検討				検討結果に基づく対応		

修正項目(案)


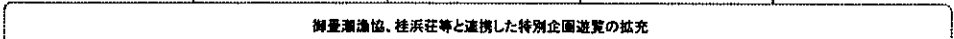


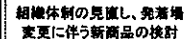
【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
30 浦戸湾を活用した観光の振興	浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。	・特定非営利活動法人きらりこうち都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3隻目導入(H21)</li> <li>・様々な企画遊覧の実施(H22~23)</li> <li>◆観光遊覧船は3隻体制で運航開始したH23年度の乗船客数は前年度より着実に増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗船客数の増加のための企画商品づくりとPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充</li> <li>◆組織体制の再構築</li> </ul>
修正前					


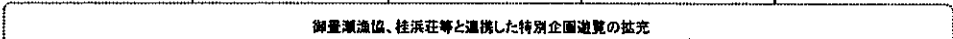


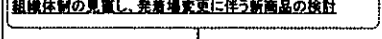


【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
30 浦戸湾を活用した観光の振興	浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。	・特定非営利活動法人きらりこうち都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3隻目導入(H21)</li> <li>・様々な企画遊覧の実施(H22~23)</li> <li>・事業存続に向けた方策の検討(H25)</li> <li>◆観光遊覧船は3隻体制で運航開始したH23年度の乗船客数は前年度より着実に増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗船客数の増加のための企画商品づくりとPR</li> <li>・組織や運航体制の再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充</li> <li>◆組織体制の再構築</li> </ul>
修正後					

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					観光遊覧船の乗船客数 (H22:5,899人)	15,000人	
周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 							
御量産漁協、桂浜荘等と連携した特別企画遊覧の拡充 							
組織体制の再構築 							
組織体制の見直し、発着場変更に伴う新商品の検討 							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					観光遊覧船の乗船客数 (H22:5,899人)	15,000人	
周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 							
御量産漁協、桂浜荘等と連携した特別企画遊覧の拡充 							
組織体制の再構築 							
組織体制の見直し、発着場変更に伴う新商品の検討 							

# 平成26年度 嶺北地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	本山町	大豊町	土佐町	大川村
		24	19	19	17
1	れいほくブランドの園芸産地の維持	●	●	●	●
2	ユズ産地の確立と加工・販売の促進	●	●	●	
3	集落営農で元気な地域づくり	●	●	●	●
4	米のブランド化による稲作農業の展開	●			
5	(株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組		●		
6	JA出資型法人を核とする地域活性化の取組	●	●	●	●
7	直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組	●			
8	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興	●	●	●	
9	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化				●
10	間伐の推進と素材生産の拡大	●	●	●	●
11	れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進	●	●	●	●
12	県産材の地域における率先利用	●	●	●	●
13	木工製品の製造・販売による地域の活性化	●			
14	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	●	●	●	●
15	大型製材工場の設置による地域材の利用の促進	●	●	●	●
16	木質バイオマス利用拡大の取組	●	●	●	●
17	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	●	●	●	●
18	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進	●	●	●	●
19	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	●	●	●	●
20	濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化	●	●		
21	白髪山・工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組	●			
22	早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組			●	●
23	棚田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組			●	
24	滞在型市民農園の推進による地域の活性化	●			
25	嶺北地域の連携による移住促進の取組	●	●	●	●
26	小水力発電の導入による地域活性化の取組	●	●	●	●
27	地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組	●	●	●	●
28	集落活動センター「汗見川」が実施する交流人口拡大事業と特産品づくりによる地域活性化の取組	●			

【嶺北地域】

本山町	大豊町	土佐町	大川村	No.	改定案(平成26年度)
24	19	19	17		
●	●	●	●	1	れいほくブランドの園芸産地の維持
●	●	●		2	ユズ産地の確立と加工・販売の促進
●	●	●	●	3	集落営農で元気な地域づくり
●				4	米のブランド化による稲作農業の展開
	●			5	(株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組
●	●	●	●	6	JA出資型法人を核とする地域活性化の取組
●				7	直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組
●	●	●		8	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興
			●	9	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化
●	●	●	●	10	間伐の推進と素材生産の拡大
●	●	●	●	11	れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進
●	●	●	●	12	県産材の地域における率先利用
●				13	木工製品の製造・販売による地域の活性化
●	●	●	●	14	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり
●	●	●	●	15	大型製材工場の設置による地域材の利用の促進
●	●	●	●	16	木質バイオマス利用拡大の取組
●	●	●	●	17	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信
●	●	●	●	18	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進
●	●	●	●	19	嶺北地域の連携による交流人口の拡大
●	●			20	濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化
●				21	白髪山・工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組
		●	●	22	早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組
		●		23	棚田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組
●				24	滞在型市民農園の推進による地域の活性化
●	●	●	●	25	嶺北地域の連携による移住促進の取組
●	●	●	●	26	小水力発電の導入による地域活性化の取組
●	●	●	●	27	地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組
●				28	集落活動センター「汗見川」が実施する交流人口拡大事業と特産品づくりによる地域活性化の取組

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
2 ユズ産地の確立と加工・販売の促進 (大豊町、本山町、土佐町)	「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、ユズのブランド化に向けた取組のレベルアップを行うとともに、ユズの加工・販売の促進に取り組む。	・嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会 ・JA土佐れいほく	<p>・ユズ産地構造計画変更・作成(H21~22)</p> <p>◆平成17年度に作成した計画を加工場の新設に伴い、内容に変更を加えた後、計画の期間が終了したため、新たに計画を作成して取組を行った。</p> <p>・ユズ加工場の建設・整備(H22)</p> <p>◆旧ユズ加工場によるユズ加工品の開発・製造と販売努力により、売り上げが年々向上した。この結果、農協加工場へのユズの出荷量の増加に伴い、処理能力の不足が顕著となったため、ユズ加工場を新たに建設した。新加工場は、搾汁ライン増設により果汁の搾汁率や品質が向上するとともに、ジュースラインの製造能力と衛生管理が強化された。新加工場は平成23年度より本格稼働が始まった。</p> <p>・国内・海外での販促活動の強化(H21~23)</p> <p>◆販売面では、国内・海外の展示販売会など商展に積極的に参加し商談を行った。</p>	<p>・衛生管理の徹底</p> <p>・適正在庫の管理</p> <p>・生産者価格の向上</p>	◆ユズの生産拡大と高付加価値化
修正前					



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			課題		
2 ユズ産地の確立と加工・販売の促進 (大豊町、本山町、土佐町)	「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、ユズのブランド化に向けた取組のレベルアップを行うとともに、ユズの加工・販売の促進に取り組む。	・嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会 ・JA土佐れいほく	<p>・ユズ産地構造計画変更・作成(H21~22)</p> <p>◆平成17年度に作成した計画を加工場の新設に伴い、内容に変更を加えた後、計画の期間が終了したため、新たに計画を作成して取組を行った。</p> <p>・ユズ加工場の建設・整備(H22)</p> <p>旧ユズ加工場によるユズ加工品の開発・製造と販売努力により、売り上げが年々向上した。この結果、農協加工場へのユズの出荷量の増加に伴い、処理能力の不足が顕著となったため、ユズ加工場を新たに建設した。新加工場は、搾汁ライン増設により果汁の搾汁率や品質が向上するとともに、ジュースラインの製造能力と衛生管理が強化された。新加工場は平成23年度より本格稼働が始まった。</p> <p>(H24~25) H24年度にジュースライン、H25年度にPET充填ラインに農産 HACCPを導入した。</p> <p>・国内・海外での販促活動の強化(H21~25)</p> <p>◆販売面では、国内・海外の展示販売会など商展に積極的に参加し商談を行った。</p> <p>(H24~25) EUへの青果及び果汁輸出に向けた取組を行い、輸出検閲圃場を設け、青果及び無農薬ユズ産金全体で取組を進めていくこととなった。</p>	<p>・衛生管理の徹底</p> <p>・適正在庫の管理</p> <p>・生産者価格の向上</p> <p>・EUへの青果及び果汁輸出体制整備</p>	◆ユズの生産拡大と高付加価値化
修正後					



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
ユズの生産拡大と高付加価値化					➔	ユズ加工品の販売額 (H19:3.4億円) (H22:4.6億円)	6億円
新ユズ加工施設の経営安定化、品質管理の向上							
品質向上のための施設整備の検討							
ユズの新商品開発、商品宣伝及び販促活動、販売体制の強化							
新産地の栽培指導強化		ユズ玉の品質向上					
栽培管理技術の向上、担い手となる生産者の育成							
ユズ産地構造改革計画の着実な実施			次期ユズ産地構造改革計画の検討・策定	計画の着実な実施			



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
ユズの生産拡大と高付加価値化					➔	ユズ加工品の販売額 (H19:3.4億円) (H22:4.6億円)	6億円
新ユズ加工施設の経営安定化、品質管理の向上							
品質向上のための施設整備の検討							
ユズの新商品開発、商品宣伝及び販促活動、販売体制の強化							
新産地の栽培指導強化		ユズ玉の品質向上					
栽培管理技術の向上、担い手となる生産者の育成							
ユズ産地構造改革計画の着実な実施			次期ユズ産地構造改革計画の検討・策定	計画の着実な実施			

修正項目(案)

【東北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			概要	課題	
<p>0 JA出資型法人を核とする地域活性化の取組 (東北地域全域)</p>	<p>農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などの課題解決を担い手農業者の向上と就業機会を創出するため、新たな担い手としてのJA出資型法人が農作業受託や遠休農地等を活用した農業経営、就業希望者の研修事業などを実施する。</p> <p>米穀に関しては、米穀の製造・販売や米穀加工商品の開発・販売、買付額をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外販など、米穀を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創出につなげる。</p>	<p>・JA庄内れいほく ・(株)れいほく未来 ・米米ハート</p>	<p>・JA出資型法人(株)れいほく未来の設立に向けた取組(H22~23) ◆(株)れいほく未来が、平成23年4月に設立され、事業が開始された。同社は、農作業の受託等による耕作放棄地の防止や農業担い手の育成などを行うこととしており、地域農業の新たな担い手として大きな役割を担っている。</p> <p>・米穀ビジネスの展開(H21~23) ◆米穀製粉工場稼働の展開、米穀パン工場のオープン(注)により米穀ビジネスも徐々に軌道にのりつつある。23年度末の目標達成には及ばなかったものの販売額も増加し、地域内の雇用の増加した。大蔵の米販売業者とのマッチングにより、米、米穀商品の販売について今後さらに販売拡大が見込まれる。米穀商品を新たに開発されており、米穀のさらなる利用拡大に向けた取組が期待される。</p>	<p>・経営の安定化 ・地域農業への貢献 ・米穀の高付加価値化 ・販路拡大</p>	<p>◆人材育成(社員教育等)  ◆担い手育成研修事業  ◆農業経営事業(圃芸、水稲)  ◆農作業受託事業  ◆米関連事業</p>

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			概要	課題	
<p>0 JA出資型法人を核とする地域活性化の取組 (東北地域全域)</p>	<p>農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などの課題解決を担い手農業者の向上と就業機会を創出するため、新たな担い手としてのJA出資型法人が農作業受託や遠休農地等を活用した農業経営、就業希望者の研修事業などを実施する。</p> <p>米穀に関しては、米穀の製造・販売や米穀加工商品の開発・販売、買付額をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外販など、米穀を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創出につなげる。</p>	<p>・JA庄内れいほく ・(株)れいほく未来 ・米米ハート</p>	<p>・JA出資型法人(株)れいほく未来の設立に向けた取組(H22~23) ◆農作業受託の取組、研修等担い手育成の取組(H24~25) ◆(株)れいほく未来が、平成23年4月に設立され、事業が開始された。同社は、農作業の受託等による耕作放棄地の防止や農業担い手の育成などを行うこととしており、地域農業の新たな担い手として大きな役割を担っている。</p> <p>・農業経営事業の安定化と地域農業貢献の取組(H24~25) ◆ピーマン園を中心とした農産作物の取組、販売や水稲・野菜の育苗事業、水稲を中心とした作業受託を経営の核とし売上高は伸びてきている。</p> <p>・米穀ビジネスの展開(H21~25) ◆米穀製粉工場稼働(H21)、米穀パン工場のオープン(H22)により、米穀ビジネスが徐々に進み始めた。平成23年度末までは目標達成には及ばないものの販売額も増加し、地域内の雇用の増加した。平成23年度まで全国的に米価暴落が起る。24年度には全国的に米穀が安くなり、地域内では25年度に生産意欲を回復している。大蔵の米販売業者とのマッチングにより、米、米穀商品の販売について、販売拡大が見込まれる。24年度からは、地産東北高専学校と連携し、新商品開発に取り組み、24年度に1品目、25年度に2品目の新商品を開発している。米穀の生産意欲の回復により米穀のさらなる利用拡大に向けた取組が期待される。</p>	<p>・経営の安定化 ・地域農業への貢献 ・米穀の高付加価値化 ・新商品(加工品)開発</p>	<p>◆人材育成(社員教育等)  ◆担い手育成研修事業  ◆農業経営事業(圃芸、水稲)  ◆農作業受託事業  ◆米関連事業</p>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>人材育成(社員教育等)</p> <p>経営技術の習得、研修施設整備の検討</p> <p>労務管理、各事業収支の把握</p> <p>資金運用、導入事業検討</p>					農業経営事業(園芸)売上高	3,000万円
<p>担い手育成研修事業</p> <p>大規模研修生受入準備</p> <p>就業支援、研修計画更新し、研修生募集</p>					研修による新規就農者数	3人(累計)
<p>農業経営事業(園芸、水産)</p> <p>組織整備、栽培品種検討</p> <p>経営規模の拡大、栽培品種、販売状況の検討</p>					事業主体への新規雇用数	2人(累計)
<p>農作業委託事業</p> <p>受託、組織研修習得・研修</p> <p>受託状況把握、受託料金等見直し</p>						
<p>米関連事業(米粉を除く)</p> <p>各産地の組織研修等研修習得、米等販売戦略構築、地域への連携事業の説明</p> <p>米等販売戦略、買い取り価格見直し</p> <p>ブランド米の生産拡大</p> <p>消費者との交流促進活動の展開</p> <p>米関連事業(米粉)</p> <p>米粉用米の生産拡大</p> <p>ブランド米粉への移行</p> <p>米粉の商品開発</p> <p>米粉の販売強化(IT販売、海外への試験販売等)</p> <p>米・米粉の販売促進活動</p> <p>米粉の品質向上</p> <p>販売チャネルの開設</p> <p>米米パート法人化に向けた検討</p> <p>米粉の産地別の推進</p>					米粉等の販売額(H21:4,300万円)(H22:5,189万円)	1.6億円【内訳】 4,000万円(米粉等) 5,000万円(米粉パン等) 7,000万円(ブランド米等)



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>人材育成(社員教育等)</p> <p>経営技術の習得、研修施設整備の検討</p> <p>労務管理、各事業収支の把握</p> <p>資金運用、導入事業検討</p>					農業経営事業(園芸)売上高	3,000万円
<p>担い手育成研修事業</p> <p>大規模研修生受入準備</p> <p>就業支援、研修計画更新し、研修生募集</p>					研修による新規就農者数	3人(累計)
<p>農業経営事業(園芸、水産)</p> <p>組織整備、栽培品種検討</p> <p>経営規模の拡大、栽培品種、販売状況の検討</p>					事業主体への新規雇用数	2人(累計)
<p>農作業委託事業</p> <p>受託、組織研修習得・研修</p> <p>受託状況把握、受託料金等見直し</p>						
<p>米関連事業(米粉を除く)</p> <p>各産地の組織研修等研修習得、米等販売戦略構築、地域への連携事業の説明</p> <p>米等販売戦略、買い取り価格見直し</p> <p>ブランド米の生産拡大</p> <p>消費者との交流促進活動の展開</p> <p>米関連事業(米粉)</p> <p>米粉用米の生産拡大</p> <p>ブランド米粉への移行</p> <p>米粉の商品開発</p> <p>米粉の販売強化(IT販売、海外への試験販売等)</p> <p>米・米粉の販売促進活動</p> <p>米粉の品質向上</p> <p>販売チャネルの開設</p> <p>米米パート法人化に向けた検討</p> <p>米粉の産地別の推進</p>					米粉等の販売額(H21:4,300万円)(H22:5,189万円)	1.1億円【内訳】 4,000万円(米粉等) 7,000万円(米粉パン等) 7,000円(ブランド米等)
					米粉の使用量(米粉パン等)	7,000kg
						【H24:282kg】



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
→					販売額 (H22:1.39億円)	1.8億円
商品の充実						
栽培講習会(果物・野菜)・現地圃場研修の開催、種苗配布						
業務体制の検討		業務の試行・実施				
オリジナル加工品の検討		オリジナル加工品の開発・販売促進活動				
施設・設備の整備の検討・導入						
→						
積極的な情報発信						
商品情報の充実 (レシピ・POP等の整備)	商品情報の発信					
販売促進活動・情報発信活動(広告やチラシの配布、催事の開催、消費者との交流活動等)						
→						
人材の育成						
定期的な運営委員会の開催(運営体制、企画、事業展開等)						
新規会員の開拓(生産者への呼びかけ・PR、研修会の開催等)						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
→					販売額 (H22:1.39億円)	1.8億円
商品の充実						
栽培講習会(果物・野菜)・現地圃場研修の開催、種苗配布						
業務体制の検討		業務の試行・実施				
オリジナル加工品の検討		オリジナル加工品の開発・販売促進活動				
施設・設備の整備の検討・導入						
→						
積極的な情報発信						
商品情報の充実 (レシピ・POP等の整備)	商品情報の発信					
販売促進活動・情報発信活動(広告やチラシの配布、催事の開催、消費者との交流活動等)						
→						
人材の育成						
定期的な運営委員会の開催(運営体制、企画、事業展開等)						
新規会員の開拓(生産者への呼びかけ・PR、研修会の開催等)						

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興  《本山町、土佐町、大豊町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、飼養者の競争力を確保するとともに、土佐あかうしの生産基地化を図る。 また、繁殖・肥育の一貫経営を行い、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取組を進める。	・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・土佐町 ・大豊町	・放牧場用地の選定(H21~23) ・簡易放牧場の設置(H22) ◆放牧場の選定が確保できなかったことから、土佐あかうしの増頭や新たな雇用につながらなかった。一方、嶺北地域では、土佐あかうしの増頭や施設整備の計画があり、その計画との関連性が見いだせれば、土佐あかうしによる地域の畜産振興の可能性はある。	・放牧地や畜舎等(付帯施設)の土地の確保 ・畜産農家の減少による放牧整備後の運営	◆飼養者の競争力を確保するための取組          ◆生産基地の整備と6次産業化に向けた取組



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興  《本山町、土佐町、大豊町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、飼養者の競争力を確保するとともに、土佐あかうしの生産基地化を図る。 また、繁殖・肥育の一貫経営を行い、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取組を進める。	・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・土佐町 ・大豊町	・放牧場用地の選定(H21~23) ・簡易放牧場の設置(H22) ◆平成24年度には放牧を実施したが、継続して放牧場を確保できなかったことから、土佐あかうしの増頭や新たな雇用につながらなかった。一方、嶺北地域では、土佐あかうしの未来を担う産地事業が始まり、繁殖雌牛150頭・肥育牛250頭規模の畜舎建設が進んでいる。また、個人でも「レンタル畜舎等施設整備事業」による畜舎整備計画があり、土佐あかうし増頭の取組が進行している。	・放牧地の土地の確保や畜舎等(付帯施設)の整備 ・畜産農家の減少による放牧整備後の運営	◆飼養者の競争力を確保するための取組          ◆生産基地の整備と6次産業化に向けた取組

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
飼養者の競争力を確保するための取組					→	土佐あかうしの販売額 (H19:2億円) (H22:1.9億円)	2.1億円
公営放牧場の用地の確保		牧場の整備	管理畜舎の整備	放牧の開始			
牛肉の加工品の開発・商品化							
生産基地の整備と6次産業化に向けた取組					→		
肥育畜舎及び付帯施設の整備		繁殖畜舎の整備	食肉加工施設の整備	食肉の販売開拓			
担い手の確保・育成(研修生の受け入れ)							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
飼養者の競争力を確保するための取組					→	土佐あかうしの販売額 (H19:2億円) (H22:1.9億円)	2.1億円
公営放牧場の用地の確保			牧場の整備	管理畜舎の整備、 放牧の開始			
牛肉の加工品の開発・商品化							
生産基地の整備と6次産業化に向けた取組					→		
肥育畜舎及び付帯施設の整備		繁殖畜舎の整備	食肉加工施設の整備	食肉の販売開拓			
担い手の確保・育成(研修生の受け入れ)							

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 (大川村)	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。	・(株)むらびと本舗 ・大川村	<p>&lt;大川黒牛&gt; ・繁殖雌牛の保留・更新(H21~23) ・新たな事業主体による事業継続(H23~)</p> <p>◆平成21~23年度に大川村の支援を受けて繁殖雌牛の更新(若返り)を一部行ったが増頭や新たな雇用には至っていない。また、大川村和牛生産組合は平成23年3月末で解散し、4月より(株)むらびと本舗が経営と生産を引き継ぎ雇用を維持したが、肉用牛事業については、増頭も含めた経営の安定化に努める必要がある。</p> <p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt; ・生産施設の整備(H21~23) ・販売促進活動(H21~23) ◆10万羽の生産施設の整備は22年度に完了し、新たな雇用が生まれるなどの効果が生まれている。一方、施設整備や施設の改築を行いつつ短期間に生産羽数を伸ばしたことなどから、職員の飼養管理技術が追いつき育成率、飼料効率等が低下し収益を下げている。</p>	<p>&lt;大川黒牛&gt; ・繁殖雌牛の高齢化 ・繁殖雌牛の導入及び育成経費の確保</p> <p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt; ・飼養管理技術の習得 ・出荷体制の改善 ・生産原価の上昇</p>	<p>◆飼養者の競争力を確保するための取組</p> <p>◆生産基地の整備と6次産業化に向けた取組</p>

修正前



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 (大川村)	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。	・(株)むらびと本舗 ・大川村	<p>&lt;大川黒牛&gt; ・繁殖雌牛の保留・更新(H21~23) ・新たな事業主体による事業継続(H23~)</p> <p>◆平成21~23年度に大川村の支援を受けて繁殖雌牛の更新(若返り)を一部行い54頭に増頭したが、新たな雇用には至っていない。また、大川村和牛生産組合は平成23年3月末で解散し、4月より(株)むらびと本舗が経営と生産を引き継ぎ雇用を維持したが、肉用牛事業については、増頭も含めた経営の安定化に努める必要がある。</p> <p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt; ・生産施設の整備(H21~25) ・販売促進活動(H21~25) ◆10万羽の生産施設の整備は平成22年度に完了し、新たな雇用が生まれるなどの効果が認められた。一方、施設整備や施設の改築を行いつつ短期間に生産羽数を伸ばしたことなどから、職員の飼養管理技術が追いつき育成率、飼料効率等が低下し収益を下げている。</p>	<p>&lt;大川黒牛&gt; ・繁殖雌牛の高齢化 ・繁殖雌牛の導入及び育成経費の確保 ・肥育牛の増頭</p> <p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt; ・飼養管理技術の習得 ・出荷体制の改善 ・生産原価の上昇</p>	<p>&lt;大川黒牛&gt; ◆更新牛の増頭 繁殖雌牛の導入</p> <p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt; ◆飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備</p>

修正後



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>&lt;大川黒牛&gt;更新牛の増頭、繁殖雌牛の導入</p> <p>繁殖雌牛の自家更新・外部導入(45頭(H23)→75頭(H27))</p>					<p>黒牛の販売額 (H19:7.0千万円) (H22:6.5千万円)</p>	8.2千万円	
<p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備</p> <p>中期事業計画の実践(経営改善、体制改善、販路拡大等)</p> <p>次期中期事業計画の策定</p> <p>次期中期事業計画の実践</p> <p>飼養管理技術の向上(先進事例の視察、研修会の実施等)</p> <p>食鳥処理・加工施設の検討</p> <p>食鳥処理・加工施設の整備</p> <p>はちきん地鶏の販路開拓、加工品の開発・販路開拓</p> <p>村内農家への普及と飼育開始</p>							<p>出荷羽数 (H19:1万羽) (H22:5.1万羽)</p>



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>&lt;大川黒牛&gt;更新牛の増頭、繁殖雌牛の導入</p> <p>繁殖雌牛の自家更新・外部導入(45頭(H23)→75頭(H27))</p>					<p>黒牛の販売額 (H19:7.0千万円) (H22:6.5千万円)</p>	8.2千万円	
<p>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備</p> <p>中期事業計画の実践(経営改善、体制改善、販路拡大等)</p> <p>次期中期事業計画の策定</p> <p>次期中期事業計画の実践</p> <p>飼養管理技術の向上(先進事例の視察、研修会の実施等)</p> <p>食鳥処理・加工施設の検討</p> <p>食鳥処理・加工施設の整備</p> <p>はちきん地鶏の販路開拓、加工品の開発・販路開拓</p> <p>村内農家への普及と飼育開始</p>							<p>出荷羽数 (H19:1万羽) (H22:5.1万羽)</p>

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進 《嶺北地域全域》  変更前	大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業者による雇用の促進へとつなげる。	・高知おおとよ製材(株) ・大豊町	・大型製材工場の誘致(H21~23) ◆具体的な誘致先企業と誘致交渉の結果、H23年9月に大豊町への進出協定の締結が実現した。	・大型製材工場の設置 ・原木の供給体制づくり	◆大型製材工場の設置          ◆原木の供給体制づくり



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進 《嶺北地域全域》  変更後	大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業者による雇用の促進へとつなげる。	・高知おおとよ製材(株) ・大豊町	・大型製材工場の誘致(H21~23) ◆具体的な誘致先企業と誘致交渉の結果、H23年9月に大豊町への進出協定の締結が実現した。	・大型製材工場の設置 ・原木の供給体制づくり	◆大型製材工場の設置          ◆原木の供給体制づくり

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
▶					製材品の生産量	55,000m <sup>3</sup>
大型製材工場の設置 施設整備	操業開始		フル生産	健全運営		
▶						
原木の供給体制づくり	(No10の取組による)					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
▶					製材品の生産量	55,000m <sup>3</sup>
大型製材工場の設置 施設整備	操業開始		フル生産	健全運営		
			CLT/パネル工場の設置検討	CLT/パネル工場の整備		
▶						
原木の供給体制づくり	(No10の取組による)					

修正項目(案)



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
16 木質バイオマス利用拡大の取組 《嶺北地域全域》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。	・民間事業者 ・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村	・加工施設の設置・事業展開(H23) ・木質バイオマスボイラー等の導入設置(H22～23) ◆木質バイオマス利用施設の導入により、木質資源の利活用が促進された。また、工場残材の有効利用により、燃料コスト削減が成果として見え始めている。 一方、木質バイオマス加工施設の建設が進んでいることから、H24以降は地域内の未利用間伐材(林地残材)の利活用が促進されることに期待ができる。	・原木(C材)の安定供給体制の構築 ・木質バイオマスの利用拡大	◆原木(C材)の安定供給          ◆木質バイオマス発電施設等の導入検討





【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
16 木質バイオマス利用拡大の取組 《嶺北地域全域》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。	・民間事業者 ・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村	・加工施設の設置・事業展開(H23) ・木質バイオマスボイラー等の導入設置(H22～25) ◆木質バイオマス利用施設の導入により、木質資源の利活用が促進された。また、工場残材の有効利用により、燃料コスト削減が成果として見え始めている。 一方、木質バイオマス加工施設が建設されたことにより、地域内の未利用間伐材(林地残材)の利活用が促進されてきている。	・原木(C材)の安定供給体制の構築 ・木質バイオマスの利用拡大	◆原木(C材)の安定供給          ◆木質バイオマス発電施設等の導入検討

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					テップ材の取扱量	2,500t	
原木(C材)の安定供給							
土佐町森林資源活用検討協議会による事業展開の検討、仕組みづくり							
林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による仕組みづくり(本山町、土佐町、大川村)		林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による実践活動(本山町、土佐町、大川村)					
							
木質バイオマス発電施設等の導入検討							
木質バイオマス発電施設等の導入に向けた調査・検討(大豊町)	木質バイオマス発電施設等の実施主体の会社設立及び設備認定(大豊町)	木質バイオマス発電施設等の整備(大豊町)	木質バイオマス発電施設等の稼働(大豊町)				



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					テップ材の取扱量	2,500t	
原木(C材)の安定供給							
土佐町森林資源活用検討協議会による事業展開の検討、仕組みづくり							
林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による仕組みづくり(本山町、土佐町、大川村)		林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による実践活動(本山町、土佐町、大川村)					
							
木質バイオマス発電施設等の導入検討							
木質バイオマス発電施設等の導入に向けた調査・検討(大豊町)		木質バイオマス発電施設等の実施主体の会社設立及び設備認定(大豊町)	木質バイオマス発電施設等の整備(大豊町)	木質バイオマス発電施設等の稼働(大豊町)			
		木質バイオマス加工施設の整備(大豊町)					

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 白壁山・工石山を活用した 交流人口の拡大による地 域活性化の取組  (本山町)	白壁山、工石山(奥工石)の 有する豊かな自然、貴重な地 質や森林資源などを活かした 取組や嶺北地域の他の資源 との連携も視野に入れた取組 を進め、交流人口の拡大を目 指す。	・本山町白壁山・工 石山保全活用推進 協議会 ・本山町	・地元団体との協議(H22~23) ・本山町白壁山・工石山保全活用推 進協議会の設立と事業計画の策定 (H23) ◆取組を推進する関係者・機関によ り、案内ルートの整備、ガイドの養 成研修、現地調査などを行うなど活 用に向けた協議が開始された。当 初の計画からは遅れたが、平成23 年11月に推進母体となる本山町白 壁山・工石山保全活用推進協議会 が設立され、推進体制が整った。	・取組内容の構築 ・ガイドの養成	◆受け入れ体制の整備 (ハード)  ◆受け入れ体制の整備 (ソフト)  ◆ツアー開催

修正前



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 白壁山・工石山を活用した 交流人口の拡大による地 域活性化の取組  (本山町)	白壁山、工石山(奥工石)の 有する豊かな自然、貴重な地 質や森林資源などを活かした 取組や嶺北地域の他の資源 との連携も視野に入れた取組 を進め、交流人口の拡大を目 指す。	・本山町白壁山・工 石山保全活用推進 協議会 ・本山町	・地元団体との協議(H22~23) ・本山町白壁山・工石山保全活用推 進協議会(以下、協議会)の設立と 事業計画の策定(H23) -協議会による、歩道整備やガイド 養成研修等の実施(H24~25) ◆取組を推進する関係者・機関によ り、案内ルートの整備、ガイドの養 成研修、現地調査などを行うなど活 用に向けた協議が開始された。当 初の計画からは遅れたが、平成23 年11月に推進母体となる本山町白 壁山・工石山保全活用推進協議会 が設立された。 協議会により、歩道整備やガイド養 成研修等が開始されており、白壁山 観を活用したツアー開催の体制が 整いはじめた。	・取組内容の構築 ・ガイドの養成	◆受け入れ体制の整備 (ハード)  ◆受け入れ体制の整備 (ソフト)  ◆ツアー開催

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
→					ツアー参加者	200人
受け入れ体制の整備(ハード)						
現地調査	歩道・ベンチ等の整備、案内板の設置		歩道や案内板の補修			
→						
受け入れ体制の整備(ソフト)						
ガイド育成 企画、開発	内容の見直し、新たなコースの開発					
登山ルートマップの作成						
→						
ツアー開催						
モニターツアー、エージェン ト提携ツアーの開催などの PR活動	ツアーの開催					



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
→					ツアー参加者	200人
受け入れ体制の整備(ハード)						
現地調査	歩道・ベンチ等の整備、案内板の設置		歩道や案内板の補修			
→						
受け入れ体制の整備(ソフト)						
ガイド育成 企画、開発	内容の見直し、新たなコースの開発					
登山ルートマップの作成						
→						
ツアー開催						
モニターツアー、エージェン ト提携ツアーの開催などの PR活動	ツアーの開催					

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
26 小水力発電の導入による地域活性化の取組 《嶺北地域全域》	地球温暖化防止対策等として再生可能エネルギーの利用の関心が高まっているなか、地域の豊富な水資源を活用して小水力発電を導入することにより、再生可能エネルギー取組の先導地として地域の活性化を図る。	・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村			◆小水力発電施設の導入適地調査・検討及び導入


修正前




項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 小水力発電の導入による地域活性化の取組 《嶺北地域全域》	地球温暖化防止対策等として再生可能エネルギーの利用の関心が高まっているなか、地域の豊富な水資源を活用して小水力発電を導入することにより、再生可能エネルギー取組の先導地として地域の活性化を図る。	・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4町村情報共有・意見交換会</li> <li>・勉強会開催</li> <li>・国の助成事業制度等の情報提供</li> <li>・有界地点調査</li> <li>・高知県公営企業局再生可能エネルギー活用事業費補助金の活用(土佐町)</li> </ul> <p>◆小水力発電に関する情報の共有 ◆嶺域内の3地点(大豊町2、大川村1)についての候補地調査の実施 ◆小水力発電を活用した地域活性化の取組への理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・候補地の選定</li> <li>・事業主体のあり方</li> <li>・事業資金の確保</li> <li>・水利権等法的手続き</li> </ul>	◆小水力発電施設の導入適地調査・検討及び導入

修正後



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					導入施設数	7カ所	
小水力発電施設の導入適地調査・検討及び導入	住民説明会の実施(普及・啓発・PR)						
勉強会(アドバイザーの活用)・先進地視察等の実施	適地調査等の実施						
モデル事業の検討・実施	導入適地への小水力発電施設導入及び発生電力の活用						



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					導入施設数	7カ所	
小水力発電施設の導入適地調査・検討及び導入	住民説明会の実施(普及・啓発・PR)						
勉強会(アドバイザーの活用)・先進地視察等の実施	適地調査等の実施						
モデル事業の検討 関係機関(河川管理者・水路管理者・電力会社等)との協議	導入適地への小水力発電施設導入及び発生電力の活用						

# 平成26年度 仁淀川地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		12	12	10	12	8	15
1	仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上		●	●	●	●	●
2	地域を支える基幹品目の振興			●	●	●	●
3	薬用作物の産地拡大による所得の向上			●	●	●	●
4	力強い高糖度トマト産地の確立			●	●		●
5	JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化	●					
6	加工用ワサビの加工の促進	●					
7	土佐文旦の加工	●					
8	生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)	●					
9	いの地域における園芸産地の維持・発展		●				
10	集落営農の推進		●				
11	本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発		●				
12	農業振興ネットワークの構築による地域の活性化						●
13	仁淀川流域における木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
14	特用林産物の販売拡大	●	●	●	●	●	●
15	うるめのブランド化	●					
16	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●				
17	高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興	●					
18	いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化		●				
19	地域産品を活用した冷凍等の製造販売		●				
20	鯖フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進			●			
21	売れる商品づくりによる地産外商の推進				●		
22	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化						●
23	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)						●
24	企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)						●
25	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
26	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大			●	●	●	●
27	集客施設の整備による新居地区の活性化	●					
28	体験型観光・食観光の推進	●					
29	体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり		●				
30	山岳資源を活用した交流人口の拡大		●				
31	観光情報の一元化とおもてなし観光の推進			●			
32	歴史的風致維持向上計画の推進				●		
33	佐川町における知的体験型観光の推進				●		
34	佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化				●		
35	越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進					●	
36	直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化						●
37	屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化						●
38	国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化						●

【仁淀川地域】

						改定案(平成26年度)	
土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	
12	12	10	10	8	15		
	●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上
		●	●	●	●	2	地域を支える基幹品目の振興
		●	●	●	●	3	薬用作物の産地拡大による所得の向上
		●	●		●	4	力強い高糖度トマト産地の確立
●						5	JAとさし團芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化
●						6	加工用ワサビの加工の促進
●						7	土佐文旦の加工
●						8	生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)
	●					9	いの地域における園芸産地の維持・発展
	●					10	集落営農の推進
	●					11	本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発
					●	12	農業振興ネットワークの構築による地域の活性化
●	●	●	●	●	●	13	仁淀川流域における木材産業の振興
●	●	●	●	●	●	14	特用林産物の販売拡大
●						15	うるめのブランド化
●	●					16	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
●						17	集客施設を核にした高岡地区の活性化
	●					18	いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化
	●					19	地域産品を活用した冷菓等の製造販売
		●				20	鯛フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進
			●			21	売れる商品づくりによる地産外商の推進
					●	22	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化
					●	23	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)
					●	24	企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)
					●	25	直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化
●	●	●	●	●	●	26	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
		●	●	●	●	27	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大
●						28	集客施設の整備による新居地区の活性化
●						29	体験型観光・食観光の推進
	●					30	体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり
	●					31	山岳資源を活用した交流人口の拡大
		●				32	観光情報の一元化とおもてなし観光の推進
			●			33	歴史的風致維持向上計画の推進
				●		34	越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進
					●	35	屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化
					●	36	国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化

名称変更

拡充

名称変更

統合



仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■その他（拡充、統合）

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	<p>No. 21 売れる商品づくりによる地産外商の推進（佐川町）</p> <p>【実施主体】佐川町、JAコスモス、佐川町商工会、企画本舗さかわ屋、地元酒造会社、地元乳業者、地元加工業者、黒岩じるし、地元酪農家 など</p>	<p>【拡充】平成 21 年度から「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品の商品化に重点を置いて進めてきたが、新たに佐川町の農産物を活用した加工品づくりにも取り組むこととし、プランの内容を拡充する。</p>
2	<p>No. 32 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>【実施主体】佐川町</p> <p>No. 33 佐川町における知的体験型観光の推進（佐川町）</p> <p>【実施主体】佐川町</p> <p>No. 34 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化（佐川町）</p> <p>【実施主体】佐川町</p>	<p>【統合】平成 21・22 年度に、国庫補助事業である「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎（旧青山文庫）の上町地区への移築や、景観を損なっている建物を取り壊して小公園の整備を行うなど、古い町並みを活用した観光資源の整備に着手した。</p> <p>平成 24 年度には、国庫補助事業である「街並み環境整備事業」を活用し、牧野富太郎博士の生家跡に「牧野富太郎ふるさと館」を整備、さらに、平成 25 年度には、旧酒蔵商家の浜口家住宅をリニューアルして、観光客のお立ち寄り処やさかわ観光協会の活動拠点となる「浜口邸」がオープンした。</p> <p>現在、藩政時代に家臣の子息の学びの場であった「名教館」を移築、改修する工事の施工中であり、年度末には完成の予定となっている。</p> <p>このように、古い町並みの残る佐川町上町地区でのハード整備が進んできたことから、個別の地域アクションプランとして位置付けしていたものを「歴史的風致維持向上計画の推進」に統合して、NPO 法人佐川くろがねの会による町並みガイドや、佐川町の歴史や文化を学ぶ場としての名教館の活用など、ハードとソフトが一体となった観光振興の取組を進める。</p>

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 売れる商品づくりによる地産外高の推進 (佐川町)	佐川町において、地元民間企業の商品の販売促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外高を推進し、外貨の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐川町</li> <li>JAコスモス</li> <li>佐川町商工会</li> <li>企画本舗さかわ屋</li> <li>地元畜産会社</li> <li>地元乳業者</li> <li>地元加工業者</li> <li>黒岩じりし</li> <li>地元酪農家 など</li> </ul>	<p>・地元産品による売れる商品づくり(H21~H23)</p> <p>◆平成21年度から酪農家を含めた農工商連携組織である地乳プロジェクト会を設置し、地元産の牛乳を使った商品づくりの取組を進めた。</p> <p>平成22年度には、「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品シリーズの商品化を図り、そのPR・販売促進に取り組んだ。</p> <p>平成23年度には、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加し、酪農家の所得も上がってきた。また、地乳加工品も増え、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果も見込まれる。</p> <p>◆県内量販店との販売取組も進み、今後の展開によっては、生産者・加工業者の所得が更に向上し、地域への経済波及効果が見込まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「さかわの地乳」シリーズ商品の管理、「地乳」商標管理を含めた組織の確立と体制の強化</li> <li>酪農家への直接収入化となる取組の実施</li> <li>「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆製乳施設整備</li> <li>◆地乳加工施設整備</li> <li>◆加工品生産及び販売促進体制づくり</li> </ul>

修正前



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
製乳施設整備						生乳出荷量の拡大 (H21:240t) (H22:260t)	480t
製乳施設の整備							
地乳加工施設整備							
各加工業者の加工施設の整備							
加工品生産及び販売促進体制づくり							
地乳ブランドのための製乳及び加工品の販売促進活動による消費拡大							
販促管理・商標管理等の組織の構築							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
製乳施設整備						生乳出荷量の拡大 (H21:240t) (H22:260t)	480t
製乳施設の整備							
地乳加工施設整備							
各加工業者の加工施設の整備							
加工品生産及び販売促進体制づくり							
地乳ブランドのための製乳及び加工品の販売促進活動による消費拡大							
販促管理・商標管理等の組織の構築							
地元産産物等を使った加工品の開発販売							
地元産産物を使った商品の開発・販売							

統合項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
32 歴史的風致維持向上計画の推進 《佐川町》  統合前①	「文政のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。	佐川町	<ul style="list-style-type: none"> <li>一体的な歴史的風致の形成への取組(H21~23)</li> <li>◆平成21~22年度は、歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図っている。</li> <li>また、ソフト事業では、ホームページやパンフレットの作成など対外的な広報活動、情報発信を行うとともに、イベントの開催など、地域での継続的な活動も行っており、徐々にではあるが観光客の増加がみられている。</li> <li>◆平成23年度には、国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行しながら、取組は継続しており、平成23年度に、「街なみ環境整備事業計画書」を作成し、引き続き観光資源としての整備と活用を続けていくこととした。</li> <li>地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組</li> <li>佐川町の物産販売、情報発信や地域で作り込んだ観光の提案を積極的に実施する観光組織の設立</li> </ul>	◆一体的な歴史的風致の形成
33 佐川町における知的体験型観光の推進 《佐川町》  統合前②	学ぶ楽しみ・解れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ、大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光「まじり指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組む。佐川町における知的体験型観光を推進し、交通人口の拡大につなげる。	佐川町	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的体験型観光の基盤拡大のための条件整備(H23)</li> <li>◆平成23年度作成の「さかわ文政・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画」は「さかわ文政・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画」の中で「佐川学」テーマに量より質の知的体験の観光地域づくりを掲げ、知的体験ができる施設の移築・整備を進めることにより、新たな観光メニューの創出による、地域への経済効果波及や地域活性化等の効果が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、観光資源としての活用を検討</li> </ul>	◆知的体験型観光の基盤拡大のための条件整備
34 佐川町取組資料を活用した地域の活性化 《佐川町》  統合前③	佐川町には多くの個人の取組資料があり、特に建築物等として世界的に著名な牧野富太郎博士の植物標本や植物図等の資料が多くある。こうした取組資料等の展示施設を整備し、集客の場としての充実を図り、「牧野博士」や「佐川の偉人」をテーマとした文政での地域活性化を推進する。	佐川町	<ul style="list-style-type: none"> <li>牧野博士の取組資料の多面的な活用(H23)</li> <li>◆平成23年度に「さかわ文政・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画」と「さかわ文政・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画」を策定しており、その中で、佐川町にある個人の取組資料を活用、特に「牧野博士」を展示する施設の整備を計画しており、新たな観光メニューによる、地域への経済効果波及や地域活性化等の効果が期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、観光資源としての活用を検討</li> </ul>	◆佐川の偉人の取組資料の多面的な活用



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
33 歴史的風致維持向上計画の推進 《佐川町》  統合後	「文政のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組む。佐川町における知的体験型観光を推進し、観光資源としての充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐川町</li> <li>さかわ観光協会</li> <li>佐川町内の地域づくり関連団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一体的な歴史的風致の形成への取組(H21~23)</li> <li>◆平成21~22年度は、歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図った。</li> <li>◆平成23年度には、国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行しながら、取組は継続している。</li> <li>地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</li> <li>◆平成24年度には、牧野富太郎博士の生家跡に「牧野富太郎ふるさと館」がオープンした。</li> <li>◆平成25年度には、旧浜口家住宅を復元し、観光拠点となる「さかわ観光協会」が完成した。年度表には、さかわ文政の町を司る「名義館」が完成し、観光資源としての活用が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組</li> <li>さかわ観光協会を中心とした、佐川町の物産販売、情報発信や地域で作られた観光の提案を積極的に実施</li> </ul>	◆一体的な歴史的風致の形成



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>一体的な歴史的風致の形成</p> <p>浜口邸の整備</p> <p>牧野富太郎生家の復元整備</p> <p>歴史的風致地区へのJR客車移設</p> <p>牧野公園の整備</p> <p>風致地区の標識整備</p> <p>佐川町歴史的風致維持向上計画協議会における歴史的風致維持向上施設の新築、提言等</p> <p>佐川町物産・観光ツールの検討</p> <p>佐川町物産・観光振興組織の構築</p> <p>まちの駅を中心とした風致地区の観光活性化事業の実施</p>					<p>歴史的風致地区への入込客数</p>	5,000人
<p>知的体験型観光の集客拡大のための条件整備</p> <p>知的体験型観光のメニューづくり、施設活用方法の検討</p> <p>名教館の移設・整備</p> <p>牧野公園花見棟・売店棟の整備</p> <p>知的体験型観光の整理運営組織の構築</p> <p>知的体験型観光メニューの実施</p>					<p>知的体験施設への入込客数</p>	5,000人
<p>佐川の埋入の収蔵資料の多面的な活用</p> <p>施設の新築及び運営管理方法等の検討</p> <p>佐川町埋入資料館の整備</p> <p>収蔵資料活用方法の検討、活用メニューの実施など</p> <p>運営管理組織の構築</p>					<p>資料館への入込客数</p>	5,000人



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>一体的な歴史的風致の形成</p> <p>浜口邸の整備</p> <p>牧野富太郎生家の復元整備</p> <p>歴史的風致地区へのJR客車移設</p> <p>牧野公園の整備</p> <p>風致地区の標識整備</p> <p>佐川町歴史的風致維持向上計画協議会における歴史的風致維持向上施設の新築、提言等</p> <p>佐川町物産・観光ツールの検討</p> <p>まちの駅を中心とした風致地区の観光活性化事業の実施</p> <p>名教館の移設・整備</p> <p>牧野公園花見棟・売店棟の整備</p> <p>知的体験型観光メニューの実施</p> <p>佐川町の埋入の収蔵資料活用のための施設整備及び運営管理方法等の検討</p> <p>収蔵資料活用方法の検討、活用メニューの実施など</p>					<p>歴史的風致地区への入込客数</p>	10,000人

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興 《土佐市》	サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。	土佐市商店街活性化推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画の策定(H23)</li> <li>◆集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な運営のため、他店舗(スーパー等)との差別化</li> </ul>	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり
修正前					



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
17 集客施設を核にした高岡地区の活性化 《土佐市》	サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。	土佐市商店街活性化推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画の策定(H23)</li> <li>◆集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。</li> </ul> ◆高岡商店街集客施設「ドラゴン広場」オープン(H25.3末プレ、H25.4正式オープン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>集客施設の安定的な運営</li> </ul>	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり
修正後					

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり					→	施設での販売額	1.1億円
乗客施設の整備、オープン		乗客施設の安定した運営					
観光案内、情報発信							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり					→	施設直販市での販売額	79,000千円
乗客施設の整備、オープン		乗客施設の安定した運営					
観光案内、情報発信							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
25 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 《仁淀川地域全域》	仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。	・仁淀川地域観光協議会 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物販情報の発信</li> <li>◆観光客の誘致</li> <li>◆観光資源の旅行商品化</li> <li>◆物産品開発と販売促進</li> <li>◆地域コーディネート組織の整備</li> </ul>

修正前



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 《仁淀川地域全域》	仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。	・仁淀川地域観光協議会 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・さかわ観光協会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした広域観光の推進(H22~)</li> <li>◆広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立(H22)</li> <li>◆仁淀川地域観光協議会の設立以降、旅行商品の企画と旅行会社への売り込みによるツアー造成は、飛躍的に実績数を伸ばしている。</li> <li>◆また、屋形船の運航(日高村)や、河原でのバーベキューサービス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。</li> <li>◆主要観光施設への入込客数も前年比で増加しているほか、カヌーやラフティングの参加者数、ツアー造成の実績数なども順調に増加している。</li> </ul> <p>○ツアーの進行 H23:30ツアーで663人 H24:110ツアーで2,477人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村や観光団体の連携の醸成</li> <li>・県販ふるさと雇用専業終了後の運営財源の確保</li> <li>・ツアー造成で取り上げてもらえる地域内の観光資源を掘り起こし継続的な誘客へつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物販情報の発信</li> <li>◆観光客の誘致</li> <li>◆観光資源の旅行商品化</li> <li>◆物産品開発と販売促進</li> <li>◆仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組</li> </ul>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数(H23:500人)	730人 (年10%アップ)
					公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19:52,156人)(H22:52,902人)	56,000人
					主要観光施設の入込数(H19:136,380人)(H22:135,029人)	140,000人
					「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物販情報の発信	
					地域情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)	
					レベルアップや品質向上のための研修会等の実施(仁淀川地域特別情報員や各市町村担当職員を対象とした研修会、講習会の実施)	
					広域観光案内(来訪や電話による問合せへの対応、地域のお勧め情報の提供)	
					観光客の誘致	
					旅行商品や観光資源等のプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)	
					観光関係調査の実施(モニターツアー等によるアンケート調査の実施、指標や設定目標、効果測定のために把握する必要がある基礎数値の調査)	
					観光資源の旅行商品化	
					観光資源の発掘と磨き上げ(市町村や観光関係団体による観光資源の発掘や体験プログラム等の磨き上げ、体験プログラム実施体制の整備等)	
					旅行商品化への取組(ターゲット別、テーマ別などに観光資源を組み合わせた周遊ツアーの達成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の達成)	
					物産品開発と販売促進	
					地域物産品の商品開発とPR	
					地域コーディネーター組織の整備	
					法人化及び観光関係業務導入の検討・事業計画の策定	
					観光関係業務の申請	
					組織強化	



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数(H23:500人)	730人 (年10%アップ)
					公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19:52,156人)(H22:52,902人)	56,000人
					主要観光施設の入込数(H19:136,380人)(H22:135,029人)	140,000人
					「奇跡の清流仁淀川」ブランドを活かした観光・物販情報の発信	
					地域情報の収集及び発信(各市町村及び関係団体からの情報収集、HP等のインターネットツールやパンフレット等を活用した観光情報等の発信)	
					レベルアップや品質向上のための研修会等の実施(仁淀川地域特別情報員や各市町村担当職員を対象とした研修会、講習会の実施)	
					広域観光案内(来訪や電話による問合せへの対応、地域のお勧め情報の提供)	
					観光客の誘致	
					旅行商品や観光資源等のプロモーション活動(旅行会社への売り込み、旅行商品販売に向けたチラシ・パンフレット等の作成)	
					観光関係調査の実施(モニターツアー等によるアンケート調査の実施、指標や設定目標、効果測定のために把握する必要がある基礎数値の調査)	
					観光資源の旅行商品化	
					観光資源の発掘と磨き上げ(市町村や観光関係団体による観光資源の発掘や体験プログラム等の磨き上げ、体験プログラム実施体制の整備等)	
					旅行商品化への取組(ターゲット別、テーマ別などに観光資源を組み合わせた周遊ツアーの達成、旅行会社と連携した魅力ある旅行商品の達成)	
					物産品開発と販売促進	
					地域物産品の商品開発とPR	
					仁淀川地域観光協議会の安定した運営に向けた取組	
					運営財源の確保及び組織体制の検討	
					安定した運営の実施	

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
27 集客施設の整備による 新居地区の活性化  (土佐市)	土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「南風の駅」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	・(仮称)「企業組合土佐の夜明け」を予定	・体験型観光及び食観光の推進(H21~23) ◆地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。	・施設整備の内容や運営方法、体制等の検討	◆規格外の農産物等を使ったレストランの設置  ◆仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信
修正前					



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
28 集客施設の整備による 新居地区の活性化  (土佐市)	土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「観光交流センター」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。	・(仮称)「企業組合土佐の夜明け」を予定	・体験型観光及び食観光の推進(H21~23) ◆地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。  -新居地区への新たな集客施設の整備の検討(H24~25) ◆防災機能を備えた複合施設として整備する検討が進んだ。	・施設整備の内容や運営方法、体制等の検討	◆規格外の農産物等を使ったレストランの設置  ◆仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信
修正後					

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
→							
規格外の農産物等を使ったレストランの設置							
「南風の駅」(仮称)整備及び運営方法の検討	「南風の駅」(仮称)オープン	レストランの安定した運営					
→							
仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信							
観光案内機能についての検討	「南風の駅」(仮称)内での観光案内及び情報発信 など						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
→						
規格外の農産物等を使ったレストランの設置						
「観光交流センター」(仮称)整備及び運営方法の検討			「観光交流センター」(仮称)オープン	「観光交流センター」の安定した運営		
→						
仁淀川及び新居海岸等を活用した観光メニューの案内及び情報発信						
観光案内機能についての検討			「観光交流センター」(仮称)内での観光案内及び情報発信 など			

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
30 山岳資源を活用した交流人口の拡大 (いの町)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。	いの町 いの町観光協会	・体験メニュー等の開発(H21~23) ◆高地トレーニングのモニター等は実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。	・体験メニュー等の商品化 ・商品化に向けての資源の掘り起こし ・売り込み先の確保	◆観光施設と連携した体験型観光の推進  ◆新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)  ◆集客に向けての観光施設の検討と整備



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
31 山岳資源を活用した交流人口の拡大 (いの町)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。	いの町 いの町観光協会	・体験メニュー等の開発(H21~25) ◆高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。 ◆冬期資源を活用するためのモニターツアーを開催し、旅行業関係者等から商品化に向けた助言を受けた。	・体験メニュー等の商品化 ・商品化に向けての資源の掘り起こし ・売り込み先の確保	◆観光施設と連携した体験型観光の推進  ◆新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)  ◆集客に向けての観光施設の検討と整備



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
観光施設と連携した体験型観光の推進					→	本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,800人)	71,000人 (5%アップ)
県内・県外(瀬戸内圏)への売り込み・課題の検討		商品の磨き上げと商品の多様化					
木の香温泉を拠点とした体験観光の検討		体験観光の試行	体験観光の商品化				
新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)					→		
新たに活用できる資源の検討	新たな体験メニューの検討	体験メニューの試行	体験メニューの商品化				
インストラクターの養成							
集客に向けての観光施設の検討と整備					→		
施設利用者等の調査と検証	施設整備に係る実施計画と設計		施設の整備				
施設への集客の計画							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
観光施設と連携した体験型観光の推進					→	本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,800人)	71,000人 (5%アップ)
県内・県外(瀬戸内圏)への売り込み・課題の検討		商品の磨き上げと商品の多様化					
木の香温泉を拠点とした体験観光の検討		体験観光の試行	体験観光の商品化				
新たな資源を活用した体験メニューの検討と商品化(ダム・冬期資源)					→		
新たに活用できる資源の検討	新たな体験メニューの検討	体験メニューの試行	体験メニューの商品化				
インストラクターの養成							
集客に向けての観光施設の検討と整備					→		
施設利用者等の調査と検証		施設整備に係る実施計画と設計		施設の整備			
施設への集客の計画							

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
31 観光情報の一元化と おもてなし観光の推進 《仁淀川町》	仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。	・仁淀川町内の観光関連団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報ネットワークの構築(H21~23)</li> <li>・おもてなし活動の実施(H21~23)</li> <li>◆情報発信力の強化や新しい観光団体、既存団体のブラッシュアップ、食観光への取組を強化してきた結果、着実に基礎力が増してきた。</li> <li>また、ICT事業やインターンシップ事業、各種アドバイザーの活用などにより地域内外の交流が進み、地域住民が仁淀川町の観光資源とその活用にも積極的に取り組むようになってきており、その活動が内面から充実してきた。その結果、平成22年度には「仁淀川町の観光を考える会」が発足し、観光資源の磨きあげ、ガイド力のアップ、着地型観光づくりやその販売手法の確立に向けて、組織的に活動が行えるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報発信の強化による効果的なPRの検討</li> <li>・ガイド養成活動の強化、仁淀川町の観光ガイドの内容調査とその整理、ツアーづくりと実施</li> <li>・情報基盤の改善、既存観光施設の運営、観光案内板等の不足、地域産品の不足、観光団体の高齢化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光情報の一元化</li> <li>◆観光ガイドの養成</li> <li>◆おもてなし観光の推進</li> </ul>
修正前					



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
32 観光情報の一元化と おもてなし観光の推進 《仁淀川町》	仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。	・仁淀川町内の観光関連団体 ・仁淀川町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信基盤の整備</li> <li>・観光情報ネットワークの構築</li> <li>・おもてなし活動の実施</li> <li>◆町内の観光情報発信基地は整備できなかったものの、主要観光施設のHPが整備され、情報発信力が一定強化された。</li> <li>◆ガイド養成研修や観光資源調査、各種アドバイザーの招聘、モニターツアーの実施、インターンシップ事業等の活用により、お金を取るガイドが誕生し、町内で着地型観光の必要性への理解や地域内外の交流が進んだ。地域住民が自分たちの手で観光商品を作る、ガイドを養成しようと、「仁淀川町の観光を考える会」を立ち上げた。今後地域の民間団体を総括するリーダー的な団体へなっていくことが期待される。</li> <li>◆既存宿泊施設のリニューアルも行われ、受け入れ体制の強化が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の観光振興に対する、戦略的なブランドデザインの作成</li> <li>・各観光情報窓口の一本化とさらなる観光情報発信力の強化及びより効果的なPRの検討</li> <li>・「仁淀川町の観光を考える会」の今後の運営・体制</li> <li>・観光ガイド養成活動の強化、ガイド内容の調査とその整理</li> <li>・ターゲットを絞った着地型観光ツアーの商品化、リーダーにつなげる観光振興への取組</li> <li>・既存観光施設の運営、基盤整備(観光案内板等の不足、既存施設の老朽化)、観光団体の高齢化</li> <li>・グリーンツーリズムが収益に繋がっておらず、地場産品の販売が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光情報の一元化</li> <li>◆観光ガイドの養成</li> <li>◆おもてなし観光の推進</li> </ul>
修正後					

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
観光情報の一元化				仁淀川町観光協会(仮称)の設立と運営	ガイド養成人数	20人
コーディネーターによる効果的なPRとプロモーション活動の展開・既存施設等の有効活用と機能充実						
観光ガイドの養成				観光資源の発掘と観光素材の整理とガイド要員の増員活動の実施	実施ツアー数	50ツアー
観光資源の発掘と観光素材の整理とガイド要員の増員活動の実施						
おもてなし観光の推進				仁淀川町独自の潜在型観光ビジネスの展開(ツアー商品の確立、仁淀川町の観光団体等の情報ネットワークの強化)	ガイド養成人数	20人
仁淀川町独自の潜在型観光ビジネスの展開(ツアー商品の確立、仁淀川町の観光団体等の情報ネットワークの強化)						
観光案内板の設置、トイレ等の改修などの実施				観光案内板の設置、トイレ等の改修などの実施	実施ツアー数	50ツアー
観光案内板の設置、トイレ等の改修などの実施						
地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)				地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)	実施ツアー数	50ツアー
地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)						
観光団体等の相互サポート体制づくり				観光団体等の相互サポート体制づくり	実施ツアー数	50ツアー
観光団体等の相互サポート体制づくり						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
観光情報の一元化				仁淀川町観光協会(仮称)の設立と運営	ガイド養成人数	20人
コーディネーターによる効果的なPRとプロモーション活動の展開・既存施設等の有効活用と機能充実						
観光ガイドの養成				観光資源の発掘と観光素材の整理とガイド要員の増員活動の実施	実施ツアー数	50ツアー
観光資源の発掘と観光素材の整理とガイド要員の増員活動の実施						
おもてなし観光の推進				仁淀川町独自の潜在型観光ビジネスの展開(ツアー商品の確立、仁淀川町の観光団体等の情報ネットワークの強化)	ガイド養成人数	20人
仁淀川町独自の潜在型観光ビジネスの展開(ツアー商品の確立、仁淀川町の観光団体等の情報ネットワークの強化)						
観光案内板の設置、既存施設の改修を含めたまち化対策等の実施				観光案内板の設置、既存施設の改修を含めたまち化対策等の実施	実施ツアー数	50ツアー
観光案内板の設置、既存施設の改修を含めたまち化対策等の実施						
地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)				地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)	実施ツアー数	50ツアー
地場産品開発の実施(仁淀川町のお土産品、仁淀川町の食メニューなどの開発・販売)						
観光団体等の相互サポート体制づくり				観光団体等の相互サポート体制づくり	実施ツアー数	50ツアー
観光団体等の相互サポート体制づくり						

修正項目(案)

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化 《日高村》  修正前	直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。	・日高村	・交流人口の拡大のための条件整備(H21~23) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用策を取りまとめた。その後、ボランティアガイド組織の立上げやガイド育成、モニターツアーの実施等、具体的な取組を進めてきたところ、日下川調整池周辺地域において、日高村の食も含めた観光客の集客を図る地域の観光情報発信拠点が必要となった。	・地域の農産物・農産加工品販売所の観光情報発信拠点としての機能充実	◆直販市及び周辺の観光資源の整備



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
25 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化 《日高村》  修正後	直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。	・日高村	・交流人口の拡大のための条件整備(H21~24) ・施設の整備(H25~) ◆平成21年度に産業振興アドバイザーにより日高村の観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用策を取りまとめた。その後、ボランティアガイド組織の立上げやガイド育成、モニターツアーの実施等、具体的な取組を進めてきた。	・地域の農産物・農産加工品販売所としての運営体制等の検討、観光情報発信拠点としての機能充実	◆直販市の機能強化及び観光情報の発信

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
直販市及び周辺の観光資源の整備					→	体験型観光での入込 客数 (H22:7,834人)	23,500人
観光情報拠点の整備		観光情報拠点の完成及び稼働					
観光情報パンフレットの作成及び啓発							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
直販市の機能強化及び観光情報の発信					→	施設での販売額等 (H23:59,126千円)	103,200千円
接客施設の整備、オープン		接客施設の安定した運営					
観光情報パンフレットの作成及び啓発		観光案内、情報発信					

# 平成26年度 高幡地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
		10	8	7	7	16
1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上	●	●		●	
2	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立			●	●	
3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化					●
4	津野山牛のブランド化			●	●	
5	大野見米のブランド化		●			
6	つの茶販売戦略				●	
7	集落営農組織のステップアップの推進					●
8	直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進					●
9	四万十町地産外商の推進					●
10	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化					●
11	四万十の栗再生プロジェクト					●
12	滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり					●
13	地域資源活用推進と加工場等の整備					●
14	「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用		●			●
15	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用			●		
16	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進			●	●	
17	美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト	●				
18	野見湾産養殖カンパチの販路拡大	●				
19	浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大	●				
20	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化	●				
21	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進		●			
22	シイラ加工の生産体制の強化					●
23	シイラ加工食品の生産拡大					●
24	須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業	●				
25	大正町市場商店街活性化事業		●			
26	久礼の浜屋敷整備事業		●			
27	「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト		●			
28	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
29	津野町地産地消・外商販売戦略				●	
30	四万十町拠点ビジネス体制の強化					●
31	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	●				
32	中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進		●			
33	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
34	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～				●	
35	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
36	四万十町観光交流促進事業					●
37	四万十町大正地区の地域経済活性化の核となる事業への取組					●
38	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大	●				
39	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大			●		
40	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給	●				
41	四万十かおりビジネス事業					●
42	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大	●				

①削除

					No.	改定案(平成26年度)
須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町		
	10	8	9	19		
	●		●		1	地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上
		●	●		2	中山間地域での持続可能な農林業経営の確立
				●	3	基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化
		●	●		4	津野山牛のブランド化
●					5	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
	●				6	大野見米のブランド化
		●			7	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大
			●		8	つの茶販売戦略
				●	9	集落営農組織のステップアップの推進
				●	10	直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進
				●	11	四万十町地産外商の推進
				●	12	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の生産販売による地域活性化
				●	13	四万十の栗再生プロジェクト
				●	14	潜在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり
				●	15	地域資源活用推進と加工場等の整備
①追加				●	16	四万十の生姜プロジェクト
	●			●	17	「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用
		●	●		18	「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進
●					19	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給
②追加	●				20	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出
		●			21	循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用
③追加			●		22	津野町森林・林業再生プロジェクト
				●	23	四万十かおりビジネス事業
●					24	美味しい！須崎の魚(いお)消費拡大プロジェクト
●					25	野見湾産養殖カンパチの販路拡大
●					26	浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大
●					27	楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化
●					28	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大
	●				29	中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
				●	30	シイラ加工の生産体制の強化
				●	31	シイラ加工食品の生産拡大
	●				32	大正町市場商店街活性化事業
	●				33	久礼の浜屋敷整備事業
	●				34	「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト
		●			35	梶原町地産産品の地産地消・外商の促進
			●		36	津野町地産地消・外商販売戦略
				●	37	四万十町拠点ビジネス体制の強化
④追加	●	●	●	●	38	高幡地域における広域観光の推進
●					39	須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備
	●				40	中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進
		●			41	梶原町の体験型・滞在型観光の推進
			●		42	清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～
				●	43	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり
				●	44	四万十町観光交流促進事業
				●	45	四万十町大正地区の地域経済活性化の核となる事業への取組
⑤追加				●	46	しまんと時間満喫プロジェクト





## 高幡地域アクションプランの追加・削除（予定項目）

### ■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	四万十の生姜プロジェクト （四万十町） 【実施主体】(株)あぐり窪川、JA四万十	四万十町産生姜の生産、加工販売に関わる事業者等のネットワーク化を図り、関係機関と連携して「生姜生産量日本一のまち四万十町」の知名度をあげるとともに交流人口の拡大と地域活性化を目指す。
2	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出 （中土佐町） 【実施主体】高知精工(株)	四万十源流域のクロモジやヒノキ等の資源を活用して、原料調達・加工・製品化まで廃棄物を発生させないゼロエミッション型システムによるビジネスを創出し、地元関係機関と連携して、これらの商品を活用することにより地域の魅力向上を図る。
3	津野町森林・林業再生プロジェクト （津野町） 【実施主体】津野町	高知おおとよ製材等へのA B材供給を主体とした搬出とC材や林地残材の有効活用を行う「地域資源循環システム」を構築し、林業経営での所得確保に繋げる。
4	高幡地域における広域観光の推進 （高幡地域全域） 【実施主体】高幡広域市町村圏事務組合 （高幡広域観光推進本部）	高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を造成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、造成された商品を県内外の旅行代理店への営業活動を積極的に展開することで団体旅行の誘致に結び付け、広域への経済効果を波及させていく。
5	しまんと時間満喫プロジェクト （四万十町） 【実施主体】(株)生田組	四万十ならではの食と癒しの時間を提供できる宿泊施設を建設し、町内にある魅力あふれる観光素材と合わせて、通過型から滞在型観光へと人の流れをつくることで四万十町の地域経済活性化に繋げていく。

### ■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業（須崎市） 【実施主体】須崎市、須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会	構想期間を経過し、案内看板の設置など一定の成果をあげたことにより事業主体である須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会を解散し、今後作成する須崎市産業振興計画による取組に移行するため削除する。

追加項目(案)

【高幡地域】




項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>四万十の生養プロジェクト 《四万十町》</p>	<p>四万十町産生養の生産、加工販売に関わる事業者等のネットワーク化を図り、関係機関と連携して「生養生産量日本一のまち四万十町」の知名度をあげるとともに交流人口の拡大と地域活性化を目指す。</p>	<p>・(株)あぐり産川 ・JA四万十</p>			<p>◆人材育成</p> <p>◆商品開発</p> <p>◆情報発信</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		人材育成 プロジェクトチームの設置 企画会議、情報共有やレベルアップのための学習会			イベント集客数	5,000人
		商品開発 既作品の開発及び市場調査	四万十の生業ブランド化検討	事業展開	商品開発数(プラン数及びアイテム数、商品提供数)	3
		情報発信 イベントの開催 日常における広報活動		学校等と連携した食育活動		

追加項目(案)

【高橋地域】




項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>四万十川源流クロモジ等 中山間資源活用ビジネスの創出  《中土佐町》</p>	<p>四万十川源流域のクロモジや ヒノキ等の資源を活用して、 原料調達・加工・製品化まで 廃棄物を発生させないゼロ エミッション型システムによる ビジネスを創出し、地元関係 機関と連携して、これらの商 品を活用することにより地域 の魅力度向上を図る。</p>	<p>高知精工株式会 社</p>			<p>◆事業計画策定</p> <p>◆施設・設備整備</p> <p>◆商品開発・市場開拓 等</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		 <p>事業計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模簡易生産機器整備</li> <li>・パイロット生産・試作品製作</li> <li>・試作品テストマーケティング</li> <li>・事業計画の検討・策定</li> </ul>				
			 <p>施設・設備整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工場の改修</li> <li>・加工機器類の整備</li> <li>・パッケージ等必要な設備の整備</li> </ul>			
				 <p>商品開発・市場開拓等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロモジ等製品の本格的な生産及び営業展開</li> <li>・クロモジ等製品の商品開発とマーケティング(市場開拓)</li> <li>・その他の植物資源の高品質開発とマーケティング</li> </ul>		

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>津野町森林・林業再生プロジェクト 《津野町》</p>	<p>森林資源を有効活用する「地域資源循環システム」(木質バイオマスチップなどの活用)を構築して林家等への所得向上を図ると共に、町内施設での活用により熱エネルギーコストの軽減を図る。</p>	<p>・津野町</p>			<p>◆循環システム可能性調査・実施計画策定</p> <p>◆山元土場整備</p> <p>◆木質バイオマス施設等整備・運営</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		 循環システム可能性調査・実施計画策定  山元土壌整備 貯木場(約15,000㎡)整備	 木質バイオマス施設等整備・運営 施設整備 (集荷、加工、ストック、運搬、施設ホラー等)	集荷、加工、ストック、運搬等	間伐数量 (H24:10,037㎡)	15,000㎡





第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
	<p>観光情報の管理及び情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内市町及び観光関係団体からの観光情報の収集</li> <li>・5市町の観光資源やイベント情報の管理</li> <li>・HPやパンフレットを活用した広域観光情報の発信</li> <li>・観光素材の写真や関係情報のデータベース化</li> <li>・特産品などの地域物産のPR</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要観光施設入込客数(H24) (365,119人)</li> <li>・宿泊者数(H24) (39,163人)</li> </ul>	<p>372,000人</p> <p>40,000人</p>
	<p>商品の造成及び開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展遊プラン及び旅行商品の造成・開発</li> </ul>						
	<p>商品及び観光資源の営業販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源や旅行商品のエージェントへのセールス</li> <li>・エージェント向けパンフレットの作成</li> </ul>						

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
しまんと時間満喫プロジェクト 《四万十町》	四万十ならではの食と癒しの時間を提供できる宿泊施設を建設し、町内にある魅力あふれる観光素材と合わせて、過渡型から滞在型観光へと人の流れをつくることで四万十町の地域経済活性化に繋げていく。	・(株)生田組	・事業計画の作成(H25) ◆収益調査の実施		◆事業計画の作成  ◆宿泊施設の整備  ◆商品開発及び販路開拓

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	事業計画の作成 収益調査の実施、事業計画作成、関係機関との調整					
		宿泊施設の整備 ホテル建設		運営開始		
			体制づくりと人材育成			
		商品開発及び販路開拓 地域資源の掘り起こし、地域との調整				
				商品開発(観光・体験メニュー等)、宣伝(HP等ツールの作成)		

削除項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
24 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業 《須崎市》	高速道路の東西部への延伸に伴い、須崎市が通過点になることを防ぐため、須崎のまち全域をサービスエリア的に活用し、高速道路利用者にまちの機能を活用したさまざまなサービスを提供することによって、まちの活性化を図る。	・須崎市 ・須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会	・立ち寄り拠点(H21~23) ◆SAT情報館、街角ギャラリー、駅前トイレ、駅前観光案内所、駅前食堂などの設置により、立ち寄り拠点ができ、SATまつりやまちあるきの実施により、それぞれの施設を巡る仕掛けもできつつある。	・各立ち寄り拠点の魅力アップと連携の強化	◆南北道路等を活用した賑わいづくり  ◆まち案内サービスの向上  ◆地域資源を活用した新たなサービスメニューづくり  ◆すさきサービスエリアタウンのPR



削除

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
南北道路等を活用した賑わいづくり					→	
【街角ギャラリーと旧三浦邸】 ・文化財登録申請 ・改装 ・運営計画&団体の決定	運営				来訪者の倍増 街角ギャラリー 来館者数 (H22:2,071人)	1万人
街路市再生	取組の検証と充実				日・木曜市出店者 (H22:60店)	80店
まち案内サービスの向上					→	
・携帯電話を活用した情報 提供システムの充実 ・広域案内板設置	取組の検証と充実				携帯サイト「すさきガイド」 のアクセス数 (H22:2,246千件)	10,000千件
地域資源を活用した新たなサービスメニューづくり					→	
地域活性化イベント実施						
すさきサービスエリアタウンのPR					→	
・サービスエリアや道の駅 でのパンフレット等の配布 ・市のHPでのPR	取組の検証と充実					



削除

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上 《須崎市、中土佐町、津野町》	まとものある園芸産地づくりを推進するなどして収量・品質の向上に努める。同時に、消費者からの安全・安心の要望に応えるために環境保全型農業を推進し、産地のこだわりを「見える化」した販売に対応してエコシステム栽培品目の増加に取り組みることなどにより、販売額の維持・増加を目指す。あわせて、重油価格等の資材高騰に対応するなどして経営内容の改善を進めることにより農家の所得向上に取り組み、産地の安定的な発展を目指す。	・JA土佐くろしお ・JA四万十	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び教え会(場)(H21~23)</li> <li>◆栽培技術や経営分析診断の指導等により、主幹品目の収量・品質が向上して、販売額が高まった。特にミョウガでは平成23園芸年度の販売額が52.9億円となった。</li> <li>・IPM技術の取組(H21~23)</li> <li>◆主要11品目で取り組み、シントウの現地実証圃の取組の成功により、天敵の導入が急速に進み農業使用量の低減につながった。</li> <li>・省エネ対策(H21~23)</li> <li>◆多層被覆や実温管理、ヒートポンプの導入などにより年々進んでいる。</li> <li>・くろしお版GAPの推進(H21~23)</li> <li>◆流通・販売上の対策として、主要11品目で取り組んだ。キュウリでは平成23園芸年度から部会全体でエコシステム栽培の取組が始まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の農家の所得の安定化</li> <li>・新規就農者の増加</li> <li>・既存市場では飽和状態に近いのではないかと危惧されているミョウガの市場開拓、販路開拓</li> <li>・ミョウガ養液栽培における排液処理対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆収量・品質向上対策</li> <li>◆生産コスト低減対策</li> <li>◆環境保全型農業の推進</li> <li>◆流通・販売上の対策</li> </ul>
修正前					



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
修正後					

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>収量・品質向上対策</p> <p>農業者の高い技術を学び合い教え合う場づくり</p> <p>農業者の高い技術を学び合い教え合うことによる収量・品質の向上</p> <p>新作物・新品種・新技術の情報収集</p> <p>新品種・新技術のマニュアル作成や栽培層への反映と定着化</p> <p>新品種・新技術の実証・展示ほ設置</p>					<p>主要農産物販売額</p> <p>ミョウガ (H19:47.2億円) (H23:52.9億円)</p>	55億円
<p>生産コスト低減対策</p> <p>コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進</p> <p>重油代替機関の効果の検証</p> <p>重油代替機関の新規導入の推進</p>						
<p>環境保全型農業の推進</p> <p>既存IPM技術の普及率向上</p> <p>くろお版IPM技術の普及率向上</p> <p>新しいIPM技術の情報収集</p> <p>新しいIPM技術のマニュアル作成や栽培層への反映と定着化</p> <p>新しいIPM技術の実証・展示ほ設置</p> <p>ミョウガ排液処理装置導入計画の推進と排液処理の低減対策</p>						
<p>流通・販売上の対策</p> <p>GAPの徹底とエコシステム栽培品目の拡充</p> <p>主幹品目の新たな販路の開拓</p>						
<p>生産コスト低減対策</p> <p>コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進</p> <p>重油代替機関の効果の検証</p> <p>重油代替機関の新規導入の推進</p>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>収量・品質向上対策</p> <p>農業者の高い技術を学び合い教え合う場づくり</p> <p>農業者の高い技術を学び合い教え合うことによる収量・品質の向上</p> <p>新作物・新品種・新技術の情報収集</p> <p>新品種・新技術のマニュアル作成や栽培層への反映と定着化</p> <p>新品種・新技術の実証・展示ほ設置</p>					<p>主要農産物販売額</p> <p>ミョウガ (H19:47.2億円) (H23:52.9億円)</p>	56.8億円
<p>生産コスト低減対策</p> <p>コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進</p> <p>重油代替機関の効果の検証</p> <p>重油代替機関の新規導入の推進</p>						
<p>環境保全型農業の推進</p> <p>既存IPM技術の普及率向上</p> <p>くろお版IPM技術の普及率向上</p> <p>新しいIPM技術の情報収集</p> <p>新しいIPM技術のマニュアル作成や栽培層への反映と定着化</p> <p>新しいIPM技術の実証・展示ほ設置</p> <p>ミョウガ排液処理装置導入計画の推進と排液処理の低減対策</p>						
<p>流通・販売上の対策</p> <p>GAPの徹底とエコシステム栽培品目の拡充</p> <p>主幹品目の新たな販路の開拓</p>						
<p>生産コスト低減対策</p> <p>コスト低減につながる生産資材の検討と導入推進</p> <p>重油代替機関の効果の検証</p> <p>重油代替機関の新規導入の推進</p>						

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
9 四万十町地産外商の推進 《四万十町》  修正前	中山間地域の小規模・高齢農家の農業振興を図るため、大正・十和地区を中心に市場で要望のある農林水産物の生産・集出荷加工流通販売体制を江師農林水産加工場を拠点に構築し、農林水産業者の所得向上及び地域活性化を目指す。	・四万十町地産外商推進協議会	・農林水産物の地産地消・外商にかかる体制づくり(H21) ◆平成21年度に集出荷加工場の整備や協議会設立により、町内の農林水産物を1.5次加工し、町内外へ販売する体制が整った。  ・加工商品の開発、販路開拓(H22~23) ◆農林産物や加工品の県内外出荷が始まり、量販店、食品卸会社、惣菜メーカーなど販路を開拓し、販売額増加に至った。  ・出荷体制の構築(H21~23) ◆協力生産者も平成21年度から約3倍に増加し、出荷量も84t(H21)→140.5t(H23)に増加するなど、安定供給に努めた。	・生産物の確保 ・新たな契約農家の確保 ・他組織や団体等との協力関係構築 ・持続可能な経営体制の構築	◆農林産物の生産供給体制の強化   ◆流通販売体制の確立と拡大   ◆商品の高付加価値化



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			課題	課題	
11 四万十町地産外商の推進 《四万十町》  修正後	中山間地域の小規模・高齢農家の農業振興を図るため、大正・十和地区を中心に市場で要望のある農林水産物の生産・集出荷加工流通販売体制を江師農林水産加工場を拠点に構築し、農林水産業者の所得向上及び地域活性化を目指す。	・企業組合しまんと	・農林水産物の地産地消・外商にかかる体制づくり(H21) ◆平成21年度に集出荷加工場の整備や協議会設立により、町内の農林水産物を1.5次加工し、町内外へ販売する体制が整った。  ・加工商品の開発、販路開拓 ◆農林産物や加工品の県内外出荷が始まり、量販店、食品卸会社、惣菜メーカーなど販路を開拓し、販売額増加に至った。  ・出荷体制の構築 ◆協力生産者数は、平成21年度22件から25年度当初で47件に増加した。実証圃場において有茎作物を葉花・玉葱に絞り込み、生産出荷体制が確立しつつある。	・生産物の確保 ・新たな契約農家の確保 ・他組織や団体等との協力関係構築 ・持続可能な経営体制の構築	◆農林産物の生産供給体制の強化   ◆流通販売体制の確立と拡大   ◆商品の高付加価値化



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					農林産物の生鮮加工販売額 (H22:約34,000千円)	48,000千円
<b>農林産物の生産供給体制の強化</b> 契約農家の確保、営農指導による生産拡大、外部団体等との協力・連携による安定供給						
<b>流通販売体制の確立と拡大</b> 県内外の量販店・食品加工会社等への販売ルートの維持・拡大、営業体制づくり						
<b>商品の高付加価値化</b> 加工商品開発、食品展示会への出展、商談、生産地見学会の実施						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					農林産物の生鮮加工販売額 (H22:約34,000千円)	48,000千円
<b>農林産物の生産供給体制の強化</b> 契約農家の確保、営農指導による生産拡大、外部団体等との協力・連携による安定供給						
<b>流通販売体制の確立と拡大</b> 県内外の量販店・食品加工会社等への販売ルートの維持・拡大、営業体制づくり						
<b>商品の高付加価値化</b> 加工商品開発、食品展示会への出展、商談、生産地見学会の実施						

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
14 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用 《中土佐町、四万十町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	四万十森林資源の高付加価値化を促進するため、広域で取り組む「四万十ヒノキ」の地域団体商標登録を目指すと共に、FSC・SGEC認証材の加工・販売の拡充、更には検討中の大型製材工場設置に向けた取組を推進する。	・四万十町森林組合 ・須崎地区森林組合  ・四万十町内製材業者	・「高幡ヒノキ」から「四万十ヒノキ」としてのブランド化への広域的な取組(H21~23) ◆広域4市町村で連携して「四万十ヒノキブランド化推進協議会」が発足、各種勉強会等が開催された。  ・FSC認証制度を活用した製品の販売強化(H21~23) ◆製材品需要の低迷するなか、森林認証制度等を活用して安定的な販売高2.34億円(H23)を達成。  ・大型製材工場設置のための機運の醸成(H23) ◆四万十町内製材業者を対象に検討を開始した。	・「四万十ヒノキ」としての規格・基準等の設定 ・地域団体商標の性格上、協同組合としての森林組合のみの取組  ・適正な価格評価が得られ難い ・認証材のPR強化の手法と顧客の手応え  ・後継者の確保や導入機械の共同利用が困難 ・新たな生産施設を導入しても販売網の開拓が未知数	◆「四万十ヒノキ」の基準等の設定とブランド化に向けた実績づくりの推進  ◆FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開  ◆大型製材工場設置に向けた取組強化とJAS認定工場の増設



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			総括	課題	
17 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用 《中土佐町、四万十町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	四万十森林資源の高付加価値化を促進するため、広域で取り組む「四万十ヒノキ」の地域団体商標登録を目指すと共に、FSC・SGEC認証材の加工・販売の拡充、更には検討中の大型製材工場設置に向けた取組を推進する。	・四万十町森林組合 ・須崎地区森林組合  ・四万十町内製材業者	・「高幡ヒノキ」から「四万十ヒノキ」としてのブランド化への広域的な取組 ◆広域4市町村で連携して「四万十ヒノキブランド化推進協議会」が発足、各種勉強会等が開催された。  ・FSC認証制度等を活用した製品の販売強化 ◆製材品需要の低迷するなか、継続的な営業展開により総販売高2.39億円(H24)を達成。  ・大型製材工場設置のための機運の醸成 ◆四万十町内製材業者を対象に検討を開始した。	・「四万十ヒノキ」としての規格・基準等の設定 ・地域団体商標の性格上、協同組合としての森林組合のみの取組  ・適正な価格評価が得られ難い ・認証材のPR強化の手法と顧客の手応え  ・後継者の確保や導入機械の共同利用が困難 ・新たな生産施設を導入しても販売網の開拓が未知数	◆「四万十ヒノキ」の基準等の設定とブランド化に向けた実績づくりの推進  ◆FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開  ◆大型製材工場設置に向けた取組強化とJAS認定工場の増設

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 <p>「四万七ノキ」の基準等の設定とブランド化に向けた実績づくりの推進</p>					四万七ノキブランドの製品販売 原木 9,000m3 製品(総売上高) 2.7億円	-	
<p>「四万七ノキ」のブランド化のための規格・基準等の設定と商標登録申請のための販売の実績づくり</p>							
 <p>FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開</p>					FSC等認証森林面積の拡充 (H22:3,755ha) FSC認証材製品売上高 (H22:11百万円) (総売上高の内数)	5,700ha 20百万円	
<p>県内外の新たな顧客の開拓を図るための人員の配置と機会の活用を図り、森林認証制度を活用した製品の販売拡充を推進</p>							
 <p>大型製材工場設置に向けた取組強化とJAS認定工場の増設</p>					JAS認定工場 -	1社増設	
<p>四万十町産材利用促進条例や大型製材工場設置に即した取組の強化及び顧客ニーズに対応できるJAS認定工場の増設</p>							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 <p>「四万七ノキ」の基準等の設定とブランド化に向けた実績づくりの推進</p>					四万七ノキブランドの製品販売 原木 9,000m3 製品(総売上高) 2.7億円	-	
<p>「四万七ノキ」のブランド化のための規格・基準等の設定と商標登録申請のための販売の実績づくり</p>							
 <p>FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開</p>					FSC等認証森林面積の拡充 (H22:3,755ha) FSC認証材製品売上高 (H22:11百万円) (総売上高の内数)	5,700ha 20百万円	
<p>県内外の新たな顧客の開拓を図るための人員の配置と機会の活用を図り、森林認証制度を活用した製品の販売拡充を推進</p>							
<p>製品展示販売施設の整備</p>					JAS認定工場 -	1社増設	
 <p>大型製材工場設置に向けた取組強化とJAS認定工場の増設</p>							
<p>四万十町産材利用促進条例や大型製材工場設置に即した取組の強化及び顧客ニーズに対応できるJAS認定工場の増設</p>							



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					<b>商品販売高</b> (H24:8,408千円)	<b>25,000千円</b>
観光物産センターの設立 						
地域物産品の販売先の開拓と流通販売の拡大 						
スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓 						
県内外への販売ルート開拓と安定した供給体制の確立 						
水産加工場等の整備 						
水産加工場、付帯加工施設等整備						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					<b>商品販売高</b> (H24:8,408千円)	<b>25,000千円</b>
地域物産品の販売先の開拓と流通販売の拡大 						
観光物産センターの設立 						
観光物産センターの活動の展開 						
水産加工場等の整備 						
水産加工場、付帯加工施設等整備						

修正項目(案)



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
29 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)	ビジネスの拠点となる組織が中心となって、農産物販売システムにより、津野町の産品の販売を行っている。 ふるさとセンターと道の駅の統合、高知店(瀬戸、十津店)の改善計画策定、新アンテナショップとの連携等により、拠点ビジネスの安定化を図り、組織体制の再構築、町内外への情報発信による交流人口の拡大を図る。	ふるさとセンター 津野町	・地産地消ビジネス(H21~23) ◆集荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等)の整備による町内流通網の拡充、販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現、生産性向上(ハウス、実証圃等)対策などにより、会員も増加して販売額も増加傾向にある。	・H23年度に統合したふるさとセンターと道の駅が作成した具体的な経営改善計画(体制、戦略等)の実行 ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化	◆高知市アンテナショップ拡充  ◆加工所等への供給体制整備
修正前					








【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		課題	主な内容
			これまでの取組と成果	課題		
36 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)	ビジネスの拠点となる組織が中心となって、農産物販売システムにより、津野町の産品の販売を行っている。 ふるさとセンターと道の駅の統合、高知店(瀬戸、十津店)の改善計画策定、新アンテナショップとの連携等により、拠点ビジネスの安定化を図り、組織体制の再構築、町内外への情報発信による交流人口の拡大を図る。	ふるさとセンター 津野町	・地産地消ビジネス(H21~23) ◆集荷所整備、町内直販拠点施設(道の駅等)の整備による町内流通網の拡充、販売組織・機能の統一(手数料、清算方式等)による町内1直販所構想の実現、生産性向上(ハウス、実証圃等)対策などにより、会員も増加して販売額も増加傾向にある。  ◆H24.4.11津野町船戸に加工所、高知市南川浜にアンテナショップを同時オープン。指定管理者である誠満天の量が初年度2億円を超える売上を達成。	・H23年度に統合したふるさとセンターと道の駅が作成した具体的な経営改善計画(体制、戦略等)の実行 ・アンテナショップ・加工場への食材供給や加工所商品の販売の安定化 ・野菜の供給量確保 ・十津店、瀬戸店の体制等の改善	◆高知市アンテナショップ拡充  ◆加工所等への供給体制整備  ◆地産地消の仕組みづくり	
修正後						

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 高知市アンテナショップ拡充 高知店の再編 ①瀬戸店の縮小 ②新十津店の整備					高知店販売額 (H22:69百万円) 総販売額 (H19:110百万円) (H22:136百万円)	90百万円 162百万円	
 加工所等への供給体制整備							
生産力向上対策 ①アンテナショップ、加工場等対策(生産計画) ②ハウス等の整備							
販売力向上対策							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 高知市アンテナショップ拡充 高知店の再編 ①瀬戸店の縮小 ②新十津店の整備		 高知市アンテナショップの拡充・改善 高知店の改善 ①瀬戸店の売り場再構築(見直し) ②新十津店の販路拡大			高知店販売額 (H22:69百万円) 総販売額 (H19:110百万円) (H22:136百万円)	90百万円 162百万円	
 加工所等への供給体制整備							
生産力向上対策 ①アンテナショップ、加工場等対策(生産計画) ②ハウス等の整備							
販売力向上対策							
		 地産地消の仕組みづくり (仮称)こうち地産地消推進協議会の設立準備 地産地消の仕組みづくりの検討 (仮称)こうち地産地消推進協議会設立		 (仮称)こうち地産地消推進協議会の運営			

修正項目(案)

【高幡地域】



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
32 中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進 (中土佐町)	重要文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、商品の販売を積極的に行うとともに、ガイド等のレベルアップのための研修等人材育成を行い、受け入れ態勢を充実させ、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。	・中土佐町	・体験観光の推進(H21~23) ◆久礼のまち歩きコース・内容共に見直し、JRとタイアップし「味な散歩道」による販売開始。新たなガイド数も増え申し込みも増えてきた。 今後はお客様のニーズに応えられるコース設定及び時間設定を検討する必要がある。 ガイド8名養成 ◆重要文化的景観 「久礼の港と漁師町の景観」認定(H23年2月)、同時に「四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来」に旧大野見地区藪中川と下ル川の流域が追加認定を受けており、地域が日々の営みの中で地元の良いさを再認識し、守り育てていくことで、地域の活性化に繋げていく。	・地域、宿泊、飲食店など関係者間で持続可能なシステムの構築 ・インストラクターの確保及び資質向上	◆人材育成  ◆誘客に向けた情報発信
修正前					






【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
40 中土佐町の地域資源を活用した体験型・潜在型観光の推進 (中土佐町)	観光物産センターを設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。	・中土佐町	・体験観光の推進 ◆久礼のまち歩き まち歩きガイドを8名養成し、マップを作成配布するとともに、随時受け入れを行っている。 ガイドコース・内容共に見直し、JRとタイアップして「味な散歩道」による販売を実施した。  漁業体験は、県内小学校、老人クラブ等に積極的にPRを行い、誘致に繋がっている。  ◆重要文化的景観 「久礼の港と漁師町の景観」認定(H23年2月)、同時に「四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来」に旧大野見地区藪中川と下ル川の流域が追加認定を受けた。	・体験メニューの充実と受け入れ体制の構築 ・ガイドの確保及び資質向上	◆人材育成  ◆誘客に向けた情報発信  ◆観光物産センターの設置
修正後					



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					顧客サービス向上による リピーター増	体験受け入れ数 (H22:1,700名)	2,300名
人材育成 インストラクターの増、磨き上げ							
					旬の地域情報の提供に よる誘客		
誘客に向けた情報発信 中土佐町特別番組の放送、マスコミ、情報誌への情報提供							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
					顧客サービス向上による リピーター増	体験受け入れ数 (H22:1,700名)	2,300名
人材育成 インストラクターの増、磨き上げ							
					旬の地域情報の提供に よる誘客		
誘客に向けた情報発信 中土佐町特別番組の放送、マスコミ、情報誌への情報提供							
							
観光物産センターの設置 観光物産センターの設立 観光物産センターの活動の展開							



修正項目(案)

【高幡地域】




項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
35 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり 《四万十町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	「海洋堂ホビー館四万十」の校舎等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、周辺に整備予定の新たなミュージアムや四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ更なる観光交流人口の拡大を図る。	・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外	<p>・海洋堂ホビー館四万十を核とした観光交流人口の拡大(H21~23)</p> <p>◆世界的なフィギュアメーカーである(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用し「海洋堂ホビー館四万十」を整備、開館(H23年7月)。 目標の15,000人を開館後約1か月半で達成するなど、交流人口の拡大や雇用の創出など、中山間地域の活性化に繋げた。 入場者数:76,720人</p> <p>◆ホビー館オープンをきっかけにJRとタイアップ、全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行を開始し予土線の利用向上に繋げた。 ◆町内道の駅の入込客数や売上増加にも貢献。 道の駅「四万十大正」:119.9%アップほか</p> <p>◆地元の観光客の受入体制づくりが進み、直販所のオープンや食の提供、体験教室を実施した。</p> <p>・2次交通体制の整備 ◆誘導案内看板や臨時駐車場の設置や関係団体等との連携などスムーズな受入に努めた。</p>	<p>・リピーターの確保 ・来館者の滞在時間延長のしかけ ・ホビー館までのアクセス ・町内への波及効果(他業者との連携)</p>	<p>◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <p>◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実</p>



項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果		主な内容
			課題	課題	
43 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり 《四万十町》  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正後</div>	「海洋堂ホビー館四万十」の校舎等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、周辺に整備予定の新たなミュージアムや四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ更なる観光交流人口の拡大を図る。	・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外	<p>・海洋堂ホビー館四万十を核とした観光交流人口の拡大(H21~25)</p> <p>◆世界的なフィギュアメーカーである(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用し「海洋堂ホビー館四万十」を整備、開館(H23年7月)。 目標の15,000人を開館後約1か月半で達成し、交流人口の拡大や雇用の創出など、中山間地域の活性化に繋げた。 入場者数:205,604人(H25.11月末時点)</p> <p>◆全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行を開始しJR予土線の利用向上に繋げた。 ◆町内道の駅の入込客数や売上増加にも貢献。</p> <p>◆「海洋堂かっぱ館」や地元の方による「かっぱ茶屋」「谷小屋」がオープン。また、町内量販店との連携が活発化。</p> <p>・2次交通体制の整備 ◆誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置等により受入の円滑化を図った。</p>	<p>・リピーターの確保や効果的な広報の仕業みづくり</p> <p>・町内事業者への波及効果や地元と連携した取組の充実</p> <p>・さらなる誘客に繋げるための新たなミュージアムの整備</p>	<p>◆海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <p>◆ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実</p> <p>◆新たなミュージアムの整備</p>

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 校舎施設の整備(耐震・設計改修工事) 第2駐車場の整備					ホビー館の1年間入場客数 (H23:72,196人) 2月29日時点	50,000人	
 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実					常勤雇用者数 (H22:3人)	3人	
校舎活用による企画展示・体験教室等の実施							
県内外関連施設、地域団体等との連携(連携企画事業、イベント、商品開発、生涯学習の取組への協力等)							
オリジナル土産物商品開発・販売							
広報・営業活動							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 校舎施設の整備(耐震・設計改修工事) 第2駐車場の整備					ホビー館の1年間入場客数 (H23:72,196人) 2月29日時点	50,000人	
 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実					常勤雇用者数 (H22:3人)	3人	
校舎活用による企画展示・体験教室等の実施							
県内外関連施設、地域団体等との連携(連携企画事業、イベント、商品開発、生涯学習の取組への協力等)							
オリジナル土産物商品開発・販売							
広報・営業活動							
 新たなミュージアムの整備							
新たなミュージアムの機能検討、整備、運営の開始							



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					販売額 H24:10,869千円	30,000千円
		品質の向上と出荷体制の強化 飼育環境の改善、加工施設の検討、 熟成システムの構築				
			生産加工施設、熟成施設等の整備			
			生産者の増加、生産量の拡大			
		販路開拓 販促資料の作成				
			業務筋等への直接営業・国内商談会等への出展・参加			
		地元でのキジ肉消費向上 各種イベントでの販売、地元飲食業者と協働した新メニューの検討				



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					販売額 H24:10,869千円	30,000千円
		品質の向上と出荷体制の強化 飼育環境の改善、加工施設の検討、 熟成システムの構築				
			生産加工施設、熟成施設等の整備			
			生産者の増加、生産量の拡大			
		販路開拓 販促資料の作成				
			業務筋等への直接営業・国内商談会等への出展・参加			
		地元でのキジ肉消費向上 各種イベントでの販売、地元飲食業者と協働した新メニューの検討				

有望素材シート（26年度）（案）

様式4

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名	生姜
		関連素材	生姜+米、生姜+豚肉、温泉、道の駅あくり窪川、みどり市
現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知県は、全国一の生姜の産地として知られているが、そのなかで、四万十町は、生姜の作付面積（120ha：県内比率26.4%）、生産量（4,410t：県内比率20.6%）ともに県内1位であり、全国でも有数の産地となっている。（平成25年3月「高知県の園芸」より）</li> <li>JA四万十における取扱量は、町内生産量の3割程度で、販売額はJA高知市に次ぐ県内3位となっている。（高南農業改良普及所資料より）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十町産生姜の多くは県外の加工業者に出荷されており、全国的な知名度は低く、多くの消費者には、生の生姜の味わいや品質の良さが知られていない。</li> <li>JA四万十では、規格外が大量発生した際の処分に苦慮しており、新たな取引加工業者の確保や、加工品原料としての需要の拡大が必要となっている。</li> </ul>		
今後の方向性	<p>「しょうがのまち 四万十町」として知名度を高めるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生姜に関する情報や食を発信するイベントの実施</li> <li>生姜を使った加工品開発や町内店舗での生姜料理の提供</li> <li>生姜の効用を活かした体験型観光商品等の開発 等</li> </ul> <p>道の駅あくり窪川やJAみどり市とタイアップし、四万十町への交流人口の拡大を目指す。</p>		

『有望素材』を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十の生姜プロジェクト				
	関係市町村名	四万十町				
事業の概要	<p>四万十町産生姜の生産、加工販売に関わる事業者等のネットワーク化を図り、関係機関と連携して「生姜生産量日本一のまち四万十町」の知名度をあげるとともに交流人口の拡大と地域活性化を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチームの設置 (株)あくり窪川、JA四万十、生産者、行政(県、役場)等</li> <li>商品開発(プラン数及びアイテム数) しょうがパワー体験プラン、しょうがレシピ、加工品 など</li> <li>イベント企画・実施 毎年、新しょうがの収穫期等にイベント等を実施</li> <li>情報発信 発信戦略の考案とその実施</li> </ol>					
事業主体等	<p>【事業主体】 (株)あくり窪川、JA四万十</p> <p>【関係機関】 四万十町、高南改良普及所、観光協会、商工会</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	人材育成	プロジェクトチームの設置 関係機関との情報共有			生姜コンシェルジュ・ソムリエ育成	アロマセラピスト育成
	商品開発	・試作品の開発および市場調査	・「四万十の生姜」ブランド化検討	・本格的な事業展開		
情報発信	・イベントの開催 ・日常における広報活動					・学校等と連携した食育活動
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29以降】	4年後【H30以降】
	イベント集客数 商品開発数(プラン数及びアイテム数)	3,000人 3	4,000人 3	5,000人 3		
	【設定根拠】	【推計の考え方】 H25年度イベント日のレジ通過者は2,330人であり、今後のイベントの磨き上げや情報発信の充実により集客増を見込む。				
仕分	P(保留)	【考え方】				
総事業費等	総事業費(内訳 国: 県: 市町村: その他: )	千円 (うち26年度 千円)				
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他)	県: 人的支援: その他:				
備考						

有望素材シート（26年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	中土佐町	素材名	クロモジ、ヒノキ、ショウガ、サンショウ など
		関連素材	

現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 高知精工株式会社（従業員57名）は工業用マシン部品加工などを行い、中山間地域（大野見地区）で貴重な雇用の場を確保している。雇用の範囲は地元のほか、津野町、四万十町、須崎市などと広い範囲に及んでいる。しかし、海外との競合の激化により、事業量の減少とともに、従業員数は十数年前の120名をピークに現在まで減少している。このことから高知精工ではヒノキオイルの抽出生産・販売など、中山間地域の資源活用に取り組むなど、雇用の確保に努めている。3年前には奈良県の業者からの助言により、四万十川源流域に自生するクロモジの資源に注目してクロモジオイルの抽出生産事業を検討したが、生産効率が低く事業化を断念をし、クロモジ原木供給に取り組んでいた。</p> <p>一方、工業技術センターはクロモジの活用（県産未利用有用植物の活用に向けた農商工医連携基盤の構築と事業化モデル：H23～）に取り組んできており、この度工業技術センターの助言と指導により、高知精工でクロモジ資源の高度活用事業化の検討が進められている。</p> <p>&lt;課題&gt; 1. 開発クロモジ等製品の市場確認と新規事業開拓 2. クロモジ等資源と調和した事業計画の策定 3. クロモジ等製品生産施設整備と事業経営（営業）力の確保</p>
	<p>今後の方向性</p> <p>中山間のクロモジを柱とした抽出液ビジネスの創出に向けて、関係機関との連携を広く深めながら、以下の取り組み方向とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商品開発、マーケティングに必要なクロモジ等フローラルウォーターの生産</li> <li>2. クロモジ市場（開拓も含めた）を柱としたクロモジ製品の生産・事業計画の策定</li> <li>3. 本格的な生産施設整備と事業展開</li> <li>4. クロモジ生産休止期間（冬春期）の有用植物商品開発・生産</li> <li>5. 原材料確保のための「人工林」の造成検討</li> </ol>

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出
	関係市町村名	中土佐町、津野町

事業の概要	<p>これまで行ってきたヒノキオイル（水蒸気蒸留法）の一貫生産（材料調達、抽出、販売）に加えて、四万十源流域のクロモジやサンショなどの減圧乾燥抽出法による高品質の乾燥物と抽出液を全て活用する。</p> <p>原料の調達・加工・製品化まで廃棄物を発生させないゼロエミッション型システムとして乾燥物、抽出物はお茶等、アロマオイル等、フローラルウォーター、化粧品やペットケア製品等の商品開発のほか、サプリメントなどへの新規市場開拓や、これらを活用した地域品質（魅力度）の向上へも地元関係機関と連携して含めて取り組む。</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】 高知精工株式会社</p> <p>【関係機関】 中土佐町、津野町、株式会社中土佐町振興公社（黒潮本陣）、四万十源流の家、工業技術センター</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	事業計画策定	<p>小規模簡易生産施設整備・パイロット生産・試作品テストマーケティング</p>				
	施設・設備整備	<p>本格生産に向けた加工場改修・加工機器整備、パッケージ等、必要な関連機器の整備</p>				
	商品開発・市場開拓等	<p>本格的な生産及び営業展開・商品開発・市場開拓 等</p>				
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	【設定根拠】	雇用者1名			雇用者2～3名	
	雇用者数	<p>【推計の考え方】 現在のヒノキオイル事業、クロモジ原木供給事業に係る人員を参考にして、クロモジ等減圧乾燥抽出事業に係る人員を、事業の確立とともに確保していく。</p>				
	【考え方】					

総事業費等	総事業費（内訳 国： 千円 県： 千円）	うち26年度 市町村： 千円	その他：
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県：	人的支援：
備考	その他：ものづくり補助金		

**有望素材シート（26年度）（案）**

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	津野町	素材名	地域資源循環システム（木質バイオマス）
		関連素材	

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>①町内の森林面積は、約90%を占め、その内人工林は、65%の10,000haである。</p> <p>②地域経済としての林業は、材価格の低迷等もあり搬出間伐が進まず、林業従事者の高齢化も相まって森林の適正な管理ができていない状況で、林業経営での所得確保に繋がっていない。</p> <p>③津野町内の間伐等材を集積する山元土場整備を津野町森林組合を実施主体として計画している。（輸送コストの軽減や雇用創出効果）</p>
	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>①高知おおとよ製材等へのA B材供給を主体とした搬出とC材や林地残材の有効活用を行う「資源循環システム」の構築</p> <p>②具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山保全も含めて小規模（軽トラック等）での集荷による地域への経済波及（森林保全による地域還元）</li> <li>・木質バイオマス（チップ）をエネルギーとして活用することで施設での燃料費の削減</li> <li>・南海トラフ大地震等の大規模電源創出時の自立熱電供給の可能性</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度の山元土場の整備を行う計画（25年度繰越事業）</li> <li>・地域資源循環システム（生産から活用までのシステム）の可能性調査を行い、具体的な実行計画の策定をする。</li> </ul>

**『地域資源』を活かした具体的な取り組み（案）**

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	津野町森林・林業再生プロジェクト
	関係市町村名	津野町

事業の概要	<p>・木質バイオマスを活用した「地域資源循環システム」の構築</p>			
事業主体等	<p>【事業主体】 ・津野町</p> <p>【関係機関】 ・津野町森林組合、素材生産事業者、自伐林家等、高知県須崎林業事務所、民間企業等</p>			
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
	循環システム実施可能性調査・実施計画策定	調査、実施計画策定		
	山元土場整備	土場整備		
	木質バイオマス施設等整備		チップ製造施設、活用施設設備（ボイラー等）	木質バイオマス施設等の運営
指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28以降】
	間伐数量	12,100㎡	15,000㎡	20,000㎡
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山元土場への集積計画数値</li> <li>⇒町内（津野町森林組合、町有林、素材生産事業者、自伐林家等）、国有林、町外</li> </ul>		
	【考え方】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24年度を基準として集積計画による。（H24間伐数量：10,037㎡）</li> </ul>		
総事業費等	総事業費	121,000千円	(うち26年度 千円)	
	(内訳 国： 県： 市町村： その他： )			
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）			
	国： 県： 市町村： 人的支援：			
備考				



有望素材シート（26年度）（案）

【地域アクションプラン】検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市・中土佐町・橋原町・津野町・四万十町	素材名	地域の観光素材（各地域の体験プログラム、民泊及び農林漁家民宿）
		関連素材	連携可能な他の産業（農林水産物（食資源）での連携など）

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>高幡広域では、これまで各市町の取り組みが中心であった観光事業を広域として推進していくため、平成24年度から高幡広域観光設立準備会を開催し、広域観光組織の設立に向けた検討を重ねてきた。計9回の会合を経て、平成25年11月1日には高幡広域市町村圏事務組合内に高幡広域観光推進本部が設立されることとなった。事務局の体制としては、旅行商品化業務、エージェンต์への営業活動等の業務を行う観光業の経験を持つ専任職員として本部長を1名、総務、経理等を業務とする臨時職員を1名を雇用している。また、本部長として、各市町において、行政、民間の方を各市町4名ずつ選出し、情報共有や議論を行うこととしている。現在は、本部長が地域の各施設や市町を訪問し、各地域の情報収集、方向性の把握に努めているところである。</p>
	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>高幡広域観光推進本部は、観光情報の管理と発信、地域の観光資源を組み合わせた商品の開発、旅行会社への営業活動を主な事業内容としているが、組織が立ち上がったばかりで地域との連携がまだとれていない。今後は、地域リーダーとの連携、必要なアドバイザーの招聘により、地域の観光資源を磨き上げ、売れる商品を開発していくことが求められる。また、旅行会社への営業においては、各施設と旅行会社との契約についても課題がある。</p>
今後の方向性	<p>高幡広域観光推進本部では、旅行者の長期滞在や周遊を促すことで、高幡広域における経済効果を波及させる取り組みを推進していく。当面の主要な広域観光事業については、下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光情報の管理及び情報発信</li> <li>2. 商品の造成及び開発</li> <li>3. 商品及び観光資源の営業販売</li> </ol>

【1.1.1】 ③ 行方した具体的な取り組み (3)

【地域アクションプラン】における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	高幡広域における広域観光の推進
	関係市町村名	須崎市・中土佐町・橋原町・津野町・四万十町

事業の概要	<p>高幡広域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡広域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、造成された商品を県内外の旅行代理店への営業活動を積極的に展開することで団体旅行の誘致に結び付け、広域への経済効果を波及させていく。</p>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 高幡広域市町村圏事務組合（高幡広域観光推進本部）</p> <p>【関係機関】 高幡広域5市町、旅館、ホテル、農林漁家民宿、農家等（民泊受入世帯）</p>
-------	--

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】		2年後【H28以降】	
観光情報の管理及び情報発信		・5市町の観光資源やイベント情報の管理 ・HP、フェイスブック、マスコミ、パンフレット等による情報発信				
商品の造成、開発		・広域内の観光資源を組み合わせる新たな商品の造成・開発 ・体験、教育旅行に関する調査及び高幡広域プランの策定				
商品及び観光資源の営業販売		・観光商品のPR営業及び販売 ・高幡広域プランの営業による体験、教育旅行の誘致				

指標・目標	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】		2年後【H28以降】	
	・主要観光施設入込者数 ・宿泊者数		・2%増 ・2%増			
	【設定根拠】 高幡広域観光事業計画	【推計の考え方】 平成26年度から翌年度に向けたエージェンต์へのセールス活動を開始するため、平成27年度に実績が伴ってくる施設は、エージェンต์との提携施設である「雲の上のホテル」、「天狗荘」の二つに絞られる。この二つの施設への宿泊者数を10%増加させ、高幡広域の全宿泊施設の倍率を2%増加させる。				
		【考え方】				

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち26年度 16,175千円)</p> <p>(内訳 国: 県2,000千円: 市町村: 其他: )</p> <p>想定する支援事業 (補助金名称、人的支援の内容、その他)</p> <p>国: 県: 高知県観光拠点等整備事業 人的支援:</p> <p>其他:</p>
備考	

**有望素材シート（26年度）（案）**

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名 関連素材	四万十川、沈下橋、興津マリンスポーツ、お瀬路、温泉、道の駅、物産館 海洋堂ホビー館四万十&海洋堂かっぱ館、ネイチャーセンター
現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 四万十町はH24.12月に高速道路が延伸し高知方面や愛媛方面から訪れる観光客にとって利便性が向上している。町内には、四万十川に代表される日本最古の一斗俵沈下橋をはじめ、美しい白浜の海水浴場として人気がありマリンスポーツの拠点となる興津海水浴場を有するなど自然素材が豊富であり、また、四国霊場37番札所の岩本寺には県内外から多数の参拝客が訪れ、近年では海洋堂ホビー館やかっぱ館がオープンするなど町内への入込客が増加している。しかし、町内には宿泊施設が少ないことから通過型の観光客が多く、町内の観光資源をゆっくり周遊できる核となる宿泊施設が望まれている。</p> <p>&lt;課題&gt; ・観光客が複数の観光資源をゆっくりと周遊することができるように核となる宿泊施設が必要。 ・観光資源がうまく活用されておらず、観光が産業として成立していない（通過型の観光客が多い）。</p>		
今後の方向性	<p>滞在型観光の核となる宿泊施設を整備するとともに、地域への経済波及効果を視野に入れて、宿泊施設を拠点に各関係機関との連携を強化して地域の豊富な観光資源とリンクし地域活性化を図る。</p>		

**『事業計画』を核とした具体的な取り組み（案）**

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	しまんと時間満喫プロジェクト				
	関係市町村名	四万十町				
事業の概要	<p>○高速道路の四万十町中央インターを有し、R56とR381との合流地点である平串地域に、自然と調和した外観や設備を持ち、『四万十ならではの食と癒しの時間を提供できる』宿泊施設を建設し、ここを拠点に町内にある魅力あふれる観光素材とリンクし、通過型から滞在型観光が可能となる人の流れをつくることで四万十町の地域経済活性化に繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業収益調査を実施し、ホテルコンセプト、機能、運営方針、事業収支予想等をふまえた効果的な事業計画を作成。</li> <li>・ホテルの整備、運営</li> <li>・ホテルを核として、地域の鑑賞、癒し、体験等と組み合わせた商品開発を行い、通過型から滞在型観光にシフトする一役を担う。</li> </ul>					
事業主体等	【事業主体】 (株)生田組	【関係機関】 四万十町、観光協会、商工会、JA四万十等				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
	事業計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益調査の実施</li> <li>・事業計画の作成</li> <li>・関係機関との調整</li> </ul>				
	宿泊施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会社の設立</li> <li>・ホテル建設、体制整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携</li> <li>・人材育成研修</li> </ul>	オープン		
指標・目標	商品開発及び販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の掘り起こし</li> <li>・地域との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光・体験メニュー等商品開発</li> <li>・宣伝ツールの作成（HPの制作等）</li> </ul>	HP運用開始		
	項目	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】	4年後【H30以降】
仕分	雇用数の増		11名			
	【設定根拠】	【推計の考え方】 ホテル運営開始前より、必要な専門スタッフを雇い入れサービス提供していく。				
総事業費等	総事業費	500,000千円（うち26年度500,000千円）				
	（内訳 国： 県： 市町村： 千円 その他： 450,000円）	国： 県： 市町村： 千円 その他： 450,000円				
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援：				
	その他：					



# 平成26年度 幡多地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成25年度)	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
		10	9	13	11	4	11
1	水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成	●	●	●	●	●	●
2	洋ランのブランド確立・流通促進事業	●					
3	有機農業普及・拡大事業			●			
4	三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築					●	
5	「若山椿」ブランド復活プロジェクト						●
6	弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画						●
7	有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生						●
8	森の工場・間伐の推進	●	●	●	●	●	●
9	バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入			●			
10	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進			●			
11	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業				●		
12	地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進	●					
13	宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進	●					
14	民間企業との連携による水産物の販路拡大	●			●		
15	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業	●					
16	サメ漁業の復活に向けた取組		●				
17	宗田筋の販路拡大に向けた取組		●				
18	“川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン			●			
19	キピナゴ加工商品の生産体制強化				●		
20	大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大				●		
21	直七の生産、加工、販売の促進	●					
22	地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり	●					
23	土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)		●				
24	地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業		●				
25	地元農産物を使った商品開発事業			●			
26	「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進			●			
27	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト			●			
28	四万十牛の商品開発・販売			●			
29	西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)			●			
30	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)				●		
31	莓を核とした6次産業化				●		
32	月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり				●		
33	黒潮印の商品開発						●
34	カツオ文化のまちづくり事業						●
35	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進						●
36	水産物加工施設整備事業						●
37	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●
38	竜串観光再発見事業		●				
39	土佐清水まるごと戦略観光展開事業		●				
40	四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進			●			
41	竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業				●		
42	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進						●

削除

		宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	No.	改定案(平成26年度)
		10	11	12	12	4	12		
		●	●	●	●	●	●	1	水稻と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成
		●						2	洋ランのブランド確立・流通促進事業
				●				3	有機農業普及・拡大事業
→	追加				●			4	6次産業化推進による地域農業振興事業
						●		5	三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築
							●	6	「若山椿」ブランド復活プロジェクト
							●	7	弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画
							●	8	有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生
		●	●	●	●	●	●	9	森の工場・間伐の推進
				●				10	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進
					●			11	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業
		●						12	地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進
		●						13	宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進
		●			●			14	民間企業との連携による水産物の販路拡大
		●						15	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業
			●					16	サメ漁業の復活に向けた取組
			●					17	宗田節の販路拡大に向けた取組
				●				18	「川辺の暮らし」を支える豊かな四万十川再生プラン
					●			19	キビナゴ加工商品の生産体制強化
					●			20	大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大
		●						21	直七の生産、加工、販売の促進
		●						22	地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり
			●					23	土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)
			●					24	地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業
→	追加		●					25	土佐清水発！宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業
				●				26	地元農産物を使った商品開発事業
				●				27	「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進
				●				28	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト
				●				29	四万十牛の商品開発・販売
				●				30	西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)
					●			31	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)
					●			32	莓を核とした6次産業化
					●			33	月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり
						●		34	黒潮印の商品開発
						●		35	カツオ文化のまちづくり事業
						●		36	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進
						●		37	水産物加工施設整備事業
→	追加					●		38	防災関連新産業創造事業
		●	●	●	●	●	●	39	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進
			●					40	竜串観光再発見事業
			●					41	土佐清水まるごと戦略観光展開事業
→	追加		●					42	足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大
				●				43	四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進
					●			44	竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業
						●		45	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進



幡多地域アクションプランの追加、削除、拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	6次産業化推進による地域農業振興事業 (大月町) 【実施主体】農業生産法人(株)大月農園	ケール等の加工施設を整備し、生産拡大・販売促進に取り組むことで、経営の安定を図るとともに、その他作物についても6次産業化を目指すことで、地域農家の所得向上と地域雇用を生み出す。
2	土佐清水発!宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業(土佐清水市) 【実施主体】(株)ウェルカムジョン万カンパニー	宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制を充実させ、販売・販路の拡大、新商品開発等に取り組むことでの事業拡大を図るとともに、宗田節生産者の所得向上と地域雇用創出を目指す。
3	防災関連新産業創造事業(黒潮町) 【実施主体】黒潮町・黒潮町の設立する第三セクター	地域資源を活用した防災関連新産業として、地域産加工食品の「地産」・「地消」・「外消」に向けた事業展開を図り、地域雇用創出と地域生産者の所得向上を目指す。
4	足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大(土佐清水市) 【事業主体】土佐清水市・(仮称)足摺・竜串ジオパーク推進協議会	足摺岬(ラバキピ花崗岩)、竜串・見残し(化石遺痕)、唐人駄場(巨石群)等、日本でも貴重な地域資源(地質)の「日本ジオパーク」の認証に向けた取り組みを進め、地域保全並びに交流人口の拡大につなげる。

■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No.9バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入 (四万十市) 【実施主体】協同組合	当初は民間4事業体の協同事業体として、バイオマスボイラー等を導入・共同利用の計画であったが、共同方式では民間事業者にメリットが少なく、また、民間単独導入についても財務状況等から断念せざるを得ない状況より、産業振興計画から削除とする。

■その他(拡充、統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
	該当なし	

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
4 6次産業化推進による地域 農業振興事業 ＜大月町＞	ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組むとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組む。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。	・(株)大月農園			◆農産物の生産拡大・販売  ◆農産物加工品の商品開発・製造・販路拡大



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	<p>農産物の生産拡大・販売</p> <p>販売および栽培面積拡大に向けた取組</p>	<p>ケール・大麦若葉の乾燥施設等整備</p>	<p>農産物加工品の商品開発・製造・販路拡大</p> <p>加工施設整備(生姜等を原料とした加工品製造設備)及び販路開拓</p>		<p>売上高 (H24:33,138千円)</p>	35,000千円

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
25 土佐清水発！宗田節が良くなる加工施設整備・販路拡大事業 《土佐清水市》	宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。	・(株)ウェルカムジョ ン万カンパニー			◆製造体制の強化・充実  ◆販路拡大及び販売促進  ◆商品開発・改良

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">製造体制の強化・充実</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設・設備等の整備</div>			売上高 (H24: 22,000千円)	36,000千円
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">販路拡大及び販売促進</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展示会・商談会等への参加、HPの充実、販促PR資料の製作 ブライダル・産物業界等への販売ルートの拡大と確立など</div>						
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">商品開発・改良</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新商品の開発 既存商品の磨き上げなど</div>			

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
38 防災関連新産業創造事業 ＜黒潮町＞	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外商」を図ることで、雇用機会の創出はもちろん、地域生産者の所得向上につなげていく。	・黒潮町 ・黒潮町の設立する第三セクター			◇施設・体制の充実強化  ◇商品開発・販路開拓

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
	施設・体制の充実強化					売上高	74,000千円
	包蔵食品技術管理者資格取得		HACCPの取得				
	事業計画策定	法人化	組織体制の強化				
	基本設計	ラボ構築	実施設計	施設・設備等整備			
	高品質開発・販路開拓						
	新商品の開発						
	国内外の高研会への参加						
	高知県防災関連産業の認定						

追加項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>42 足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組みによる交流人口の拡大  【土佐清水市】</p>	<p>足摺岬(ラバキと花崗岩)、竜串・見熟し(化石産地)、唐人駅(巨石群)等、日本でも貴重な地域資源(地質等)の『日本ジオパーク』の認証に向けた取組みを進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>-土佐清水市 ・(仮称)足摺・竜串ジオパーク推進協議会</p>			<p>◆推進体制(組織)の構築</p> <p>◆受入態勢の整備(ソフト)</p> <p>◆受入態勢の整備(ハード)</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					ジオパークガイド登録者数	10人
	推進体制(組織)の構築	日本ジオネットワーク準会員加盟		日本認証申請及び現地審査		
		構想・計画策定				
	準備委員会立上げ準備等	準備委員会の設置		協議会の設置・運営		
		認証ジオパーク視察研修、大会・会議への参加など パンフレット・HP・ガイドマップ・ガイドブック等の情報発信ツールの作成など				
		受入態勢の整備(ソフト)				
		勉強会・研究会等の開催(講師(専門家等)招聘)など				
		ジオパークガイド用教材作成		ジオパークガイド養成		
				ジオパークを活用したイベントの開催、ジオフォーラムの実施など		
		受入態勢の整備(ハード)				
		ジオパーク資源の調査・発掘(専門家による調査等)				
		拠点施設・ジオサイト・案内看板などの高量整備等				

削除項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
9 バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入 《四万十市》	木材の乾燥及び加工施設の導入による木製品の品質向上を図るとともに、樹皮や端材などの木屑を熱源としたバイオマス利用システムの構築を目指す。	・協同組合	・参画予定事業者との検討会(H21~23) ◆4民間事業者と会を重ねる中で、最大の課題である乾燥機械導入費用について、「事業協同組合では国庫補助対象外。森林組合の場合は固定資産保有比率の整理が前提となり厳しい。」ことを確認した。 今後は、資金調達上必須である、費用対効果をふまえた計画づくりと、支援制度の活用検討が必要。	・施設導入費用の確保 ・経営計画、資金調達計画の見直し	◆施設整備 (木材乾燥施設、木材加工施設、バイオマス利用施設)



削除



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
施設整備(木材乾燥施設、木材加工施設、バイオマス利用施設)					乾燥材生産量 900m <sup>3</sup>	
施設整備検討・整備						
地域産材の販売促進						



削除

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
3 有機農業普及・拡大事業 〈四万十市〉	安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。	四万十市	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業の普及拡大(H21~23)</li> <li>高付加価値農業の研修(H21~23)</li> <li>◆四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催した。</li> <li>また、地域雇用創造実現事業で3名を雇用し、水稲2ha・露地野菜17aの栽培を実施した。</li> <li>有機農産物流通システム構築事業(H22~23)</li> <li>◆緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農産物のさらなる認知度向上</li> <li>有機農産物の栽培技術の向上</li> <li>需要の拡大(PRと販売促進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆有機農産物流通システム構築事業</li> <li>◆環境にやさしい農業への転換の推進</li> <li>◆有機米のブランド化</li> <li>◆学校給食への出荷量増加</li> </ul>



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
3 有機農業普及・拡大事業 (四万十市)	安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。	四万十市	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業の普及拡大(H21~25)</li> <li>高付加価値農業の研修(H21~25)</li> <li>◆四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催した。</li> <li>また、地域雇用創造実現事業で3名を雇用し、水稲2ha・露地野菜17aの栽培を実施した。</li> <li>(環境保全型農業支援対策申請面積=H25.12月:1,908a)</li> <li>有機農産物流通システム構築事業(H22~24)</li> <li>有機農産物流通システム推進事業(H25)</li> <li>◆緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農産物のさらなる認知度向上</li> <li>有機農産物の栽培技術の向上</li> <li>需要の拡大(PRと販売促進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆有機農産物の流通拡大支援</li> <li>◆環境にやさしい農業への転換の推進</li> <li>◆学校給食への出荷量増加</li> </ul>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
有機農産物流通システム構築事業 第一期計画時の事業をより発展させ、事業所等への宅配、市外への発送を増加させ、四万十市の有機農産物の認知度向上を目指す					環境にやさしい農業 取組面積の増加 (H22:約1,000a)	1,500a
環境にやさしい農業への転換の推進 環境保全型農業直接支援対策実施への参加促進および5割低減の作付けの取組の推進						
有機米のブランド化 モデル地区の策定および参加促進					有機野菜の出荷率出 荷量の増加 (H22:約30%)	50%
学校給食への出荷量増加 出荷品目の調整および栽培技術向上						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
有機農産物流通拡大支援 第一期計画時の事業をより発展させ、事業所等への宅配、市外への発送を増加させ、四万十市の有機農産物の認知度向上を目指す					環境にやさしい農業 取組面積の増加 (H22:約1,000a)	2,500a
環境にやさしい農業への転換の推進 環境保全型農業直接支援対策実施への参加促進および5割低減の作付けの取組の推進、環境に配慮した農産物のブランド化						
有機米のブランド化 モデル地区の策定および参加促進					有機野菜の出荷率出 荷量の増加 (H22:約30%)	50%
学校給食への出荷量増加 出荷品目の調整および栽培技術向上						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
4 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築 ◀三原村▶	三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、プロッコリーの産地化を目指す。	・(財)三原村農業公社 ・三原村 ・JA高知はた	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユズの産地化の推進(H20~23)</li> <li>農業機械高度化(H21~23)</li> <li>栽培維持、発展支援システムの構築(H21~23)</li> <li>公社施設の整備(H22)</li> <li>◆三原村農業公社の農地集積により、ユズ10ha、プロッコリー1.2haを直接栽培、常勤8名を雇用。あわせて、農作業受託・機械リース等により、農地保全、中山間地域のモデルケースとして期待できるまでになった。</li> <li>また、JA高知はた全域で共同選果体制が構築されたことで、市場評価が向上した。</li> <li>◆商品づくり・販路開拓(H22~23)</li> <li>◆H21、22、23と段階的に産業振興総合補助金を活用し、栽培～収穫～加工～販売までの一連の体制を構築。その結果、水田へのユズ新植が進み、H19:7.6haからH23:28.1haに増加。(幡多管内 H19:56ha、H23:71.3ha)</li> <li>H22よりオリジナル加工品販促活動が本格化。各種フェア等での出展等により商品が浸透し始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拡大に伴うユズ果汁濃縮による加工用ユズ価格の低下</li> <li>高齢化と後継者不足、新規生産者の確保</li> <li>ユズ加工製品の販売促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域農業支援システムの構築</li> <li>◆ユズ製品開発及び加工施設の検討(ハード整備等)</li> </ul>



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
地域農業支援システムの構築					→	ユズ生産量 (H19:65t) (H22:74t)	400t
水田転換畑へのユズの新植推進と青果率向上対策							
生産の担い手対策及び産地の維持、発展に向けた支援システムの実施							
プロコリー研究会を中心とした栽培講習会及び担い手確保による産地化の推進							
ユズ製品開発及び加工施設の検討(ハード整備等)					→	栽培面積 (H19:7.6ha) (H22:22.0ha)	50ha
ユズ新商品の開発研究及び販売ルートの拡大							
加工施設の導入検討							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
地域農業支援システムの構築					→	ユズ生産量 (H19:65t) (H22:74t)	400t
水田転換畑へのユズの新植推進と青果率向上対策							
生産の担い手対策及び産地の維持、発展に向けた支援システムの実施							
移住促進研修施設と連携した研修事業の立ち上げ							
研修カリキュラムの構築と人材育成					→	販売金額(農家手取り金額) (H24:12,515千円) (H25:17,210千円)	27,500千円
ユズ新商品の開発研究及びユズ商品(OEM製造)の販売							
加工施設の導入検討							
加工施設の整備							
加工商品の製造・販売							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の充実強化	生産体制の強化				施設設備の整備検討	売上高 (H22:800万円)	1,170万円
商品開発と販売促進	各種展示会・商談会等への参加						
パンフレット・HP作成	新商品開発						



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の充実強化	生産体制の強化					加工品売上高 (H22:800万円)	8,867万円
事業計画の作成	施設・設備等の整備						
商品開発と販売促進	各種展示会・商談会等への参加						
パンフレット・HP作成	新商品開発						

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 直七の生産、加工、販売の促進 《宿毛市》	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。	・直七生産組合 ・直七の里(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>直七生産組合の設立(H21)</li> <li>搾汁施設等の整備(H22)</li> <li>新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22~23)</li> <li>◆H22産業振興総合補助金を活用して、搾汁施設を整備。品質向上に伴い大手メーカー、県内外で取引が拡大。</li> <li>H21までの商品アイテム数は、ポン酢を始め4種類であったが、H23にはジャムなど新たに2種類が追加。今後も飲料水メーカー等との協力により新商品開発の予定。</li> <li>H23は天候不順等により直七生産量が落ち込んだが、今後、新植した樹木の生長や鳥獣対策強化等により、増加が見込まれる。</li> <li>H23には、直七販売専門会社「直七の里(株)」が設立。地産外高の拡大を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拡大に向けた取組</li> <li>新商品の開発</li> <li>販路の拡大</li> <li>商品の製造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産体制の強化</li> <li>◆新商品の開発</li> <li>◆販路拡大</li> <li>◆製造工場の整備</li> </ul>



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 直七の生産、加工、販売の促進 《宿毛市》	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。	・直七生産組合 ・直七の里(株) ・直七酒販(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>直七生産組合の設立(H21)</li> <li>搾汁施設等の整備(H22)</li> <li>新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22~23)</li> <li>◆すくも搾汁施設と連携し、「直七マダイン」の開発</li> <li>◆H22産業振興総合補助金を活用して、搾汁施設を整備。品質向上に伴い大手メーカー等、県内外で取引が拡大。</li> <li>H23「直七の里(株)」設立。</li> <li>H25「直七酒販(株)」設立。</li> <li>H25までの商品アイテム数は、ポン酢を始め8種類。今後もメーカー等との協力により新商品開発の予定。</li> <li>生産量も増加する見込みで、販路も拡大しており、今後の展開が期待できる。</li> <li>◆商品の販売増に伴い、組合の資本金生産量も増えている。(目標値 H27:100tに対し、H19:4t→H20:13t→H21:10t→H22:21t→H23:36t→H24:68t→H25:101t)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拡大に向けた取組</li> <li>新商品の開発</li> <li>販路の拡大</li> <li>商品の加工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産体制の強化</li> <li>◆新商品の開発</li> <li>◆販路拡大</li> <li>◆加工施設の整備</li> </ul>

修正後



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の強化					製造工場の整備	直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)	100t
新種等による作付面積の拡大							
新商品の開発					商品製造工場・体制整備検討		
新商品開発(試作・調査)							
販路拡大					展示会・商談会への参加		
パンフレットの作成							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
生産体制の強化					加工施設の整備	直七果実生産量 (H22:21t)	200t
新種等による作付面積の拡大							
新商品の開発					商品加工施設・体制整備検討		
新商品開発(試作・調査)							
販路拡大					展示会・商談会への参加		
パンフレットの作成							



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					新商品の開発	8アイテム
新商品の開発 新商品開発(農工商連携事業活用)		新商品の開発				
					販路拡大	
販路拡大 パンフレット作成		高談会・各種フェア等への出展				



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
					新商品の開発	8アイテム
新商品の開発 新商品開発		商品の開発(OEM、バリエーション増等含む)				
					取引先数 (H24: 3社)	5社
販路拡大		高談会・各種フェア等への出展				

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
26 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進 《四万十市》	四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の産材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。	・まちづくり四万十(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21)</li> <li>・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般の改善(H21~23)</li> <li>・店舗改装(H23)</li> <li>◆H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2オープン。販売額の向上と経営安定に取り組んでいる。</li> <li>雇用目標2名に対し、常勤2名・パート4名の計6名を雇用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標販売額の達成</li> <li>・集荷業務の継続</li> <li>・催事、交流スペースの有効活用</li> <li>・宅配業務の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標販売額の達成</li> <li>◆販売チャネルの拡大</li> <li>◆2号店舗の整備</li> </ul>



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
27 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進 《四万十市》	四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の産材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。	・まちづくり四万十(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21)</li> <li>・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般の改善(H21~23)</li> <li>・店舗改装(H23)</li> <li>◆H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2リニューアルオープン。リニューアル後は売上額は順調に推移している(H22売上額31,121千円→H23売上額44,709千円)。</li> <li>◆H23にふるさと雇用事業で雇用した2名を、H24から正職員としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標販売額の達成</li> <li>・集荷業務の継続</li> <li>・催事、交流スペースの有効活用</li> <li>・宅配業務の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標販売額の達成</li> <li>◆販売チャネルの拡大</li> </ul>

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>目標販売額の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務→製造・加工→販売体制の強化</li> <li>・交流・催事スペースの利用促進</li> <li>・飲食スペースとしての展開</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>テイクアウトコーナーの新設</p> </div> </div>					雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名)	3名 7名
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>販売チャネルの拡大</p> <p>近隣商店と連携した宅配事業の実施 (生鮮品、日配品、惣菜、弁当など)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>新たな販売チャネルの検討、実施</p> </div> </div>						
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>2号店舗の整備</p> <p>中心商店街内の空き店舗へ2号店出店の計画を検討 (いちじょさん市場の経営の安定化以降)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>2号店整備、営業開始</p> </div> </div>						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>目標販売額の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務→製造・加工→販売体制の強化</li> <li>・交流・催事スペースの利用促進</li> <li>・飲食スペースとしての展開</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>テイクアウトコーナーの新設</p> </div> </div>					雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名)	3名 7名
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>販売チャネルの拡大</p> <p>近隣商店と連携した宅配事業の実施 (生鮮品、日配品、惣菜、弁当など)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>新たな販売チャネルの検討、実施</p> </div> </div>					売上額 (H24:44,709千円)	60,000千円

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
31 苺を核とした6次産業化 《大月町》	大月町の新しい加工品として注目されている苺水りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。	・農業生産法人 苺水り本舗株式会社	<p>・販路開拓・販売促進(H22~23)</p> <p>◆H22産量総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗を超え、雑誌やメディアで取り上げられる機会も多くなるなど、地域を代表する企業となりつつある。</p> <p>当面は、大規模な設備投資は見送り、栽培技術向上による収量増や、生鮮・苺水り・アイス等の商品間での苺のやりくり等、効果効率的な事業運営を目指しており、大月地域の新たなビジネスモデルとしての、さらなる業績向上を目指す。</p>	<p>・販路開拓</p> <p>・苺の収量拡大</p> <p>・生産施設の拡大</p>	<p>◆販路開拓及び広告宣伝活動</p> <p>◆新商品開発</p>



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
販路開拓及び広告宣伝活動					・販路開拓にむけた営業活動 ・販促グッズの作成、リニューアル	茶水り販売 (H22:4,409万円)	7,000万円
新商品開発						新商品販売 (H22:1.2万円)	
					・ご当地水りの開発(地域間連携) ・イチゴに関連した商品開発		



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
販路開拓及び広告宣伝活動					・販路開拓にむけた営業活動 ・販促グッズの作成、リニューアル	茶水り販売 (H22:4,409万円)	7,000万円
新商品開発						その他商品販売 (H22:1.2万円)	
					・ご当地水りの開発(地域間連携) ・イチゴに関連した商品開発		

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
34 カツオ文化のまちづくり事業 《黒潮町》	日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることにより、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。	・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協	・カツオ新商品の開発(H21~23) ・黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3) ◆H21、22産業振興総合補助金を活用し、商品開発、施設拡充、販路開拓、商品PRに取り組んだ結果、新商品については、少しずつ販売実績が上がっている。また、開発したレシピをもとに、町内の事業者が新商品開発に取り組むなど広がりが出てきた。 黒潮一番館の施設改修にあわせて通年営業となったことで、商品開発によるカツオの需要拡大、交流人口拡大など、「カツオのまち土佐佐賀」のPRに貢献している。	・黒潮一番館の活用方法検討 ・もどりカツオ祭の継続開催 ・「日戻りカツオ」の活用方法	◆「漁師の味」の提供  ◆新規開発商品の販売体制の構築  ◆黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
35 カツオ文化のまちづくり事業 《黒潮町》	日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることにより、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。	・黒潮町商工会 ・黒潮町 ・高知県漁協	・カツオ新商品の開発及びPRの強化(H21~) ・黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3~) ・マリン・エコラベル・ジャパンの認証取得(H23) ◆産業振興総合補助金(H21、22)や水産奨励交付金制度(町単)等を活用し、施設拡充、商品開発・PR、販路開拓等に取り組んだ結果、町内での商品取扱量やグルメ親子漁師等の認知度の向上につながった。 また、H23からの黒潮一番館の通年営業化や、H25からの水産物直販市開始等が、交流人口の拡大につながっている。 ＜交流人口実績＞ H21:11,044人、H22:11,565人 H23:16,148人、H24:18,061人	・黒潮一番館の活用方法検討 ・もどりカツオ祭の継続開催 ・「日戻りカツオ」の活用方法	◆新商品の開発及び「漁師の味」の提供  ◆新商品等の販売体制の構築  ◆黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化

修正後



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
「漁師の味」の提供					→	交流人口 (H19:8,700人) (H22:12,000人)	16,000人
「漁師の味」を提供する町内飲食店の周知							
新規開発商品の販売体制の構築					→		
商品開発(カツオコロッケ、ハランボ焼き)・販売体制の推進							
黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化					→		
ブランド化に向けた取組(MELジャパン認証を活用した販売促進)							



第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
新商品の開発及び「漁師の味」の提供					→	交流人口 (H19:8,700人) (H22:12,000人)	18,000人
<ul style="list-style-type: none"> <li>新商品の開発</li> <li>「漁師の味」を提供する町内飲食店の周知</li> </ul>							
町内関連事業者等との連携・協議							
新商品等の販売体制の構築					→		
新商品等の販売促進のための取組み推進							
黒潮町に水揚げされたカツオのブランド化					→		
ブランド化に向けた取組(MELジャパン認証を活用した販売促進)							

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 ＜黒潮町＞	地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。	・黒潮町			◆運営体制の構築  ◆地域資源活用総合交流促進施設整備(農林水産物直売所・飲食施設)  ◆商品開発・販売促進



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
36 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進 ＜黒潮町＞	地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。	・(株)なぶら土佐佐賀 ・黒潮町	・道の駅の整備に向けて、道の駅設立準備委員会施設内容や運営体制を協議、決定 ・道の駅の名義を町内公募 ◆産業振興総合補助金を活用し、道の駅「なぶら土佐佐賀」を整備(H25年度) ◆道の駅の運営母体となる(株)なぶら土佐佐賀を設立(H25年度)(H26年4月オープン予定)	・町内の既存種別施設と連携した観光の促進	◆運営体制の構築  ◆地域資源活用総合交流促進施設整備(農林水産物直売所・飲食施設)  ◆商品開発・販売促進

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
運営体制の構築 仕組みづくりの検討	・運営主体の検討、決定 ・スタッフ育成				雇用者数	正規 1名 パート 7名
地域資源活用総合交流促進施設整備 (農林水産物直売所・飲食施設)	・敷地造成工事 ・建築施設詳細設計					
		商品開発・販売促進 施設運営開始				
		・地域食材を活用した特産品 ・飲食施設提供メニュー ・体験観光メニュー				



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
運営体制の構築 仕組みづくりの検討	・運営主体の検討、決定 ・スタッフ育成				雇用者数	正規 5名 パート 14名
地域資源活用総合交流促進施設整備 (農林水産物直売所・飲食施設)	・敷地造成工事 ・建築施設詳細設計					
		商品開発・販売促進 施設運営開始			売上額	160,000千円
		・地域食材を活用した特産品 ・飲食施設提供メニュー ・体験観光メニュー				

修正項目(案)

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
40 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進 ◀四万十市▶	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「道通型観光からの脱却」と開散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとプロジェクトチーム ・四万十市	・花まつりの通年化(H22~23) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23) ◆道通型観光からの脱却と開散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベントを開催するにあたり、飲食店組合や旅館組合との連携を強化し、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。	・イベントに頼らない誘客の仕組みづくりと観光商品の造成 ・マイカー旅行者をターゲットとした観光拠点の整備	◆四万十川観光拠点整備  ◆地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発  ◆新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入



【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容

修正後

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>四万十川観光拠点整備</p> <p>四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討</p> <p>観光協会と連携した四万十川観光におけるハブ機能の構築</p>					<p>観光商品(体験メニュー)開発数 (H22: 63体験)</p>	<p>100体験</p>	
<p>地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発</p> <p>地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験型メニューなど)の達成</p> <p>新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入</p> <p>広報、セールス、多数受入時の支援</p>							
<p>市場、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ</p> <p>観光商品増による入込客数の増、リピーターの増</p>							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>四万十川観光拠点整備</p> <p>四万十川に訪れた観光客の窓口となる施設の検討</p> <p>観光協会と連携した四万十川観光におけるハブ機能の構築</p>					<p>入込客数 (H21: 95.5万人) (H24: 117万人)</p>	<p>120万人</p>	
<p>地域資源を活用した観光商品(体験型メニューなど)の開発</p> <p>地域住民を交えた新たな資源の発掘、地域の魅力の再確認 地域の食・文化・歴史などを活用した観光商品(体験型メニューなど)の達成 自転車を活用した観光商品の達成</p> <p>新たに開発された観光商品(体験メニューなど)を使った観光客の受入</p> <p>広報、セールス、多数受入時の支援</p>							
<p>市場、ニーズに沿ったプログラムの磨き上げ</p> <p>観光商品増による入込客数の増、リピーターの増</p>							

# 有望素材シート (26年度) (案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	大月町	素材名	ケール、生姜、サツマイモ等
		関連素材	

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;                  実施主体:株式会社大月農園。平成19年6月5日に法人設立。建設業からの異業種参入。                  生産物:ケール(250a×2期作)、大麦若葉(50a)、生姜(100a)、里芋(50a)、サツマイモ(300a)、桑(10a)。                  設立以降、収益の柱となる作物を模索中(生姜、里芋、ケール等)。                  ・産振センターの農商工連携事業化支援事業(土佐清水海洋開発等)を活用し、サツマイモ・生姜を活用した加工食品、菓子類の開発・販売に取り組んでいる。                  ・町内にある飲食店経営事業者と連携し、生姜糖、芋ケンピ、芋の加工品の製造販売等を行っている。</p> <p>&lt;課題&gt;                  ・ケールは、栄養飲料原料用に契約栽培しているため、販路(出荷先)は確保できているものの、一次加工作業(洗浄・乾燥)にかかる手作業が多いことより、コストパフォーマンスが低く利益を生み出せていない。                  また、納入事業者からは、ケール以外の品目(大麦若葉等)の栽培についての打診もあるが、そのためには、ケールの一時加工施設整備による業務効率化をはかることで、他の作物の栽培時間を確保したいという思いがある。</p>
	<p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(短期目標)ケール及び大麦若葉を当法人の収益の柱とするために、ケール及び大麦若葉の一次加工処理(洗浄・乾燥)のオートメーション化をはかり、コスト削減による収益性を向上させる。あわせて、作業効率化による労務軽減分を甘藷・生姜等の他作物の生産及び加工事業に振り分けることで、農業生産法人の経営安定につなげるとともに、町内事業者と連携し、当法人の農作物及び加工品の販売の促進によって地域に波及効果を生み出す。</li> <li>・(長期目標)農業生産を基盤に食品加工分野も含めた事業展開とあわせて、原材料を栽培する町内農家との協力体制や耕作放棄地を利用した自社生産等、地域雇用の確保や地域農業者の所得向上、農地保全につなげていく。</li> </ul>

## 「有望素材」を活かした具体的な取り組み(案)

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	6次産業化推進による地域農業振興事業
	関係市町村名	大月町

事業の概要	ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組むとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組む。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。					
事業主体等	<p>【事業主体】                  農業生産法人 株式会社 大月農園</p> <p>【関係機関】                  (財)大月町ふるさと振興公社、ジェイアンドエムズ、大月町、土佐清水海洋開発(株)、(株)遠藤青汁高知センター</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	[H25]	事業実施 [H26]	1年後 [H27]	2年後 [H28]	以降 [H29以降]
	農産物の生産拡大・販売	農産物の生産拡大・販売(地域の農家との連携、遊休農地活用)				
	農産物加工品の商品開発・製造・販路拡大	生姜・サツマイモ等加工品の商品開発・製造・販路開拓・営業(連携事業者と共に)				
指標・目標	項目	[H25]	事業実施 [H26]	1年後 [H27]	2年後 [H28以降]	
	売上高	(H24:33,138千円) (H25:20,000千円)	30,000千円	35,000千円	39,000千円	
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】                  24年度実績:33,138千円、25年度見込:20,000千円(原因:夏季の高温少雨、秋季の多雨、品目転換過渡期等)                  26年度:ケール出荷額(湯洗、乾燥処理)18,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品2,000千円                  27年度:ケール・大麦出荷額(湯洗、乾燥処理)22,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品3,000千円                  28年度:ケール・大麦出荷額(湯洗、乾燥処理)24,000千円、農産物出荷(生姜等)10,000千円、その他加工品5,000千円</p>				
	【考え方】					

総事業費等	総事業費 (内訳 国: 千円 県: 千円 市町村: 千円 其他: )
	想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 人的支援: その他:
備考	

# 有望素材シート（26年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名 関連素材	宗田節
------	-------	-------------	-----

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>『宗田節』は、生産量全国シェア約8割、生産従事者約300人の土佐清水市の地域経済を支える重要な地場産業である。これまでには主に業務用として流通しその需要に支えられてきたが、食の選択肢の多様化などに伴い宗田節の需要が減少傾向にあることから、近年、一般（末端）消費者をターゲットとした認知度の向上及び消費の拡大に向け、加工品（付加価値商品）の開発・製造・販売にも取り組んでいる。（市の全体的な現状）</p> <p>同社についても平成22年7月の立ち上げ以降、『宗田節』を使った加工品の製造・販売に取り組んでおり、主力商品である『だしが良くでる宗田節』については、現在では月に約2,000~3,000本の出荷量があり、地域の雇用も生まれている。</p>
	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>現状の体制（加工施設（工場）が狭く非効率な生産体制）では製造量に限界があり、かつ衛生面も十分でないため、衛生管理上の理由から販路についても限られている（販路拡大が図れない）状況である。</p>
今後の方向性	<p>現在は、土佐清水市内の店舗やホテル、また、高知市内のホテル、県内のスーパーや土産店が主な取引先（他、引出物用として特別仕様（名入れ・日付入れ）の商品もあり）であるが、個人客をはじめ県外土産店などからも引き合いがあることから、増産体制を整え需要への対応を図る。併せて、衛生管理面の一層の充実を図ることで販路拡大を図る。</p> <p>また、主に個人客を対象としたリピーターづくりや、ブライダル業界への参入にも注力していく。</p> <p>これらの取り組みにより、雇用が見込まれるとともに、販売拡大が図られることから『宗田節』生産者の所得向上にもつなげる。（2020年東京オリンピックでは、日本のだし文化を象徴する土産品となるよう、それも視野に入れた（意識した）取り組みも行う。）</p>

## 「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	土佐清水発！宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業
	関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<p>宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。</p> <p>生産体制を強化し、販路を拡大するため次の事業を実施する。</p>					
	<p>1. 施設・設備等整備事業</p> <p>・クリーンルーム、発送準備室及び容器洗浄室を完備した工場建設    ・洗浄機導入    ・洗浄後容器の保存庫導入</p>					
	<p>2. 販路拡大・販売促進等事業</p> <p>・展示商談会等への参加    ・HPの充実    ・販促PR資材の製作    ・ブライダル等業界への販売ルートの拡大と確立</p>					
	<p>3. 商品開発事業</p> <p>・新商品の開発    ・既存商品の磨き上げ</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>(株) ウェルカムジョン万カンパニー</p>					
	<p>【関係機関】</p> <p>漁業者、宗田節生産（加工）事業者</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	施設改善		施設・設備等の整備			
	販路拡大・販売促進	展示会・商談会等への参加	→	→	→	→
	商品開発				新商品開発等	
指標・目標	項目 (期末：12月末)	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	売上高(千円)		30,000千円	36,000千円	40,000千円	45,000千円
		H24実績：22,000千円				
	【設定根拠】	【推計の考え方】 施設・設備等の整備（製造力の向上及び衛生管理体制の充実）により販売・販路が拡大。				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費	20,000千円	(うち26年度	15,000千円)
	(内訳)	国： 県： 10,000千円	市町村： 其他： 10,000千円)	
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金		
		人的支援：		

# 有望素材シート（26年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	黒潮町	素材名 関連素材	カツオ・黒糖等
------	-----	-------------	---------

現状・課題	<p>黒潮町では、公共事業の縮小や少子・高齢化に伴い、過去10年で市町村総生産が20%減少した。また、2012年、政府より公表された南海トラフ巨大地震による黒潮町の津波高が日本最大の34.4mという想定により、津波リスクを嫌った町民の転出等の震災前過疎が懸念されるなど、地域の振興が喫緊の課題となっている。</p> <p>こうした現状を踏まえ、若者が地元で働くことができる場を増やすため新産業創造プロジェクトを産学官連携で推進している。この第一弾プロジェクトとして、「毎日食べたい非常食」をキーワードとした防災関連食品開発事業として、町単独で防災関連食品工場（ラボラトリー施設）の建設、商品開発を進めている。</p>
今後の方向性	<p>被災地ヒアリングでは、「偏った食事からの健康二次被害」や「アレルギーのために食べられなかった」事例など、災害時の食に関する課題が明らかとなった。こうした調査結果を受け、黒潮町の防災関連食品は、非常時だからこそ普段と変わらず安心して食事を摂取できるための「栄養バランスへの配慮」や「7大アレルギーフリー化」に挑戦する予定であり、既に他の地方自治体や卸問屋、企業等からの問い合わせ等、手ごたえを感じている。</p> <p>こうしたニーズに対応するため、施設整備及び人材育成の他、HACCP導入等による安全・安心な商品を提供できるシステムづくりを推進する。また、事業の推進により、防災関連食品の普及、地域雇用、食材生産者の所得向上につなげていきたい。</p>

## 「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	防災関連新産業創造事業
	関係市町村名	黒潮町

事業の概要	<p>農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外商」を図ることで、雇用機会の創出はもたらん、地域生産者の所得向上につなげていく。</p> <p>※具体的な取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・設備等整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連食品生産施設の整備</li> </ul> </li> <li>2. 販路開拓・販売促進等事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内商談会参加</li> <li>・海外商談会参加</li> </ul> </li> <li>3. 生産の担い手対策等事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連食品普及活動</li> <li>・アレルギーフリー対策</li> <li>・域内調達の推進</li> </ul> </li> </ol>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 黒潮町</p> <p>【関係機関】 黒潮町の設立する第三セクター</p>
-------	--

主な内容・スケジュール	取組手順	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29以降】
	施設整備	事業計画の作成 基本設計 ラボ建築 品質管理体制強化	実施設計 施設・設備等の整備 HACCPによる品質管理	→	→	
体制強化	法人化 資格取得	組織体制の強化 業務の細分化を図る	→	→	→	→
商品開発	商品開発 缶詰50種試作	商品開発	→	→	→	→
販路開拓	防災食普及の推進 国内2社を検討 海外商談（スペイン）	国内商談会参加 海外商談会参加	→	→	→	→

指標・目標	項目	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29以降】
	売上高			32,400千円	74,304千円	85,968千円
【設定根拠】	【推計の考え方】	25年度、施設構想・営業戦略により商品力・販売力を高める。 25年度、提携関係企業との充実による商談。 26年度、施設等の整備により増産体制の充実を図る。 27年度以降、新商品開発等のための製造に関するスタッフの強化				
	【考え方】					

総事業費等	総事業費	300,000千円	(うち25年度 千円)	
	(内訳 国: 県: 市町村: その他: )	県: 50,000	市町村: 250,000	その他: )
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業		
	人的支援:	その他:		



有望素材シート（26年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名 関連素材	地質、地形、生物、生態系、歴史、文化、遺跡
現状・課題	<p>＜現状＞ 当市は、足摺岬をはじめ全国屈指の景勝地に恵まれ、また、地質の博物館とも言われる竜串・見残し海岸を有するなど、美しい自然景観と学術的価値を併せ持った地域である。 足摺岬周辺には、花崗岩台地が隆起と沈降を繰り返してできた断崖や、その上に生い茂る亜熱帯性の植物など自然が織りなす明媚に加え、海岸段丘の一角にストーンサークルと思われる石の配列（唐人駄場）や巨石が林立（唐人石（巨石群））し、太古の巨石文明の名残りではないかと書かれている遺跡がある。また、竜串地区は、約6400万年前から260万年前まで（第三紀層）の砂岩が堆積し形成されたと言われ、大竹小竹・蛙の千匹連など長い歳月の間に風や波によって浸食を受けた自然造形的美しさが楽しめ、水中の堆積物の表面につくられた凹凸がそのまま地層の成層面の上に残された学術上貴重な化石遺跡は地震により隆起した海食台に豊富に見ることができ、足摺宇和海国立公園の代表的な景観となっている。 ほかにも、海蝕洞窟・奇岩群・サンゴ群集・温泉・食・特産品・遺跡・祭り・民話・郷土芸能など、当市には、『大地（ジオ）』を体感できる場所・資源が数多く存在しており、これら資源は官民協働のもと保全しながら、かつ地域学習への活用にも努めている。</p> <p>＜課題＞ ジオパークに関する専門知識の不足（習得）⇒ 専門家（機関）からの指導・助言及び連携・協力体制の構築</p>		
今後の方向性	<p>『日本ジオパーク』の認証に向け、各種組織や団体との連携づくり・体制づくり、また、出前講座や勉強会・研修会等の開催並びに活動の情報発信などを通じて地域の機運・一体感を盛り上げ、ソフト・ハード一体となった受入態勢の整備を図る。 当市が持つ様々な地域の宝を有機的に結びつけ、保全や教育、ツーリズムに利用しながら、地域の持続的な経済発展を目指す。</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大				
	関係市町村名	土佐清水市				
事業の概要	<p>足摺岬（ラバキピ花崗岩）、竜串・見残し（化石遺跡）、唐人駄場（巨石群）等、日本でも貴重な地域資源（地質等）の『日本ジオパーク』の認証に向けた取り組みを進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげるため、次の事業を実施する。</p> <p>1. 推進体制（組織）の構築 ・日本ジオネットワーク準会員加盟 ・構想・計画策定 ・協議会等の設置・運営 ・認証ジオ視察・大会参加等 ・パン等情報発信WEB作成</p> <p>2. 受入態勢の整備（ソフト） ・勉強会・研究会等の開催 ・ジオパーク教材作成 ・ジオパーク養成 ・ジオパーク活用イベント・ツアー実施等</p> <p>3. 受入態勢の整備（ハード） ・ジオパーク資源の調査・発掘 ・拠点施設・ジオパーク案内看板などの基盤整備等</p>					
事業主体等	<p>【事業主体】 土佐清水市、（仮称）足摺・竜串ジオパーク推進協議会</p> <p>【関係機関】 国、県、自然・文化遺産等関係、教育関係、観光関係、地域、市民ボランティア、商工関係、農林水産関係</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	推進体制（組織）の構築	準備委員会立上げ準備等	日本ジオネットワーク準会員加盟 構想・計画策定 準備委員会の設置 認証ジオ視察・大会参加等 パン等情報発信WEB作成	→ 協議会の設置	『日本ジオパーク』認証 協議会の運営	→
	受入態勢の整備（ソフト）		勉強会・研究会等の開催 ジオパーク教材作成	→ ジオパーク養成 ジオパーク活用イベント開催 ツアー実施等	→ → →	→ → →
	受入態勢の整備（ハード）		ジオパーク資源の調査・発掘 拠点施設・ジオパーク案内看板などの基盤整備等	→ →	→	→
指標・目標	項目（期末：12月末）	【H25】	事業実施【H26】	1年後【H27】	2年後【H28】	3年後【H29】
	ジオパークガイド登録者数（人）	-	-	10人	15人	20人
	ジオパーク関係施設入込客数（人）	-	※計画策定後記載	※計画策定後記載	※計画策定後記載	※計画策定後記載
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 指標を2項目設定しているが、当事業の構想及び計画が未策定（ジオパーク関係施設が未確定）という現状であることから、ジオパーク関係施設入込客数については事業効果を評価するうえで必要となる基礎値（ベース）が計れないため、ジオパークガイド登録者数の目標値のみ計上。</p> <p>【考え方】</p>				
総事業費等	<p>総事業費 未確定 千円 （うち 年度 千円） （内訳 国： 県： 市町村： その他： ）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国： 環境省道徳事業・文化庁補助事業 県： 高知県観光拠点等整備事業補助金 人的支援： 活用可能な支援策があればフル活用 その他：</p>					
備考						

